英語コミュニケーション１（TOEIC I）

山田久美子　DYCUS, David C.　他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4．Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25％、宿題25％、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50％

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション２（Listening I）

BROWNING, Jeremy S.　CHAMBERS, Timothy　HARRIS, Richard S.　MCGOLDRICK, Gemma　PUDWILL, Larry A.　REINTSMA, Sharell　太田晶子
CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B.　横関美津紀　間瀬欣英　山田 豊　相川由美　野口朋香　鈴木哲至　山田久美子　他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．ディクテーション
4．シャドーイング
5．短文・長文の暗唱
6．ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25％、宿題25％、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50％

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション３（Listening II）

石橋千鶴子　SUTHONS, Philip　他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4．ディクテーション
5．シャドーイング
6．短文・長文の暗唱
7．ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25％、宿題25％、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50％

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション４（Reading I）

BROWNING, Jeremy S.　CHAMBERS, Timothy　DYCUS, David C.　HARRIS, Richard S.　MCGOLDRICK, Gemma　PUDWILL, Larry A.　REINTSMA, Sharell
CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B.　横関美津紀　間瀬欣英　山田久美子　山田 豊　小沢 茂　相川由美　野口朋香　鈴木哲至　他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

１分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1．社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25％、宿題25％、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50％

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション５（TOEIC II）

横関美津紀　DYCUS，David C．　他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

１．受講生による演習問題への解答
２．授業担当者による問題解説
３．演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
４．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25％、宿題25％、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50％

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション６（Oral Communication I）

SUTHONS，Philip　他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed （i.e. homework）.

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション７（Oral Communication II）

HARRIS，Richard S．　他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed （i.e. homework）.

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション８（Reading II）

二村慎一　HARRIS，Richard S．　他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

１．長文の大意把握
２．語彙力の増強
３．文法事項の整理
４．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25％、宿題25％、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50％

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語演習 I（Writing I）

石橋千鶴子

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングの指導を中心とした英語総合演習。英文の基本であるパラグラフの構成とフォームを理解した後、サマリー・ライティングやレター・ライティングの実践を通して、ライティング運用能力を身につける。

【授業の目標】

ライティングの実践を通して、英文の基本であるパラグラフのフォームと構成の定着をはかり、ライティング運用能力を身につける。

【授業計画】

パラグラフ構成について指導を行った後、英語ビデオ教材を使い、内容把握のための口頭活動を英語で行っていく。最後にサマリー・ライティングで仕上げ、パラグラフ構成の定着を促す。

また、教材として英字新聞記事なども用い、語い・表現の増強と読解力養成をはかり、最後にライティングに発展させる。

【評価方法】

ライティングの課題、平常の勉学状況および期末試験により評価を行う。

【テキスト】

未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

英語演習 II（Writing II）

BROWNING, Jeremy S.

【Course description】

This class is designed to help the student gain greater ability & confidence in written English through the investigation of common themes they encounter in real life. This provides the students with useful English that they can apply to various situations. Examples of these are "my daily activities" (descriptive), "a letter to a friend" (narrative), and "visiting an art museum" (compare & contrast).

【Course objectives】

The objective of this class is to help students develop greater writing proficiency beyond the paragraph level. Students will explore various text types from personal topics to complex writing tasks that require knowledge of rhetorical writing types that they will gain in the class.

【Course schedule】

In the early part of the semester, students will review basic paragraph composition and then make a transition into larger essays that evoke background knowledge. From personal essays of various themes and text types, the students will then engage in more complex writing that is based around rhetorical structures like descriptive, narrative, persuasive and comparative writing.

【Assessment】

Assessment will be based on（1）attendance and participation in classroom activities,（2）homework assignments done in preparation for longer writing assignments, and（3）a mid-term and end-of-term essay on a topic agreed upon by the instructor.

【Textbooks】

"Composition Practice", Book 2 by Linda Lonon Blanton.
Published by Thomson Learning (Heinle & Heinle)

Also, there will be supplementary handouts given to students as well.

英語演習 III（Speech and Presentation）

LEWIS, Paul

【Course description】

This course will teach students how to make presentations and speeches of various kinds, including for business purposes. We wil learn and practice how to make the most of our voice, gesture, and body language. We also learn how to integrate this with audio-visual aids, particularly presentation software. The course will be given mostly in English.

【Course objectives】

By the end of the course, students should be able to:

--use their voices for various forms of presentation
--know how to gather data for a research project
--know how to use PowerPoint to create a slideshow of original research
--give a basic presentation using PowerPoint

【Course schedule】

1～9：Presentation techniques (including PowerPoint)
10～12：Project work; preparing & developing own presentation

【Assessment】

Assessment will be according to: attendance, class participation, project work, practice presentations, and final presentation.

【Textbooks】

TBA

英語演習 IV（Business English）

大鐘洋司郎

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

【授業の目標】

わかりやすく解説された貿易実務の基本と英語の立体的習得を通じて、実務社会に受講生が自信を持って入っていけるようにする。

【授業計画】

第1回　何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
第2回　海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
第3回　信用照会及びその返信
第4回　取引開始申し込み
第5回　ビデオ視聴（内容は下記参照）
第6回　一般取引条件協定書の交換
第7回　基本貿易価格FOB及びCIF
第8回　オファー、価格表及びカウンターオファー
第9回　発注及びその確認
第10回　注文書、売約書の送付
第11回　信用状修正依頼及び受領確認
第12回　船積みに関して
第13回　国際的ブランド等のビジネス常識について（時間次第で実施）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。
授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他　嵯峨野書院　税込　2,625円）
ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」
授業担当者作成資料（プリント教材その他）

コンピュータ入門 I（Word・PowerPoint）

小林久恵　外部講師

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトウェアに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習を通して学習していく。このため、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法について、基礎知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1．Webメールの基本操作
2．インターネットのしくみとマナー
3．Windows基本操作（キー・タイピングを含む）
4．Windows基本操作（記憶媒体の取り扱い）
5．Word基本操作（文字の入力、編集）
6．Word基本操作（文字の装飾、配置）
7．Word基本操作（図形の作成）
8．Word基本操作（表の作成）
9．Word基本操作（その他の機能）
10．プレゼンテーションの概要
11．PowerPoint基本操作（プレゼンテーションの作成）
12．PowerPoint基本操作（プレゼンテーションと資料作成）
13．プレゼンテーション課題制作
14．試験

「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。
なお、「サプリメンタリレッスン（補習授業）」を別途設定する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

コンピュータ入門I 2007年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編.共立出版）

コンピュータ入門 II（Excelと統計処理）

小林久恵　外部講師

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ソフトウェアの技能の習得にとどまらず、加工したデータから特性や規則性を導き出す技法を学習していく。コンピュータ入門Iと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータのしくみおよびデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1．コンピュータの歴史と原理
2．ハードウェアのしくみとソフトウェアの役割
3．情報の表現（２進数、16進数）
4．情報ツールとマナー
5．Excel基本操作（データ入力、編集）
6．Excel基本操作（数式と関数）
7．Excel基本機能（相対参照と絶対参照）
8．Excel基本機能（グラフの作成）
9．Excel統計処理（度数分布とヒストグラム）
10．Excel統計処理（代表値と散布度）
11．Excel統計処理（基準値と偏差値）
12．Excel統計処理（クロス集計の作成）
13．Excel課題制作
14．試験

「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。
なお、「サプリメンタリレッスン（補習授業）」を別途設定する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

コンピュータ入門II 2007年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編.共立出版）

ネットワークリテラシ入門

小林久恵　奥村文徳　原 伸之

【授業の概要】

ネットワークに関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、ホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1．ネットワークの仕組みとその意義
2．情報量と通信速度、プロトコル
3．LANの種類と仕組み
4．サーバの種類と仕組み
5．IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
6．ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7．基本タグの設定、ファイルの管理
8．画像の表示、ハイパーリンクの設定
9．サウンドと動画の再生
10．ホームページ課題制作
11．FTPによるファイル転送
12．セキュリティと情報倫理（コンピュータ・ウイルス）
13．セキュリティと情報倫理（著作権）
14．試験

この授業を履修する上で、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」を併せて履修することが望ましい。
「コンピュータグラフィックス入門」「ユーザ部門管理者コース」「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ（三和義秀著　共立出版）

コンピュータ入門 III（Word/Excel応用・Access）

諸上茂光　小林久恵　宇佐美貴史　奥村文徳　勝野祐子　金澤小夜子

【授業の概要】

コンピュータ入門I、コンピュータ入門IIの学習内容を踏まえ、Windowsの高度操作、Wordによる文書作成の高度操作、Excelによる表計算処理の高度操作を学習する。さらに、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原理や仕組み、特徴についての基本的な知識と技法を習得する。

【授業の目標】

Wordによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びExcelによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1．デスクトップの高度操作
2．ファイルの高度操作
3．ネットワークの操作
4．Wordによる学術文書、ビジネス文書の操作
5．Excelによるビジネス情報処理
6．マクロ操作（Excelデータの加工・集計）
7．マクロ操作（Excelデータの検索・抽出）
8．Accessの概要
9．Accessの基本操作（データベースの設計）
10．Accessの基本操作（テーブルの設計）
11．Access総合演習　（データベースの操作）
12．Access総合演習　（データ集計）
13．まとめ
14．試験

なお、この授業では「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著.近代科学社）

情報演習 I（プレゼンテーション）

宮崎慎也　稲葉 洋

【授業の概要】

ITビジネス社会において今後必然的に要求されると思われる電子文書を利用したプレゼンテーション法について学ぶ。

【授業の目標】

PCプレゼンテーションのスタンダードアプリケーションソフトであるPowerPointをはじめとし、数種類の電子文書デザイン用ソフトを組み合わせた文書作成方法を学び、基礎的なプレゼンテーションの能力を身につける。

【授業計画】

1）文書のビジュアル化
2）レイアウトの原則
3）カラーリング
4）紙面レイアウト
5）デザインの基礎知識
6）PCプレゼンテーション
7）スライドレイアウト
8）効果的なプレゼンテーション
9）テンプレート
10）プレゼンテーションの企画
11）図解の基本技術
12）グラフ、表の利用
13）Webプレゼンテーション

【評価方法】

出席50%、レポート評価50%。

【テキスト】

Webサイト、プリント配布等。

【参考文献・資料】

説得できるプレゼン・図解200の鉄則（日経BP社 ISBN 4-8222-9156-1）
プレゼンテーション用の書籍は多数出ています。上記に限らず中身を比較して自分にあうものを選ぶようにしましょう。

情報演習 II（プログラム応用）

長谷川達也

【授業の概要】

インターネットは世界中の誰もが情報を収集、発信できる画期的な道具です。この授業ではWWWで情報発信するために必要なソフトウェアの知識とプログラミング技術を身につけることを目的としています。初めてホームページを作る人を対象にして、インターネットのしくみとソフトウェア、デジタル画像情報の基礎知識と作成、HTMLを用いるホームページの作成、Javaによるアプレット作成などのアルゴリズムとプログラミングについて学び、最後に学んだプログラミングの知識を応用してホームページ作成の演習を行います。

【授業の目標】

この授業ではWWWで情報発信するために必要なHTML、Javaのアルゴリズムを理解しプログラミング技術を身につけることを目標としています。また初めてホームページを作る人にも理解できるようなわかりやすい授業を目標としています。

【授業計画】

1．インターネットのしくみとソフトウェア
2．デジタル画像情報の基礎知識と作成
3．ホームページのプログラミング（HTML）
4．ホームページのプログラミング（Java）
5．ホームページ作成演習

【評価方法】

出席および提出されたホームページで評価します。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業時にお知らせします。

情報演習 III（統計分析応用）

神田幸治

【授業の概要】

アンケート調査や観察調査、心理学実験などで得られる様々なデータを、コンピュータを使用して効率よく集計、分析し、最終的にレポートとしてまとめるための統計処理テクニックに関する実習を行なう。本授業は、統計処理ソフトウェアSPSSの入門（初歩）コースとして進められる。

【授業の目標】

統計処理ソフトSPSSを使用して、コンピュータを用いた実践的な統計分析に関するセンスと知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

以下よりいくつかの項目をとりあげ、SPSSによるコンピュータ実習を行なう。

1．ガイダンス
2．統計知識確認１：記述統計と推測統計
3．統計知識確認２：統計的検定
4．データ分析の準備をする：図表作成　統計処理ソフトSPSS操作基本
5．データを単純に比較する：平均値の差の検定１
6．データを多要因で比較する：平均値の差の検定２
7．データを度数で比較する：独立性の検定・比率の検定
8．一つの変数からデータを予測する：相関分析・単回帰分析
9．複数の変数からデータを予測する：重回帰分析
10．データを合成する：主成分分析
11．データの背後を探る：因子分析
12．データを分離する：判別分析
13．データを群化する：クラスター分析
14．データを自由に分析する：総合課題

【評価方法】

出席、受講態度並びに課題レポート、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順　第４版（石村貞夫著　東京図書）

【参考文献・資料】

毎回プリントを配布する。

情報演習 IV（シミュレーション）

辻 紘良

【授業の概要】

コンピュータシミュレーションによりいろいろな社会・経済システムの分析が可能である。最近は、情報技術の進展によりパソコンでもシミュレーションが容易にできるようになっている。
ここではシミュレーションの基礎を学習するとともに、パソコンソフトを用いて社会・経済システムのモデル化とシミュレーション分析手法を体験的に学習する。これによりシミュレーションのモデル作成から実行・分析、ならびにマルチメディア表現によるプレゼンテーション（アニメーション）までの一連のプロセスを習得する。

【授業の目標】

1．シミュレーションの基礎を把握するとともに問題解決のための分析方法を体系的に理解する。
2．モデル化と実行・分析まで、事例を通して体験的にシミュレーションを修得する。

【授業計画】

講義の前半は基本的な言語の説明、後半は簡単なモデルの作成と実行。

1．シミュレーションの体験（簡易モデルの作成と実行）
2．モデル化の考え方と言語の基本
3．モデル化　/１　窓口と待ち行列の表現
4．モデル化　/２　リソース（資源）の概念
5．モデル化　/３　グループの概念
6．モデル化　/４　ゲートの概念
7．モデル化　/５　要素の流れの選択や統合・分解
8．事象処理ロジックと制御文
9．マルチメディア表現（アニメーション）
10．出力（統計データ）の見方と感度分析
11．簡易な社会システムモデルの作成と実行

【評価方法】

授業中の課題や期末の課題提出の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Visual SLAMによるシステムシミュレーション（森戸晋他著　共立出版）

情報演習 V（インターネット応用１）

山田雅之　遠藤 守

【授業の概要】
近年のインターネット技術の発展は目覚しく、我々の生活に欠かせないものとなってきている。インターネットを形成する各種要素技術について学習し、正しく理解することはネットワーク社会に生活する我々にとって重要なリテラシーの１つと考えられる。
本講義ではインターネットの基礎となるネットワーク技術のハード・ソフトの構造や仕組みについて学習し、併せてインターネットのこれまでの歴史や現状の把握、さらに将来の可能性や問題点について技術的な観点から考察を行う。また、インターネット分野への応用が著しい携帯電話を代表とする移動体通信についても触れる。

【授業の目標】
インターネット上の各種サービスがどのような要素技術から構成されているかを理解できるレベルを目標とする。

【授業計画】
１．インターネットの歴史と構造
２．インターネットサービス
　・サーバ・クライアントシステム
　・インターネットの各種要素技術
３．移動体通信と情報セキュリティ技術
　・移動体通信
　・電子認証と暗号化通信
４．コミュニケーション技術
　・Ｐ２Ｐ通信
　・電子メールシステム
　・Webスクリプティング技術
５．個人情報発信
　・個人情報と著作権
６．まとめ

【評価方法】
講義の出席状況、レポートおよび提出課題により評価を行う。

【テキスト】
ホームページ上に準備したものを用いる。

【参考文献・資料】
講義中に適宜紹介する。

情報演習 VI（インターネット応用２）

山田雅之　遠藤 守

【授業の概要】
本講義ではインターネットの仕組み、情報セキュリティなどの基礎的な学習から、最近のコミュニケーション手段としての活用方法までを演習を通して理解する。

【授業の目標】
インターネットによるコミュニケーション手段の仕組みを理解するとともに、それらを実際に活用できるレベルを目標とする。

【授業計画】
１．インターネットの仕組み
　・ネットワークのハードウェアおよびソフトウェアの階層構造
　・通信プロトコル
２．情報収集とコンテンツ
　・情報の検索と収集
　・様々なマルチメディアコンテンツ
３．情報セキュリティ
　・通信情報の保護
　・認証技術
４．インターネットによるコミュニケーション
　・チャット
　・電子メール
　・掲示板システム
　・簡易ホームページ作成ツール
５．ホームページの活用
　・グループワーキングによる情報公開
６．まとめ

【評価方法】
講義の出席状況、レポートおよび提出課題により評価を行う。

【テキスト】
ホームページ上に準備したものを用いる。

【参考文献・資料】
講義中に適宜紹介する。

情報演習 VII（システム設計）

吉川和男

【授業の概要】
本授業では、ホームページ上で稼動するチャットシステムの設計・製作とそのシステム利用を通じて、情報システムの設計・開発や管理・運用について学ぶ。先ず情報システムが果たす要件について、システムの目的・機能の面から概要を分析する。その結果に基づいてユーザの視点から見たインターフェース等の設計、さらに、プログラム構成やハード構成などの設計、ソースプログラムの作成等を行なう。演習では、例えば旅行などのホームページ上で稼動し、ホームページの情報も使いながら、チャットで話し合えるシステムを、Java、HTMLを使って作成する。

【授業の目標】
（１）情報システムの設計に関する基本的な考え方､取り組み方を修得する。
（２）基本的なチャットシステム制作を通じて、Java言語の基本を体得する。

【授業計画】
１．システム設計とは
２．システム設計の進め方
３～４．チャットとは（チャットシステムの要件を分析する）
５～６．ユーザの視点からみたチャットシステムのインターフェース設計
７～８．話し手の機能を提供するクライアントやこれらの機能をまとめるサーバ、あるいはそれらをつなぐネットワークなど、システム構成の設計
９～11．サーバやクライアントのプログラム設計・実装
12．チャットシステムとしての動作検証
13．チャットシステムとホームページとの併用状況も含めたシステムの出来栄え、使い 勝手、改良点などの検討
14．チャットシステム維持のための運用管理

【評価方法】
各工程実習で作成するレポート（開発ドキュメント他）と開発したシステムの成果（品質）により評価を行う。

【テキスト】
使用しない（資料配布）

【参考文献・資料】
Javaネットワークプログラミング（幸村剛樹　秀和システム）

情報演習 VIII（情報システム活用）

親松和浩　神田幸治

【授業の概要】
調査・研究でオンライン情報検索システムを活用するために必要な知識と技術を習得する。この授業では、文献・統計データベースからのデータの取得法と、取得データを効果的に利用するための情報の整理・加工法について、基本的な考え方と実践的な技法を学ぶ。

【授業の目標】
調査・研究で必要となるデータの検索と加工、および報告書作成や情報提示に関する基礎概念と技能を習得する。

【授業計画】
次のトピックスについて実習を通じて学ぶ。
１．検索エンジンの活用
２．辞典、翻訳サービスの利用
３．文献検索：蔵書目録（OPAC）、MAGZINE PLUS
４．文献リストの作成と整理法
５．オンラインジャーナル
６．新聞記事、写真のオンラインデータベース
７．白書や総務庁統計局の統計データの利用法
８．数値データの活用法
９．報告書作成の方法
10．情報呈示の方法

【評価方法】
提出課題、報告などを総合的に評価する

【テキスト】
未定

社会学概論

高木眞理子

【授業の概要】
社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会のレベルで、社会を総体的に研究する学問である。授業では、学生の関心と興味を考慮して、現代社会の中心的な課題を分析対象に取り上げる。まず、実証的・相互関連的・生活志向的観点から、その現状・実相を把握する。次に、社会に内在する課題・問題を摘出し、これに検討を加える。最後に、これらの課題を解決・解消するための方策を研究する。さらに、研究手法として、現代社会が絶えず変動を続けている点に着目し、いくつかの変動を選び、これを切り口として、現代社会の実像に迫りたい。さらに、講義を通じて学生の問題解決能力・政策提示能力の涵養をはかりたい。

【授業の目標】
身のまわりの様々な出来事に興味をもち、「社会学」をできる人になりましょう

【授業計画】
大体,以下のトピックを扱ってゆく。授業はレクチャーを主に,ディスカッションを織り交ぜて進めたい。
1．社会
2．行為
3．集団
4．家族
5．逸脱
6．コミュニケーション
7．社会心理
8．宗教
9．ジェンダー
10．日本人のライフコースの特徴

【評価方法】
毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートか試験。
出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。積極的に意見を述べるなど、授業への貢献が求められる。
評価＝出席（25%）　pop quiz（25%）　レポートまたは試験(50%)

【テキスト】
奥井智之著『社会学』（東京大学出版会）

【参考文献・資料】
授業中に紹介する。

現代社会論

石田米和

【授業の概要】
急激に変化する社会環境のなかでの個人の存在や人間関係、家族や組織そして文化や政治、国家、メディアやグローバリゼーションなどについて、基本的に社会学の視点から論じていく。

【授業の目標】
様々な社会的事象を読み解く能力、問題を解決する能力を、社会学などの方法論を用いて獲得すること。

【授業計画】
テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

【評価方法】
レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業内で、適宜紹介する。

家族社会学

金子佳代

【授業の概要】
私たちにとって非常に身近な「家族」を社会的諸条件と関連づけて、客観的に見直す。また、結婚や子育てなどについての意識や欲求が、自分たちの気づかない部分で社会的に形成されることについても考える。

【授業の目標】
家族に対して客観的視点をもち、家族に関する諸事象を多面的にとらえることができるようにする。

【授業計画】
1．家族についての基本的概念
2．配偶者選択と結婚
3．夫婦の人間関係
4．離婚
5．子どもの社会化
6．育児不安
7．女性と職業
8．高齢社会と老親扶養

【評価方法】
定期試験による。授業中に行う小レポートも評価に加える。

【テキスト】
なし。プリントを配布する。

フィールドワーク論 I

谷沢 明

【授業の概要】
フィールドワークとは、現地調査・野外研究のことである。社会の事象を把握し、実証的に解明する手法として、このフィールドワークはきわめて有効な手段となりえる。フィールドワークの三要素は,「あるく・みる・きく」という行為であろう。まずは資料を探訪するために自らの足で歩く。そして物事を自分の目で深く見つめる。さらに地域で暮らす人々の話に謙虚に耳を傾ける。それがフィールドワークの基本である。このようにモノに対峙し、人間の営為と意志を読み取る作業をとおし、本物を見きわめる目と洞察力を養ってほしいと願っている。

【授業の目標】
現地調査・野外研究の多様な手法の基礎を学ぶことを目標とする入門的な内容。

【授業計画】
1．フィールドワークとは何か～あるく・みる・きく～
2．地域の宝探し～好奇心が大切～
3．生活文化遺産を探す
4．景観を読む～ムラの風景から人間の営みをみる～
5．風土と地方色を探る～日本の民家から～
6．日本文化を探る～住まいをとおして～
7．生活文化を探る～居住形式から～
8．伝統美観を守る民芸のまち～岡山県倉敷市～
9．演出された古きまち～岐阜県高山市～
10．水の恵みを活かした地域づくり～岐阜県郡上八幡～
11．八幡堀再生への思い～滋賀県近江八幡～
12．宮本常一のフィールドワーク論～師から学んだもの～
13．宮本常一先生のこと～おもしろいじゃろう～
備考:入門的なフィールドワーク実習への参加希望学生は「フィールドワークI（国内調査実習①・基礎）」を併せて履修してください。

【評価方法】
フィールドワークを伴う中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

フィールドワーク論 II

谷沢 明

【授業の概要】
人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた暮らしの様式と内容を、フィールドワークの視点から考える。内容は、物質文化と精神文化の両面を対象とし、フィールドワークの成果をもとにビデオ等の映像を用いて、具体的かつ分析的にとらえる。とりわけ、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から、地域文化の振興について重点的に扱い、地理・歴史・生活文化の分野を重視した内容を目指す。

【授業の目標】
フィールドワークを通して、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から地域文化の振興について理解することを目標とする中級的内容。

【授業計画】
1．歩くヒント～充実したフィールドワークを～
2．風土と生活文化（1）～沖縄を歩いて～
3．風土と生活文化（2）～竹富島を歩いて～
4．ワインによる地域づくり～北海道池田町～
5．村おこしの元祖～大分県大山町～
6．町並み保存の元祖～長野県木曽郡妻籠宿～
7．伝統工芸を活かす～長野県塩尻市楢川～
8．市街地活性化の元祖～滋賀県長浜市～
9．運河が観光資源に～北海道小樽市～
10．国際観光都市を目指して～北海道函館市～
11．旅の文化史～お伊勢参り～
12．歴史的風土の保全～伝統・文化的環境を開発から守る～
13．地域の個性を活かす～特色ある地域創生～

備考:中級的なフィールドワーク実習への参加希望学生は「フィールドワークII（国内調査実習②）」を併せて履修してください。

【評価方法】
フィールドワークを伴う中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

統計学概論

元吉忠寛

【授業の概要】
行動科学の研究を行うのに必要な統計解析法とその理論について講義します。統計学的な考え方や統計的手法は、実社会においてますますその必要性が大きくなっています。特に、大量の情報があふれる現代社会では、情報処理のツールとして統計学を欠くことはできません。この講義では、データの分析や図表の作成の実習をしながら統計学の基礎について学びます。

【授業の目標】
統計学に関する基本的な知識を学習しながら、パソコンを用いたデータ処理スキルを身につけ、分析方法について理解する。

【授業計画】
1．授業ガイダンス・統計学とは
2．統計データとその分布
3．分布の特徴をあらわす指標（1）
4．分布の特徴をあらわす指標（2）
5．確率分布と標本抽出
6．推定と検定
7．２群間の平均の比較
8．相関関係の分析
9．回帰分析（1）
10．回帰分析（2）
11．分散分析
12．カテゴリー変数の関連分析
13．総合演習
14．まとめ
15．期末試験

【評価方法】
課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
講義中に紹介します。

経済学概論 I

秦 忠夫

【授業の概要】
大学生もすでに経済社会の一員で、「経済」はみなさんの身近なところで動いています。しかし、漠然としていて奥行きが深いため、どういう仕組みで動いているのか大いに興味はあるが理解を深めるてかがりがつかみにくい。そう思っている人が多いのではないでしょうか。経済の動きがわかるようになるためには、まず経済学の基本を一通り勉強し、現実の動きを興味をもってフォローしていくことが大切です。この講義は、経済全体の動きを分析対象とするマクロ経済学の基礎を習得してもらうことを主たるねらいとしていますが、単に理論の説明に終わらず、できるだけ現実の日本経済の動きと関連づけて解説する方針です。
解説がていねいで入門書として最適と思われる下記のテキストを使用して、マクロ経済学の基礎を一通り幅広く勉強します。必要に応じ補足資料を配付します。

【授業の目標】
基本的な経済用語、基礎的な経済理論をしっかり理解し、現実の経済の動きの理解につなげる努力をする。

【授業計画】
1．GDP統計のしくみ
2．消費と貯蓄の理論
3．投資の決定理論
4．マクロ経済における金融の役割
5．貨幣の需要と供給
6．乗数理論とIS-LM分析
7．財政赤字
8．インフレーション
9．失業

【評価方法】
期末試験と小テストの結果を総合して評価します。

【テキスト】
マクロ経済学・入門（第３版）（福田慎一・照山博司著　有斐閣　2,100円）

【参考文献・資料】
授業の際、適宜紹介します

経済学概論 II

園田 正

【授業の概要】
社会は家計と企業によって構成されている。それらを結びつけているのが市場（しじょう）である。ミクロ経済学は、家計、企業、そして市場の働きを理解するための理論、すなわち道具である。この道具を身につけることで、私たちの身の回り経済活動の多くがいとも簡単に理解可能になる。

【授業の目標】
新聞などの経済面を読んで、それを理解し、自らの意見や判断を持てるようになることをこの授業の目標とする。このことで、経済活動についての理解が、就職活動やその後の社会・経済活動に役に立つ実践的知識として活用できる可能性を大きく広げることができる。

【授業計画】
1　経済学の考え方
2　市場の均衡
3　消費者の行動
4　消費の理論（予算制約、消費量の決定）
5　財の分類１
6　財の分類２
7　需要曲線
8　生産要素、生産関数、費用
9　生産量の決定、企業の利益、供給曲線
10　長期平均費用、長期供給曲線、規模の経済
12　不完全競争、独占
13　価格の理論
14　社会的余剰
15　まとめ

【評価方法】
期末試験で評価する。

【テキスト】
初心者のための　やさしい経済学（塚崎公義・山澤光太郎　東洋経済新報社）

【参考文献・資料】
特になし。

社会心理学

石田米和

【授業の概要】
大きく変容する社会経済環境への“適応・不適応”をキーワードにして、人と人、人と社会の間に生ずる様々な現象を解明し、人間や社会の在り方についての洞察力、問題解決能力等を養っていくことを主な目的とする。

【授業の目標】
人と人、人と環境との関わり方について、様々な事例を通して学びつつ、特に若者に欠如している人間関係や社会関係における適応能力を身に付けること。

【授業計画】
テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

【評価方法】
・レポート、定期試験および出席状況、受講態度受講態度、によって評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業内で適宜紹介する。

コミュニケーション論

太田浩司

【授業の概要】
本講義では人間コミュニケーションのプロセスについてさまざまな理論的視点から検討する。言語や非言語を通しての対人コミュニケーションから、近年目覚しい発達をしているメディアテクノロジーを媒介してのコミュニケーションまで様々な形態のコミュニケーションを概観する。

【授業の目標】
本講義の目標は以下の４つである。
1．理論と理論化についての基礎的理解とそれらが学問や毎日の生活で果たす役割の理解
2．コミュニケーション学の根幹を成す理論や概念の理解
3．既存の理論を批判的見地から眺め、一方でそれらを実践的に使用する力を培うこと
4．効果的にコミュニケーションをする力を養成すること

【授業計画】
講義の内容については初回の講義で詳しく説明する（必ず出席すること）が、以下の内容を扱う予定である。
1．コミュニケーションとは
2．言語とコミュニケーション
3．非言語とコミュニケーション
4．組織、グループとコミュニケーション
5．異文化間コミュニケーション
6．テレビの影響
7．メディアテクノロジーとコミュニケーション

【評価方法】
出席、中間レポート、ショートペーパー（１回）、期末試験

【テキスト】
なぜあの人とは話が通じないのか：非・論理コミュニケーション（中西雅之　光文社新書　2005）

【参考文献・資料】
授業にて紹介・配布する。

政治学概論

西尾林太郎

【授業の概要】
政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。
また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、イスラム原理主義および政治指導者について重点的に取り上げたい。

【授業の目標】
現代政治を冷静に観察できる能力を養う。

【授業計画】
1．国内政治と国際政治
　a．戦後世界における国際関係
　b．トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
　c．政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
2．市民社会と大衆社会
　a．市民社会と古典的デモクラシー
　b．大衆社会とマス・デモクラシー
　c．立法国家と行政国家
3．「55年体制」の成立とその崩壊
　a．冷戦構造と55年体制との関連
　b．日本の政治風土-田中角栄の場合
4．政治権力
　a．権力とは何か
　b．リーダーシップ
　c．マス・メディア、シンボル
　d．権力分立
　e．政治家

【評価方法】
評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートと講義資料の持込を許可する。

【テキスト】
使用しない。但し、適宜、講義資料を配布する。

【参考文献・資料】
随時、指示する。

法学概論

大嶽 浩

【授業の概要】
社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされおり、数多くの「法」が日常の生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

【授業の目標】
日常生活において「民法の果たす役割」の重要性を理解すること。

【授業計画】
1．日常生活と法、法律と法
2．公法と私法、民法と法
3．商法と民法、民法典と民法
4．行為能力と法、代理と法
5．法律行為と法、時効制度と法
6．占有と法、所有と法
7．担保物権と法
8．契約と法、保証と法
9．不当利得と法、不法行為と法
10．家族と法
11．相続と法、法と人生

【評価方法】
試験による評価。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

国際情勢論

青島 宏

【授業の概要】

第二次大戦後の国際政治の在り方は冷戦終結により激変し、新しい国際秩序はまだ見えてこない。日本人が今後国際的に活躍するためには、現代の国際社会の流れをできるだけつかんでおく必要がある。半世紀続いた冷戦構造の変化をたどりながら、国際連合など国際機関・組織についての基本的知識を身につけさせるとともに、混迷を続ける冷戦後の国際情勢の読み方を考える。

［ガイダンス］国際情勢を動かす力は経済、政治、その背後にある文化、民族性などがある。地理、風土や歴史などを含めた地政学視点の重要性を述べる。

［国民国家とは］現代の国際情勢を動かす原動力となった国民国家を理解させるために、古代国家から近代の国民国家への成立の歴史でのフランス革命などの意義。

［冷戦構造の始まり］現在の国際関係の基本的構造の源は第二次世界大戦にある。いわゆる冷戦構造とは何か、大戦末期のヤルタでの米、英、ソ連の首脳会談など。

［冷戦構造の変遷］　いわゆるヤルタ体制として冷戦構造が定着する国際情勢の変化を「プラハの春」やハンガリー動乱などとソ連、米国、西欧政治との関わりを解明する。冷戦構造は不変ではなく、デタントなど様々なバリエーションが現れた。ゴルバチョフソ連共産党書記長の登場で冷戦構造の消滅が始まる。東欧の激動に続くベルリンの壁崩壊で冷戦構造消滅は決定的になり、バルト三国独立、ソ連消滅へとつながる。

［冷戦後の世界］冷戦構造消滅により、地域紛争が世界各地で多発している。紛争の性格は地域の歴史的背景によって異なる。湾岸戦争、中東和平への動き、ベルリンの壁崩壊につづいて発生した東欧の変化や、９・11米中枢テロ以後のアフガン問題、イラク戦争などを手掛かりに、新しい国際秩序への動きを考察する。

【授業の目標】

冷戦時代からポスト冷戦へ目まぐるしく展開する国際社会の動きを、その底流から理解する力をそれぞれ身につけさせ、グローバルな活動へのジャンプ力を養う。

【授業計画】

理解を助けるために地図、スライド、写真などを多用する。

【評価方法】

随時実施の小テストによる。

【テキスト】

使用せず。

教育学概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

現代世界は多くの社会問題を抱えている。教育問題はこれらの社会問題の一つであると同時に、これらの有効な解決方法の一つでもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えと解決の試みを教育と社会の連関から考察していく。

【授業の目標】

教育学の基礎知識の習得と現代社会教育課題の理解を通じ、社会と教育の関連に関心を喚起する。

【授業計画】

1．オリエンテーション：教育と教育学
2．教育の思想と歴史：近代以前と近代以後
3．教育制度：各国の教育行政と学校制度
4．教育内容と教育課程
5．教育方法
6．家庭教育としつけ：教育の比較文化
7．社会教育と生涯学習
8．総括：人権としての教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫　放送大学教育振興会）

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ､国際理解教育を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
　（1）近代化への萌芽
　（2）海外視察と帰国後の動向
　（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
　（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
　（1）学校教育における国際理解教育
　（2）在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

ジェンダー論

石田好江

【授業の概要】

近年、ジェンダー（gender）ということばが日常生活においても使われるようになってきた。その意味は「社会・文化的に形成される性」の意味である。人は社会的に期待される役割、意識、行動様式などを生育歴のなかで学習する。その過程で個別社会特有の性別役割を習得してゆく。ここ２０年ほどの間、従来の「男は仕事、女は家事・育児」といった固定的性別分業は流動化し、女性の経済活動、社会活動の幅は広がっている。このような社会変容の背景、法制度の改革などを紹介し、その社会的意味を考える。

【授業の目標】

日本社会におけるジェンダー関係を国内外の統計データなどを元に実態把握する。またその国際基準となる人権規約などを紹介し、ジェンダー概念を正確に把握する。将来展望として男女平等の社会とは何かについて考える。

【授業計画】

この講座では現代社会におけるジェンダー関係を多様な側面から浮き彫りにする。時事問題をはさみつつ、各項目３回程度講義する。

1）学生の日常意識から探り、その背景にあるジェンダー形成過程を検討する。
2）各種法制の変革、国際条約・規約などにみるジェンダー関係変容を考察する。男女雇用機会均等法の改定による経済活動の変化を国際比較する。
3）社会学的な国内外の統計データで男女差の実態を理解する。
4）現代日本における女性・男性の社会的役割の変容、ジェンダー・アイデンティティとは何かを考える。
5）日本におけるジェンダー関係の将来を展望する。

【評価方法】

期末試験、授業後の感想カード、出席状況、履修態度、などの総合評価による。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

女性学･男性学～ジェンダー論入門-（伊藤、國信他著　2002年刊　有斐閣）

NGO・NPO論

ブイ チ トルン

【授業の概要】
現代社会において、自主的に社会へ参画・行動する市民が増えている。NPO活動は地域社会変革を、さらにNGO活動は世界平和・繁栄をもたらす手段として評価されている。今の若い学生にこれらの活動に関する情報、知識、実践例を多く伝え、また開発教育手法を用い社会行動できる人材に育成する。

【授業の目標】
＊ ボランティアとNGOとNPOとの相違を理解すること
＊ 日本のNPO/NGO活動の特徴を理解すること
＊ 日本社会におけるNPO/NGOの役割、課題、展望を理解すること

【授業計画】
1．NPO総論：
　1）NPOとは？ボランティアとNPOとの相違
　2）世界・日本のNPO活動の潮流
2．NPO各論：
　1）NPO法の成立とその内容
　2）企業とNPO
　3）政府・地方自治体とNPO
　4）NPOの中間支援組織
　5）NPOで働く人々
　6）日本社会におけるNPOの役割、現状、課題、展望
3．NGO総論：
　1）NGOとは？国際交流と国際協力
　2）世界・日本のNGO活動の潮流
4．NGO各論：
　1）＊国連とNGO　＊環境とNGO　＊女性とNGO　＊教育とNGO
　　＊開発とNGO　＊在住外国人とNGO　＊その他
　2）政府・自治体とNGO
　3）日本のNGOの役割、課題とその展望

【評価方法】
出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】
授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】
授業初回に指示する。

都市環境デザイン概論

垂井洋蔵　河辺泰宏　日色真帆　清水裕二　齋藤基之　岡本晴彦

【授業の概要】
都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明する。この講義を通して都市環境デザインの全体像とそのひろがりを理解するとともに、建築と都市に関する今日的テーマについてその一端を紹介する。
一級建築士受験資格の取得を目指している人には、本科目は必修科目であるので、必ず受講すること。

【授業の目標】
現代の建築、都市をとりまくさまざまな学問分野の体系を知る。将来自らが建築を通して何を学ぶかの方向を見いだす。

【授業計画】
６名の教員で担当し、それぞれが専門とする分野から、基本的で、興味深い話題を提供する。
街づくり、オフィスデザイン、インテリアデザイン、室内環境、現代都市建築、都市の防災、歴史的建造物の維持・再生、立体的に複雑な都市空間等のトピックスを取り上げる予定である。
講義を中心とするが、テーマによっては、学生からの発表をもとに議論する。

【評価方法】
各担当教員による授業期間中の小レポートと、期末に課題に従って提出するレポート、および出席状況を総合して評価する。

【テキスト】
なし。随時、プリント教材を配布する。

【参考文献・資料】
講義のなかで各担当教員から提示されます。

生活環境学

渥美正子

【授業の概要】
住まいを取り巻く社会環境の変化は、住宅・住環境面に対して様々な問題を提起し、従来の住み方を見直す要因となっている。高齢社会の進行、高度情報化社会の到来、人工的室内環境、家族・ライフスタイルの多様化、地域コミュニティへの無関心など、住生活に関わる今日的問題を客観的に把握し、健康で文化的な住まいの実現に向けての問題解決の視点を考察していく。

【授業の目標】
生活の質を高めるために、生活者としてどのような対応が求められているのかについて理解すること。

【授業計画】
1．家族・ライフスタイルの多様化と住まい
　家族の形態・機能・関係・役割が変容するなかで、住宅・居住地に対して、新たにどのような機能が求められているのかを考える。
2．高齢社会と住まい
　急速な高齢化が進むなかで、高齢者が人間としての尊厳を守ることのできる住宅・居住地のあり方を考える。在宅福祉の基盤となる住まいをどのように改善するのか、新しい高齢者居住のかたちについても論じる。
3．子どもと住まい
　子どもは自らの意思で住環境を選択できないため、健全な発達を保障する住環境を、子どもの視点にたって整えることは親や大人の責任である。子ども部屋のあり方、高層居住と子ども等について考える。
4．健康と住まい
　住宅建材が健康に及ぼす影響が社会問題となっている。今なぜ、住まいと健康をめぐる議論が活発化してきたのかを、主に住み手の生活スタイルから考える。
5．住まいとモノ
　限られた住空間がモノに占領され、住み手の生活が制約されている現状がある。生活者として、住まいとモノとの関わりをいかに考えていくかについて考える。

【評価方法】
試験とレポートによって行う。

【テキスト】
プリント配布。

【参考文献・資料】
授業にて指示する。

歴史学 Ⅰ（日本史）

岩口和正

【授業の概要】

今、日本社会は様々な分野で、かつてない「国際化」の波に洗われています。また、近年の国際政治の場でも、日本の「歴史問題」がしきりに問いかけられています。これらのことは、ややもすれ孤立的に理解されがちな日本の社会・文化の歴史をあらためて国際的な視野から見直すことを私たちに求めています。そこで、問題の重要性の割には取り上げられることも少なく、また、あまり広く知られているとも言い難い日本の国際社会との関係の歴史を、それぞれの時代の特徴を踏まえながら概観したいと思います。

【授業の目標】

1）明治維新以来の日本近代国家のアジア認識と現代のそれとの関係について考える。
2）前近代における東アジアの国際関係の特徴について理解する。
3）歴史史料に親しむ。

【授業計画】

1）近代日本のアジア認識　＜征韓論と江華島事件＞
2）鎖国時代の日本と朝鮮　＜朝鮮通信使と国書偽造事件＞
3）秀吉の朝鮮出兵
4）室町将軍と中国皇帝・朝鮮国王　＜交隣と事大＞
5）高麗王国と日本朝廷
6）蕃国としての新羅・渤海
7）蒙古襲来と宋人来着
8）遣隋使と遣唐使　＜大唐皇帝と日本天皇＞
9）前近代日本国家の国際認識の特徴

【評価方法】

期末テストによって成績評価をします。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

各時間毎に必要史料を配布します。
参考文献は最初の講義で紹介します。

歴史学 Ⅱ（世界史）

北村陽子

【授業の概要】

社会主義の実験が破綻し、ヨーロッパの国々が再編されてから10年余りが経過した。その間に、そもそも現代社会の基礎となるべきヨーロッパの近代とは何であったのか、ということが絶えず問いかけられてきた。本講義では、現在の激変の基盤ともなるヨーロッパの近代に焦点を当て、個別の国家の変動と、それらが相互にどのように影響しあって国際社会を形成していったのかについて理解を深める。

【授業の目標】

近代のヨーロッパは、ヨーロッパ地域に限らず、世界中の地域に政治的経済的文化的に関わり、影響を与えてきた。そのヨーロッパ諸国における変動を学ぶことを通して、現在世界の諸地域で生じている問題群をより深く考察できるようになってほしい。

【授業計画】

1．はじめに　歴史を学ぶことの意義と現代社会の理解について
2．絶対主義の時代
（1）イギリス、フランスの絶対主義
（2）プロイセン、オーストリアの絶対主義
3．市民革命の時代
（1）イギリスの二つの革命
（2）アメリカ独立革命
（3）フランス革命
（4）ウィーン体制とラテン・アメリカ諸国の独立
（5）一八四八年革命
4．ナショナリズムの時代
（1）ドイツとイタリアの統一
（2）帝国主義の拡大と植民地争奪
（3）第一次世界大戦
5．おわりに　現代の幕開け－大衆民主主義社会の到来

【評価方法】

定期試験と出席から綜合的に評価する。

【テキスト】

西洋の歴史(近現代編)（大下尚一編著　ミネルヴァ書房 1998）

【参考文献・資料】

ヨーロッパの歴史（樺山紘一　放送大学教育振興会 2001）
歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ（谷川稔編　山川出版社 2003）
近代ヨーロッパ史（福井憲彦　放送大学教育振興会 2005）
そのほか講義中に適宜指示する。

地理学

林 上

【授業の概要】

日本では近年、少子・高齢化がいくつかの先進国と同様社会問題となり、近い将来には総人口が減少すると予測されている。他方では過大な年少人口を抱え、人口増加に悩む開発途上国も少なくない。また、国内人口における「過密」と「過疎」の不均衡分布は先進国、開発途上国に共通する現代的課題である。講義ではそのよってきたる要因を探り、問題点を整理・解説する。
なお、高校での「地理」未習者向けに、毎回の講義の冒頭20分ほどを基本的な地理学用語の解説に当てる。

【授業の目標】

都市を中心として繰り広げられている人間活動にとって，交通ほど重要な役割を担うものはそう多くない。毎日繰り返される通勤，通学，購買行動から国際貿易に至るまで，幅広いスケールで多様な交通現象が観察される。そのどれを取り上げても，人間活動が成り立つために不可欠な営みであり，それゆえに多くの関心が注がれる対象にもなっている。極端な言い方をすれば，人間活動はすべて動いていることで現在の姿を保っている。たとえ空間的には大きく移動しなくても，事業所や家庭の中で人びとはたえず動き回っている。こうした動きを「ミクロな交通」と見なせば，人間活動はすべて何らかの移動をともなって行われていると言っても，あながち言い過ぎではないであろう。
交通現象に関心を寄せるのは，地理学をはじめとする地域研究だけではない。工学，都市計画，経済学，経営学など交通にとってはむしろよりプロパーな学問があり，専門的観点から研究が行われてきた。これらの学問は，交通それ自体の発展を技術的あるいは制度的に支える役割を果たしている。交通を対象とした地理学的研究はそのような立場からはやや距離をおき，交通と関わりをもつ主体の振る舞い，あるいは社会，経済，文化など背景となる地域性と交通との関係性に注目する。地理学では交通現象と地域構造の間には相互作用関係があると考えており，一方が他方に対してどのように働きかけ，また逆に影響を受けるかを明らかにする。

【授業計画】

1）　交通現象の空間特性とその把握
2）　交通の歴史的発展と都市構造の形成
3）　都市形態・土地利用と都市の空間構造モデル
4）　交通システム，ネットワークと交通需給
5）　交通ネットワークのグラフ表現と近接性
6）　交通手段の特性と連携および輸送の専門化
7）　新しい交通システムの開発・事業化と課題
8）　交通結節点と駅・港湾・空港の立地
9）　経済立地に影響を与える交通要因
10）　国際貿易と生産・物流の管理システム
11）　交通の環境への影響と交通エネルギー
12）　交通政策・計画と交通需要の予測・抑制
13）　都市と交通の未来

【評価方法】

レポート作成と定期試験による

【テキスト】

都市交通地域論（林　上著　原書房）

【参考文献・資料】

現代都市地域論（林　上著　原書房）
都市サービス地域論（林　上著　原書房）

地誌学

林 上

【授業の概要】

イギリスとアメリカ合衆国はともに幕末以来、日本の近代化に大きな影響を及ぼした国であったし、今も日本とは多方面にわたって密接な関係にあるが、国内がきわめて地域性に富むことは日本では無視されることが多い。本講義は２国の風土・人口・産業・農村・都市の態様を、日本のそれと比較しながら紹介・考察し、両国に関する地理的理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

欧米、日本を主な対象として、社会、経済、文化などの人文活動がどのように営まれているかに注目し、その実態を明らかにする。そのうえで、実態の背後にある地域的あるいは空間的な要因に目を向け、それらがどのように作用して現象を左右しているかに迫る。主たる対象はイギリス、アメリカ、カナダ、日本であるため、アングロサクソン系の社会と日本社会が対照的に取り扱われることになる。同じ北アメリカでも、カナダとアメリカでは歴史、風土、国民性がかなり違っており、こうした相違点が何に由来するかを究明する。

【授業計画】

1）　都市地域の形成・変化と地域把握の視点
2）　都市の土地利用と都市景観の社会性
3）　イギリスにおける都市計画と都市政策
4）　アメリカ合衆国におけるニューコミュニティ
5）　モータリゼーションの進展と都市地域
6）　グローバル経済化と先進諸国の都市システム
7）　イギリス、アメリカ、日本の世界都市
8）　イギリス、日本におけるサービス供給
9）　アメリカにおけるコミュニティ研究
10）　欧米都市におけるインナーシティ
11）　欧米都市における都市再生の動向
12）　日本の国土計画と都市政策
13）　欧米、日本における都市問題の解決

【評価方法】

レポート作成と定期試験

【テキスト】

現代都市地域論（林　上著　原書房）

【参考文献・資料】

都市経済地理学（林　上著　原書房）
現代カナダの都市地域構造（林　上著　原書房）
都市サービス地域論（林　上著　原書房）

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】
なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】
日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】
1．民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】
中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

都市社会論

安藤純子

【授業の概要】
私たちは複雑な現代社会の潮流の中で日々の生活を送っている。そのような社会がどのような構造をもち、私たちとどのような関連があるかについてさまざまな分野で研究されてきている。都市社会論では、特に都市に焦点を当て、社会学的視点から、都市社会特有の構造や人間関係などについて、これまでの主要な理論をふまえ、今日主として扱われている研究テーマ等について学習していく。

【授業の目標】
都市社会論では、都市社会学の古典理論から現代理論までの学習を通じて、今日の都市社会の社会構造について把握することを授業の目的とする。

【授業計画】
1　イントロダクション
2　都市社会学の歴史１
3　都市社会学の歴史２
4　シカゴ学派の都市社会学１
5　シカゴ学派の都市社会学２
6　日本の都市社会学１
7　日本の都市社会学２
8　ネットワーク研究１
9　ネットワーク研究２
10　今日の都市問題１
11　今日の都市問題２
12　まとめ

【評価方法】
定期試験および出席状況による評価を行う。

【テキスト】
特になし。参考文献は授業中に適宜紹介する。

食文化論

千葉善根

【授業の概要】
人間が生活している所には食物があり、その地域、その国において長い歴史を経た独特の食品を作り出した。これらは人間と人間との交わりをとおして生活に結びつき、農耕文化や牧畜文化をつくり、交易・信仰・戦争などとのかかわりをもって広がり定着したものである。わが国の食文化としてどのようにして受け入れられ、変化をしてきたか歴史・生活・文化をとおして考えるとともに多用な食文化に対する理解の道を探る。
1．日本の食文化形成要因と食生活の変化について
2．米食文化について
3．麦食文化について
4．乳食文化について
5．肉食文化について
6．その他

【授業の目標】
日本の食は外国渡来のものも数多い。これらを含め、各食品のルーツ、歴史、日本人の生活との関わりを理解する。

【授業計画】
講義形式　VTRを数回使用する。

【評価方法】
リポートおよび授業内小テスト。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
講義中に紹介

消費者行動論

石田好江

【授業の概要】
「必要」の限界を超えることができた経済は、いま資源や環境など新しい限界に直面している。経済学の理論が資源・環境制約を理論に組み込まなければならないだけでなく、企業にとっても生き残るために、いまや企業利益と消費者利益の両立が重要な課題になっている。本講では、そうした社会経済の変化を踏まえながら、消費行動・消費者行動の変化とその方向性をさぐってみたい。

【授業の目標】
消費行動及び消費者行動を規定する経済学的・心理学的・社会学的要因について理解するとともに、人間行動を理論的・科学的に捉える力を身につける。

【授業計画】
1．消費社会とは何か
2．消費行動決定に関わる経済的要因
　価格と消費行動
　所得と消費行動
3．消費者行動決定に関わる内的要因と外部環境要因
　消費者行動と知覚・動機付け、態度変容、関与、パーソナリティ
　消費者行動と準拠集団、状況要因
　消費者行動とマーケティング

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつかを選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】
成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて適宜紹介する。

日本経済論

竹村 弘

【授業の概要】
わが国は、「バブル経済」崩壊以降、平成の「10年代不況」から「2000年デフレ」へとかってない長期不況が継続し、相次ぐ大型企業倒産、金融再編、リストラ・失業など、深刻な社会問題が生じていています。「超氷河期」と言われて久しい就職難は、改善の兆しも見られません。「ついていない」「運が悪い」ということではなく、「なぜだ」「なにが悪かったか」「これからどうなるか」を考えましょう。

【授業の目標】
経済政策の基本課題を理解した上で、わが国経済を構成する諸要因について、欧米先進国と比較し、過去を統計的にトレースすることにより、現在の日本経済の実態を認識し、今後の日本経済を展望する。

【授業計画】
1．経済の原点：経済政策の基本課題を、経済の原点に立ち戻って考える。
2．相次ぐ大型企業倒産：「バブル経済」崩壊以降、大型企業倒産が相次いでいるが、資産デフレに起因する不良資産・不良債権の発生に加え、それぞれ独自の原因があるので、それらの事例を紹介する。
3．日本の見当識：わが国の経済社会指標を欧米先進５か国と比較することにより、「経済大国・日本」「生活小国・日本」の実態を認識し、次いで「日本の百年」を統計的にトレースすることにより、わが国経済が現在歴史的な転換期にあること理解し、さらに今後21世紀の日本経済を展望する。
4．経済指標の見方：わが国経済を正しく理解するためには、経済指標の理解が必要である。国内総生産、国際収支、為替、物価、雇用指標など、主要な経済指標について解説する。
5．バブル経済と平成の『10年大不況』：「バブル経済」の形成は、対外バランスに気をとられた極端な金融緩和政策と目いっぱいの財政出動に起因し、その崩壊は慎重さを欠く金融引き締め政策・地価規制政策によるものである。その後も不適切な経済運営が繰り返され、「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続した。2005年度に至って、ようやく諸々の構造改革の効果が現れて、デフレ脱却・プラス成長路線に転じた。

【評価方法】
毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】
配付プリント。

【参考文献・資料】
講義の中で提示する。

産業・組織心理学

榊原國城

【授業の概要】
この講義では、会社や役所、あるいはその他の団体などの組織における人間の職務遂行行動や対人関係に影響を及ぼす心理学的要因を明らかにしていくことを目指す。その際、人間（集団を含む）の行動を、行動主体とそれをとりまく組織的環境との相互依存関係としてとらえる。したがって、この講義では、組織で働く人間の能力や意識・行動が、人間の置かれた外的環境（仕事、他者、集団、組織構造など）との相互作用過程において、主たるテーマになる。以上の視点に基づいて、最近の研究動向を踏まえて、新たな産業社会を展望する。

【授業の目標】
この授業の目標は、応用心理学の象徴的存在である産業心理学発展の推移と最近の組織心理学研究の動向を理解することである。

【授業計画】
1．産業心理学の発展
2．科学的管理法とホーソン研究
3．職業選択と職業適応
4．適性とパーソナリティ・アセスメント
5．動機づけと職務満足
6．組織の機能
7．組織における人間観の変遷

【評価方法】
期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の３分の１以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】
人と組織の心理学（榊原國城著　1999　文教資料協会 定価 2,048円）

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

経済交流史

清水 洋

【授業の概要】
本講義では、19世紀末から今日に至るまでの日本とアジア（とりわけ東南アジア）の経済交流を、移民・通商・金融・直接投資・政府開発援助などの側面から体系的に考察し、アジアに関する理解を深めることを意図する。明治以降、我が国は「脱亜入欧」を重視し、欧米の工業諸国を手本としてきたため、アジアにあまり目を向けてこなかった。しかし、1960年代以降、一部のアジア諸国が積極的な外資の導入によって新興工業国として台頭する一方、中国は78年以降大胆な経済改革と対外開放政策によって急速な経済発展を達成しており、日本でも近年アジアへの関心がとくに高まっている。このような時期に、日本とアジアの経済交流史を学ぶことはとりわけ意義があると思われる。

【授業の目標】
アジアにおける日本の経済活動の諸相に関する専門知識を身につける。

【授業計画】
講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。

1）東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
2）アジアにおける日本人移民の経済活動－からゆきさん先導型経済進出
3）アジア内貿易ネットワーク：神戸・横浜の華僑商人とインド人商人
4）戦前期シンガポールにおける日本人漁業
5）太平洋戦争期の東南アジアにおける日本の経済活動
6）戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
7）東南アジアの経済発展における日本の役割－直接投資、観光、FTA等

【評価方法】
定期試験が主体となるが、レポートや受講態度等も考慮にいれる。

【テキスト】
からゆきさんと経済進出－世界経済のなかのシンガポール・日本関係史（清水洋・平川均共著　コモンズ）

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

国際金融論

秦 忠夫

【授業の概要】
国際間の経済取引は経常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引に大別されますが、いずれの面でも取引の自由化が進んで世界経済は相互依存関係を深めています。こうした動きのなかで、世界の共通通貨が存在しない今日、国際経済取引の決済にあたっては異種通貨の交換（例えば円とドル）が必要となり、その交換比率（為替相場）が変動すると個々の取引が影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及びます。実際、変動相場制と呼ばれる現在の国際通貨制度のもとでは、為替相場の変動が激しく、世界経済の成長が時として攪乱されています。この授業は、世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとしています。

【授業の目標】
基本的な経済・金融用語や基礎的な理論をしっかり理解し、現実の経済・金融の動きの理解に結びつける努力をする。

【授業計画】
（1）外国為替取引のしくみと実態（外国為替のしくみと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手法）
（2）マクロ経済分析の視点から通貨問題を理解するための基礎知識（国際収支のしくみ、為替相場と国際収支、為替相場の決定理論）
（3）国際通貨制度の歴史と現状（国際通貨制度のしくみ、国際通貨制度の変遷、ヨーロッパの通貨統合、国際通貨制度改革、円の国際化）

【評価方法】
節目で小テスト実施。
期末試験と小テストを総合して評価。

【テキスト】
国際金融のしくみ（新版）（秦忠夫・本田敬吉著　有斐閣　1,900円）

【参考文献・資料】
授業の際、適宜紹介。

日本政治外交史

西尾林太郎

【授業の概要】

「19世紀後半から1920年代にかけての日本の政治外交」

日本における近代国家の成立とその展開過程について、政治・外交を中心に理解すると共に、現代日本の政治・外交や社会を考察する視点を形成することを目的とする。

【授業の目標】

国際的視野で日本の近代国家の成立とその展開について理解する。

【授業計画】

1．徳川幕藩体制と幕末維新の政治と外交
　a　近世の徳川幕藩体制下の政治システムや社会のルール。
　b　鎖国下における最大の友好国は李氏朝鮮であった。
　c　沖縄の廃藩置県は明治12年＝1879年であった。
2．明治憲法体制の成立とその外交
　a　憲法制定に向けての動きが明治１ケタ代にすでに始まっていた。
　b　大日本帝国憲法と教育勅語。
　c　朝鮮半島をめぐる日清、日露間の対立。
　d　政友会の成立。
　e　日露戦争が、明治憲法体制における”民主化”を促進した？
　f　欧米列強の了解のもとで韓国併合がなされた。

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験は自筆ノートと教科書の持込を許可する。コピーは持込不可。

【テキスト】

新詳日本史図説（浜島書店　800円）（後半の約三分の一を主に使用する）。

【参考文献・資料】

随時、紹介する。

国際コミュニケーションズ

石橋千鶴子

【授業の概要】

＜多文化・多言語社会のコミュニケーション＞

世界的に多文化化が進む中で、共生を目指していくためには、まず意思の疎通をはかることが求められる。そして、そのためには、それぞれの異なる文化とそれに根ざした多様な価値観や発想があることを理解し、認識を深めなければならない。多文化共生社会としてアメリカを例に取り、その多様性を具体的に考察していく。

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、異質なものに対する柔軟な視点を養っていって欲しい。

【授業計画】

英文テキストおよび英字新聞・日本語新聞記事の講読、ビデオ視聴を通して、アメリカの多文化・多民族状況を考察する：

Irish Americans,
Chinese Americans,
Indian Americans,
African Americans,
Japanese Americans,
Mexican Americans,
Arab Americans,

などのエスニック・マイノリティーズに焦点を当て、それぞれが辿ったアメリカ社会への定着の経緯、直面してきた問題、今後の課題などを考える。そこから、多文化社会を形づくる多様な人々・多様な文化の存在を知り、その中でいかにしてコミュニケーションをはかり共生のみちを目指していくかを考える。

【評価方法】

期末試験および平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキスト未定。英字新聞記事のコピーなどは、授業で配布する。

ツーリズム論

安藤典子

【授業の概要】

旅行図書からみたツーリズムの変遷、JTB旅行編集者の仕事について。実際に携わってきた国内の旅行図書、るるぶ情報版、月刊誌『旅』、単行本などの編集実務、また、担当した向田邦子氏や嵐山光三郎氏はじめ作家、評論家、写真家など「十人十色」の旅のスタイルを紹介し、旅の多様性を考える

【授業の目標】

ツーリズムの多様性と具体的な旅行図書の編集業務について概要を学ぶ

【授業計画】

1）旅行関連図書からみた観光の変遷。現在の観光業界の状況
2）『るるぶ情報版』の編集実務。企画から取材、編集、営業まで
3）テーマ物の図書、特に温泉の概要
4）月刊誌『旅』の編集
5）作家・向田邦子、嵐山光三郎、評論家・池内紀、川本三郎など、それぞれの旅のスタイルを考える
6）森と水の評論家・富山和子、カヌーイスト・野田知佑を例に「水」「川」の環境を考える
7）単行本、写真集や画文集などの編集実務。特に日本画家・堀文子の生き方と旅について
8）阿川弘之、宮脇俊三、田中小実昌、西江雅之、奥本大三郎自選集の編集、紀行文について
9）町おこしなど、観光の未来と情報発信

【評価方法】

試験

【テキスト】

『るるぶ情報版』と配布資料をテキストとする

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

路上観察論

岡本信也

【授業の概要】

現代都市の生活や風俗を観察し、その記録採集した事柄から私たちの暮らしを考える。種々の現象のとらえ方とその視点を学ぶ、楽しい講座である。

【授業の目標】

町や村を見て歩いて、さまざまな現象にめぐり会う。「発見のよろこび」を感じつつ、フィールドワークによって世界認識を広げ、深めることができるようにしたい。

【授業計画】

1　現代都市におけるフィールドワークとは
2　路上観察学と考現学とのつながりについて
3　身辺の道具からの観察・食風俗をめぐって
4　身辺の道具からの観察・衣風俗をめぐって
5　身辺の道具からの観察・住まいの風俗から
6　身辺保持する物とその作用
7　用のモデル・無用物と転用物の意味
8　身辺の道具を分析する（その１）
9　分析表づくりから考える（その２）
10　身近な環境をフィールドワークする
11　生活領域地図をつくる
12　観察の視点と採集法・カード採集づくり
13　地域分布図を読む
14　定点観察について

【評価方法】

レポートを中心に、簡単なテストを行なう。

【テキスト】

未定（使わないつもり）

【参考文献・資料】

超日常観察記、路上観察学入門、考現学入門。

エスニシティー論

藤井麻湖

【授業の概要】

エスニシティとは、一般に、民族に関わる領域を指す概念として捉えられています。その定義はともかく、現在、世界で民族紛争や民族問題といった民族をめぐる問題が多発しており、現代に生きる地球人として、民族に関する考え方を整理しておきたいものです。たとえばイラク戦争における民族をめぐる問題とは何なのか、その民族とは宗教（スンナ派やシーア派）とどのように関連しているのか、その地域の歴史はどうなのか、といった事柄です。

【授業の目標】

民族を考える視野を広げること、これがこの授業での目標です。

【授業計画】

1）民族と国家のイメージを変える
2）イラク問題をエスニシティ論から考える（1）（2）
3）イラクの前身オスマン帝国における民族政策（1）（2）
4）イラクの前身オスマン帝国における民族政策
5）オスマン帝国の民族と国家－映画『アラビアのロレンス』（1）（2）
6）民族動因の条件－イラクとベルギーの場合
7）多文化主義の陥穽－オランダの場合
8）個人主義の陥穽－フランスの場合
9）モンゴルのエスニシティ（1）（2）
10）エスニシティ論の理論（1）（2）
11）まとめ

【評価方法】

平常の出席点と期末試験で評価します。

【テキスト】

『イスラーム戦争の時代－暴力の連鎖をどう解くか』内藤正典著
ＮＨＫブックス

組織コミュニケーション論

榊原國城

【授業の概要】

組織コミュニケーションをコミュニケーションの構成要素の観点から整理すれば、組織あるいは組織の成員が、自己に関する情報を、受け手（組織の成員および組織外の人々）のニーズに応える形で体系化し、様々なメディアを通じて伝達する過程であると考えられる。したがって、この講義では、組織コミュニケーションを巡る種々の問題、すなわち、現代社会における組織の機能とコミュニケーションとの関わりの中で生ずる問題を、組織心理学をはじめとする隣接諸科学における基礎的な理論に基づいて分析し、考察する。

【授業の目標】

この授業の目標は、コミュニケーション概念の科学的理解と、組織における人間の多くが直面する種々の問題の発見と改善の糸口を見出す能力の養成である。

【授業計画】

1．コミュニケーションの基本過程
2．組織コミュニケーションのタイプと特色
3．職場のコミュニケーションと人間関係
4．組織成員の役割とコミュニケーション
5．職場におけるストレスとコミュニケーション
6．リーダーシップとコミュニケーション
7．女性のキャリア形成と組織コミュニケーション

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の３分の１以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著　1999　文教資料協会　定価 2,048円）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

地域開発論

竹村 弘

【授業の概要】

従来の「地方開発」は、日本全体の経済産業開発と、中央と地方の経済格差是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致を手段として実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

【授業の目標】

従来の「地方開発」が果たした歴史的役割と今日の「地域開発」の課題を理解したうえで、一人ひとりの市民として自分たちの地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1．地域開発概論：従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、次いで、今日の新しい「地域開発」の課題が何であるかを述べる。
2．地方開発の光と影：地方開発が成功し、大きく発展した地域がある一方で、産業公害の被災地、衰退産業と共に疲弊した地域、農山漁村の過疎化などは、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン、自動車排ガス等の環境問題および東海地震の懸念などは、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。
3．首都機能移転：首都機能移転は、東京の過大・過密、大規模災害対策、東京一極集中の是正、および、わが国経済社会の閉塞状態打破、人心一新の契機などの観点から、国会・行政を中心にその構想が推進されている。中部地域は移転先の有力候補地のひとつである。
4．中部圏のビッグ・プロジェクト及び21世紀ビジョン:「愛知国際博覧会」「中部新国際空港」「リニア中央新幹線」などのビッグ・プロジェクトは、中部地域の重点的な開発整備の大きなチャンスであるが、一方で自然破壊などの批判もある。

【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】

配付プリント。

労働社会論

石田好江

【授業の概要】

労働市場や労働者の就業行動が、人口構成の変化、産業構造、技術革新、国際情勢といった要因からどのよう影響を受け、どう変化してきているかを理解する。また、今日大きな課題である「日本的雇用慣行」の問題や「ジェンダーと労働」の問題についても考える。

【授業の目標】

労働市場や労働政策についての基礎知識を身につけるとともに、労働に関わる社会問題への関心を深める。

【授業計画】

1．「労働」の系譜
2．労働市場
3．賃金・人事制度
4．労働時間
5．ジェンダーと労働
6．雇用構造の多様化
7．日本的雇用慣行の変化
8．高齢社会の労働・労働市場

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつか選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜指示する。

地域福祉論

野田秀孝

【授業の概要】
日本の社会福祉は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革の動きからなる社会福祉法成立、医療法の改定などの医療政策の変動など、大きな変革期を迎えている。また、地方分権、福祉ニーズの多様化と福祉サービス供給主体の多様化、保健・医療・福祉の更なる連携又は統合などを背景に、各自治体における介護保険事業計画から地域福祉計画の策定、苦情処理・解決、第３者評価システムの構築などさまざまな課題はある。また、それらに対応する地域ケアシステムの構築が求められている。
本講義では、上記のような今日的課題を整理しながら、多様で複雑な社会情勢に対応しうる地域福祉の理念と新たな手法、諸外国の動きなども紹介し、地域福祉の魅力を具体的に論じたい。

【授業の目標】
わかりやすく『福祉』を解説し、『地位福祉』を理解することからはじめ、一般社会の中での『福祉』さらには『地域福祉』の位置について学んでいくことを目標とする。

【授業計画】
講義方式による。
１講義の概要　地域福祉の理念
２現代社会における家族とコミュニティ
３地域福祉の歴史
４地域福祉の国際的動向
５地域福祉の概念と厚生
６地域福祉の公私関係と共同の開発
７在宅福祉のサービス供給と展開
８居住福祉と福祉環境作り
９地域福祉の運営と主体形成
10地域福祉の実践実態形成
11住民参加による地域福祉計画づくり
12地域福祉の人材養成
13まとめ

【評価方法】
筆記試験
毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う
出席調査時に質問・感想などを提出させる。これを成績評価に反映する

【テキスト】
新時代の地域福祉を学ぶ（野口定久編集　（株）みらい）

【参考文献・資料】
厚生労働白書

国際経済論

秦　忠夫

【授業の概要】
グローバリゼーションの進展とともに世界経済の相互依存関係が深まるなかで「国際経済論」のテーマも広がりつつあるが、本講義では国際貿易の問題に焦点を絞って世界経済の結びつきと問題点を勉強したいと考える。

【授業の目標】
基本的な経済用語や基礎的な理論をしっかり理解し、現実の国際経済の動きの理解に結びつける努力をする。

【授業計画】
講義は次の３部構成で行う。
１．国際貿易のしくみ：「自由貿易のメリット」「自由貿易を阻む保護主義」など国際貿易をめぐる基礎理論。
２．国際貿易システム：GATT・WTO体制のもとで進められてきた戦後の貿易自由化の動きをフォローし現在の問題点を明らかにする。
３．地域経済統合：とりわけ1990年代後半以降世界各地で盛んとなっている自由貿易地域形成の動きの実情とその問題点。

【評価方法】
期末テストおよび小テストを総合して評価。

【テキスト】
グローバル・エコノミー（岩本武和ほか著　有斐閣）

【参考文献・資料】
適宜、紹介する。

アジア経済論

清水　洋

【授業の概要】
本講義では、世界経済の中で重要度を増しているアジア地域の経済発展の背景を探り、これまで日本が果たしてきた役割を多角的に考察する。1960年代以降、韓国・台湾・香港・シンガポールが外資を梃子に輸出志向型工業化政策を実施し、70年代に新興工業国として世界の耳目を集めるようになった。80年代半ば以降は、マレーシアやタイ等のアセアン諸国もやはり外資と海外市場に大きく依存して急激な工業化に成功している。さらに、90年代には中国が同様に輸出主導型政策を導入して急成長を遂げ、今日では「世界の工場」と呼ばれるようになった。一方、日本は90年のバブル崩壊後、長期間にわたって「平成不況」が続いたため、アジア地域におけるプレゼンスと影響力が低下している。

【授業の目標】
アジア経済に関する基礎知識を身につけ、日本の対アジア政策を客観的に評価する能力を養う。

【授業計画】
講義を主体とするが、OHPやビデオなどの視聴覚機器も適宜使用する。

１）日本型発展モデルとアジア経済
２）中国の工業化と外資系企業
３）都市国家シンガポールの経済発展
４）イスラム国家マレーシアの社会経済発展
５）島嶼国家インドネシアの社会経済発展
６）アジアにおける進出日系企業の事例（製造業、建設業、流通業など）
７）その他

【評価方法】
定期試験が主体となるが、授業への参加度、レポートなども考慮にいれる。

【テキスト】
シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

欧米経済史

藤瀬浩司

【授業の概要】
この講義は、西ヨーロッパ中世社会から20世紀末までの歴史過程を、資本主義と世界経済に視点をおいて、概観する。最初に、西ヨーロッパ封建社会が解体する中で、どのようにして最初の資本主義世界経済が成立するかを考察する。次にイギリス産業革命の特徴を明らかにし、これを起点として、西ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国、あるいはまたロシア、イタリア、日本などで工業化がどのように展開したかを考察する。最後に20世紀経済の歴史的発展を、企業組織、経済社会政策、世界経済の各側面について、第一次世界大戦前、両大戦間期、第二次世界大戦後の各時期に分け考察し、現在の情報革命とグローバリゼーションの進展まで言及する。

【授業の目標】
現代の社会と経済が、どのような歴史過程を通して生み出されたかを明らかにする。

【授業計画】
第１部　歴史社会としての資本主義
　　1　共同体社会としての資本主義
　　2　資本主義の誕生
第２部　19世紀の資本主義
　　3　イギリス産業革命
　　4　イギリス資本主義の成熟
　　5　世界経済の拡張-西欧とアメリカの工業化
　　6　周辺経済の分極化
第３部　20世紀の資本主義
　　7　20世紀経済成長の特徴
　　8　大型企業体と社会改革
　　9　多角的貿易決済システムと国際金本位制
　　10　帝国主義と戦争
　　11　戦間期経済と大不況
　　12　アメリカ体制の成立
　　13　資本主義の黄金時代
　　14　成長国家の終焉と新しい時代の始まり

【評価方法】
授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

【テキスト】
改訂新版　欧米経済史-資本主義と世界経済の発展（藤瀬浩司著　放送大学教育振興会　2004）
講義と平行してテキストをよく読むこと。

【参考文献・資料】
テキスト巻末の文献目録の他、適時授業中に指摘する。

比較政治論

西尾林太郎

【授業の概要】
政治的近代化および議会政治の導入とその展開を主軸とした日本、中国、韓国、イギリス等の比較研究と比較政治文化論。

【授業の目標】
日本との比較で中国や韓国の近代国家の成立について理解し、それを踏まえ今日のそれぞれの国の政治について考察する。

【授業計画】
1．〈比較〉の意義と手法
　ポリアーキー、政治的近代化、国民国家
2．中国、韓国、日本の近代化と議会政治
　a．科挙官僚体制、国民党、中国共産党
　b．李氏朝鮮、両班、党争
　c．韓国の大統領とその政治文化
3．西欧諸国の近代化と日本
4．イギリスの議会政治
　a．名誉革命
　b．ウォルポールの貢献
　c．W.バジョットの議院内閣制論

【評価方法】
試験と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
その都度、紹介する。

国際法

初谷良彦

【授業の概要】
国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境の保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

【授業の目標】
これからの日本、また学生諸君は、国際社会とどうつき合っていくべきかを考える。

【授業計画】
第１回　国際法の概念
第２回　条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
第３回　国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
第４回　国際組織（国際連合、その他の国際組織）
第５回　国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
第６回　外交（外交関係、外交特権、領事関係）
第７回　個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
第８回　国際社会における人権保障（１）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
第９回　国際社会における人権保障（２）（女性の人権、子どもの人権）
第10回　国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
第11回　紛争の平和的解決（国際裁判）
第12回　国際安全保障（国連軍、軍縮）
第13回　武力紛争（戦争法・人道法）
第14回　国際社会における法の支配（展望）
第15回　国際秩序の展望

【評価方法】
主として平常点と単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

フィールドワーク Ⅰa（国内調査実習①：基礎）

谷沢 明

【授業の概要】
フィールドワークの基礎を体験的に習得することを目的とする学外教育を実施します。（1）歩く（アプローチ）：フィールドスタディで必要なのは、歩くこと。どのような方法で歩いたら、調査目的に接近できるのか、その可能性を探る手法を教育します。（2）見る（観察法）：フィールドスタディで重視される観察調査。テーマ・問題意識を持ってじっくり対象物を観察していく手法を教育します。（3）聞く（取材法）：相手の話したいことを充分に聞き取り、記録していくインタビュー調査。このノウハウを教育します。（4）プレゼンテーション：取材成果をパワーポイント（作品）にまとめ発表します。

【授業の目標】
フィールドワークの基礎を体験的に習得する入門的な実習授業です。

【授業計画】
この授業は集中授業で実施します。2007年度前期は下記の予定です。
４月28日（土曜日）説明会・写真撮影及びパワーポイント製作実習
４月29日（日曜日）パワーポイント製作実習及び郡上八幡事前講義
５月12～13日（土・日曜日）（学外授業）郡上八幡フィールドワーク
６月17日（日曜日）郡上八幡の成果プレゼンテーション
【備考】（1）定員は10名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は所定の方法により選考します（その場合は掲示します）。選考にもれた人は履修登録の取り消しを行ってください。（2）フィールドワーク（学外教育）の実費（交通費・宿泊費等、１万円前後です）を各自負担してください。（3）参加は、自己健康管理ができる人に限らせていただきます。

【評価方法】
フィールドワークへの参加、作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
必要に応じてアドバイスします。

フィールドワーク Ⅰb（国内調査実習①：基礎）

谷沢 明

【授業の概要】
フィールドワークの基礎を体験的に習得することを目的とする学外教育を実施します。（1）歩く（アプローチ）：フィールドスタディで必要なのは、歩くこと。どのような方法で歩いたら、調査目的に接近できるのか、その可能性を探る手法を教育します。（2）見る（観察法）：フィールドスタディで重視される観察調査。テーマ・問題意識を持ってじっくり対象物を観察していく手法を教育します。（3）聞く（取材法）：相手の話したいことを充分に聞き取り、記録していくインタビュー調査。このノウハウを教育します。（4）プレゼンテーション：取材成果をパワーポイント（作品）にまとめ発表します。

【授業の目標】
フィールドワークの基礎を体験的に習得する入門的な実習授業です。

【授業計画】
この授業は集中授業で実施します。2007年度は下記の予定です。
10月28日（月）説明会・飛騨高山の事前講義
11月２～５日（金～月曜日）（学外授業）飛騨高山フィールドワーク
12月１日（土）飛騨高山の成果プレゼンテーション
【備考】（1）定員は10名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は所定の方法により選考します。登録希望者は７月23～26日に予め谷沢まで申し出てください（面接の上、先着10名）。なお、本年度の現地実習は都合により大学祭期間中に当たっていますので、その旨予めご了承下さい。（2）フィールドワーク（学外教育）の実費（交通費・宿泊費等、１万円前後です）を各自負担してください。（3）参加は、自己健康管理ができる人に限らせていただきます。

【評価方法】
フィールドワークへの参加作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
必要に応じてアドバイスします。

フィールドワーク Ⅱ（国内調査実習②）

谷沢 明

【授業の概要】
中級的なフィールドワークを体験的に習得することを目的とする学外教育を実施します。テーマは、「沖縄離島の歴史・文化・風土を探る」。石垣島・竹富島・小浜島・西表島などでフィールドワークをおこないます。それぞれの島の特性について取材し、フィールドワークを通して学び取ったことをパワーポイントにまとめてプレゼンテーションする力を身につけます。

【授業の目標】
フィールドワークを体験的に習得する中級的な実習授業。

【授業計画】
この授業は集中授業で実施します。2007年度は下記の予定です。
６月10日（日曜日）説明会・事前講義
８月27日（月曜日）中部国際空港～石垣空港～竹富島
８月28日（火曜日）竹富島フィールドワーク
８月29日（水曜日）竹富島フィールドワーク
８月30日（木曜日）小浜島フィールドワーク
８月31日（金曜日）西表島フィールドワーク
９月１日（土曜日）西表島フィールドワーク
９月２日（日曜日）石垣島フィールドワーク
９月３日（月曜日）石垣空港～中部国際空港
10月20日（土曜日）プレゼンテーション（学内授業）
【備考】（１）定員は10名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は事前面接及び提出レポート（３/28締め切り）により選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。（２）フィールドワーク（学外教育）の実費（航空機・現地交通費・宿泊費、８日間で約12万円）を各自負担してください。（３）参加は、自己健康管理ができる人に限らせていただきます。

【評価方法】
フィールドワークへの参加、作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
必要に応じてアドバイスします。

フィールドワーク Ⅲ（海外調査実習①）

西尾林太郎

【授業の概要】
台湾の政治・経済及び社会・文化を学ぶとともに、日本統治時代の史跡の参観や日本語世代の関係者とのインタビューなどを通じて、日本統治時代について考える。韓国とならび発展が著しい、IT大国―台湾の実情に触れるとともに、現地の大学生と交流する。詳細な日程等は後日掲示をする。

【授業の目標】
とにかく、アジアを丸ごと体験することを大きな目標としたい。
具体的には
（１）台南や台北など台湾の代表的な都市を探訪するとともに台湾の伝統文化にふれる。
（２）日本と台湾の関係史について考える。
（３）日中台関係について考える。

【授業計画】
９月23日～９月29日に、台北、台南を中心に１週間の調査研修旅行を実施する。

（１）７月下旬：事前授業およびガイダンス（時間・場所は別途掲示）
（２）９月下旬：フィールドワーク実施
　a　台南（１日は現地の大学生と交流）
　b　台北（世界一高い高層ビル・台北101、故宮博物院、大統領府である旧台湾総督府の建物も参観する）

【評価方法】
実施前の事前授業・ガイダンスへの出席と現地での活動および実施後提出するレポート等の課題等を総合して評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
夏休み直前の事前授業・ガイダンスの折に紹介するとともに配布する。

フィールドワーク Ⅳ（海外調査実習②）

清水 洋

【授業の概要】
シンガポールとマレーシアの教育機関・民間企業・回教寺院・博物館、マレー人小村、ゴム園などでフィールドワークを行い、両国の諸相を比較検討する。都市国家シンガポールは天然資源に乏しいが、過去数十年の間に進出外国企業に大きく依存して工業化を達成し、途上国から先進工業国へ変身している。華人・マレー人・インド人・ユーラシア人などの多民族が混住しており、1つの国で複数の伝統と文化に触れることができる。進出日系企業は約1700社、在留邦人は2万人に上り、日系ゼネコンが建設した高層ビルが林立している。マレーシアも多民族国家だが、イスラム教を国教としており、マレー人が政治を支配している。

【授業の目標】
机上で学んだことをフィールドワークを通じて現地（シンガポールとマレーシア）で確認し、アジアに関する知識と関心を深める。

【授業計画】
（１）３月28日午後５時までに第１回レポートを提出。テーマは「アジアと私」（400字前後、氏名、学年、学籍番号、ゼミ名を明記）。
（２）８月20日（月）までに第２回レポートを提出。
（３）８月24日（金）：事前研修　（時間・場所は掲示）。
（４）８月27日（月）～９月１日（土）：シンガポールとマレーシアで調査実習を行う。旅費：往復航空運賃、燃料費サーチャージ、空港税、ホテル宿泊費（朝食付き）、マレーシア貸切バス代（日本語ガイド・昼食付き）の合計で約12万円（参加者数、その他により変動）。研修内容・訪問先の詳細については、担当教員のＨＰ（www２.aasa.ac.jp/people/hshimizu/）を参照。
（５）フィールドワークで収集した資料等を基に第２回レポートを加筆修正のうえ、10月31日までに提出。
　＊レポート提出場所は１号棟３Ｆレポートボックス。

【評価方法】
レポート、フィールドワークでの活動状況などを総合的に評価する。

【テキスト】
シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）

【参考文献・資料】
もっと知りたいシンガポール　（綾部恒雄・石井米雄編、弘文堂）。
もっと知りたいマレーシア　（綾部恒雄・石井米雄編、弘文堂）。

フィールドワーク Ⅴ（国内実地研修①）

谷沢 明

【授業の概要】
現代社会を総合的・体験的に学び、現代社会を多様な切り口で解読する能力を養うことを目的に、国内実地研修を行います。2007年度は、北海道函館市でフィールドワークをおこないます。テーマは、「歴史的景観を活かした個性豊かな都市づくり」。魅力ある都市創生に向けての取り組みを取材し、フィールドワークを通して学び取ったことをパワーポイントにまとめてプレゼンテーションする力を身につけます。

【授業の目標】
フィールドワークの基礎を学び、その成果をプレゼンテーションする初歩的な能力を身につけることを授業の目標とします。なお、２年生以上はパワーポイントを自ら製作する力を持った人を対象とさせていただきます（１年生については基礎的な技法を教えます）。

【授業計画】
この授業は集中授業で実施します。2007年度は下記の予定です。
６月10日（日曜日）説明会・事前講義
９月24日（月曜日）中部国際空港～函館空港
９月25日（火曜日）函館ＦＷ（１）歴史的文化遺産の保全
９月26日（水曜日）函館ＦＷ（２）歴史・文化・風土を活かした都市景観の創生
９月27日（木曜日）函館ＦＷ（３）国際観光都市形成に向けての取り組み。函館空港～中部国際空港
10月27日（土曜日）プレゼンテーション（学内授業）
【備考】（１）定員は25名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は提出レポート（２年生以上は３/28締め切り、１年生については掲示します）により選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。（２）フィールドワーク（学外教育）の実費（航空機・現地交通費・宿泊費、４日間で約６万円）を各自負担してください。（３）参加は、自己健康管理ができる人に限らせていただきます。

【評価方法】
フィールドワークへの参加、作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
必要に応じてアドバイスします。

フィールドワーク VIII（海外調査実習③）

藤井麻湖

【授業の概要】

モンゴル文化の理解を深めるため、モンゴル国へ約一週間の研修旅行をおこないます。モンゴルでの移動に馬は欠かせません。ゆえに、乗馬トレッキングもおこないます。牧民とおなじように大草原を駆け巡りましょう。

【授業の目標】

日本とは全く異なるモンゴルの自然、文化に触れて、異文化許容度を高めることを目標とします。

【授業計画】

（1）事前授業第１回目５月２日（水）５限目
（2）事前授業第２回目６月27日（水）５限目
（3）事前授業第３回目７月18日（水）５限目
（4）モンゴル国フィールドワーク
８月13日（月）名古屋発ソウル経由でウランバートルへ（ホテル泊）
８月14日（火）ソゴートツーリストキャンプへ（ツーリストキャンプ泊）
８月15日（水）乗馬トレッキングと牧民家庭調査（牧民宅泊）
８月16日（木）乗馬トレッキングと牧民家庭調査(ツーリストキャンプ泊)
８月17日（金）ウランバートルへ　市内の博物館の見学等（ホテル泊）
８月18日（土）ウランバートル市における史跡の見学（ホテル泊）
８月19日（日）終日自由研修(各自フィールドワーク)(終日ホテル使用可)
８月20日（月）ウランバートル発ソウル経由で名古屋へ
（5）帰国後にレポート提出
《備考》
（1）定員は10名程度。
（2）モンゴル国への研修旅行（学外教育）の実費を各自負担してください。2006年度の費用は約19万円（航空券・ホテル代・移動費全て込み）ただし、費用は人数その他の諸事情により変動します。
（3）旅行社からの説明会を２，３回昼休みにおこなう。

【評価方法】

実施前の事前授業への出席状況と現地での活動、および事後のレポートの提出等の課題等々を総合して評価する。

フィールドスタディ・セミナー II

藤井麻湖　清水 洋

【授業の概要】

初日はフィールドワーク発表会に参加する。あとの3日間は1日ひとりの文化人類学者を招聘しそれぞれのフィールドワーク経験をもとにした話をきく。

【授業の目標】

アジアの国々でフィールドワークをしてきた文化人類学者のヴィヴィットで多様な方面の話をきくことにより視野をひろげる。

【授業計画】

８月６日１限～４限　フィールドワーク報告会
８月７日：講師は島村一平氏（滋賀県立大学講師）
２限目：増殖するシャーマン
―ポスト社会主義モンゴルにおけるシャーマニズムの活性化
３限目：精霊「ホイモル女房」とは誰なのか
―アガ・ブリヤートにおける苦悩の記憶とグレート・マザーの誕生
４限目：サブカルチャー化するハイカルチャー？
―ポピュラー音楽からみた現代モンゴル－
８月８日：講師は南出和余氏（神戸女学院大学非常勤講師）
２限目：「子ども」とは誰か？
―「＜子ども＞の誕生」から「子どもの権利」まで―
３限目：映像にみる「バングラデシュ農村社会における割礼の変容」
―子どもの成長を意義づける宗教・社会・子ども自身―
４限目：学校化する子ども社会
―学校は子どものものか、子どもは学校のものか―
８月９日：講師は中田友子氏（南山大学非常勤研究員）
２限目：ラオスの世界遺産ルアンパバーン：ラオ正月の儀礼・イベント・家庭行事などの映像を通して、ラオスの文化について学ぶ
３限目：ラオスの世界遺産ワット・プー・チャンパサック：古代クメール遺跡の保存を通して現代における文化・環境の保護について考える
４限目：開発途上国の遺産保護とその問題点
※３日間の５限目は総合ディスカッションにあてる。

【評価方法】

１日目のフィールドワーク報告会の参加、および、３人の講師の各総合ディスカッションでの質疑応答と３人の講師の授業についての小レポートの提出。

ケーススタディ I（企業・プロジェクト研究）

竹村 弘

【授業の概要】

少人数のグループで、自らの問題意識に基づき選択したテーマについて、自主的に調査研究を実施し、研究発表、討論、レポート作成を行う。

【授業の目標】

今何が問題で、何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動し、課題を達成し、そのプロセスと成果を人にきちんと説明し、理解と賛同を得る能力を修得する

【授業計画】

1．問題意識を共有する少人数のグループを編成し、具体的な研究テーマを設定する。
2．文献調査、現地調査、企業訪問、アンケート調査、有識者ヒアリングなどにより調査研究を実施する。
3．「レポート」「展示パネル」の作成など発表準備を行い、夏合宿で「中間報告」「全体討論」、『淑楓祭』展示、他大学合同研究会など、外部との討論で一層の研究の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。
4．訪問企業、ヒアリング先などに「レポート」を持参し、研究成果を報告する。
5．過去の研究テーマ例：「愛知万博」「中部新国際空港」「首都機能移転」「豊橋市の中核都市指定」「長久手まちづくり」「豊根村の過疎」「藤前干潟ごみ処分場」「名古屋市のごみ問題」「環境ホルモン」「環境と都市緑化」「国債」「産業空洞化」「デフレ」「調整インフレ論」「郵政公社」「日本経済と中国経済」「石油価格高騰」「介護保険」「高齢社会」「ゆとり教育」「トヨタ自動車」「JR高島屋」「イオングループ」「中部の中堅企業」「中部大丈夫？」「東海地震」「地方銀行の生き残り」「契約社員と人材派遣」
6．「フィールドスタディ演習II」（竹村）とタイアップして実施する。

【評価方法】

グループ研究を総合的に評価。

ケーススタディ II（現代金融研究）

秦 忠夫

【授業の概要】

多様化する現代の金融取引・金融市場の動きを、生活者の立場で理解することを目標に、極力具体的に、最新のデータを踏まえて実証的に、諸外国の動きと比較しつつ国際的に勉強する。

【授業の目標】

主要な金融取引のしくみや金融市場の構成をしっかり理解する。

【授業計画】

（1）金融市場の構成
　（1）わが国の金融市場:金融の自由化・国際化の歴史、直接金融と間接金融、金融機関の種類と役割、IT革命と金融など
　（2）世界の金融市場：三大金融センター〔ニューヨーク、ロンドン、東京〕の比較など
（2）金融取引のしくみと実情
　（1）株式
　（2）債券
　（3）その他：投資信託、外貨預金、生命保険・損害保険など
（3）資産選択の基準
　（1）収益性と安全性
　（2）リスク管理：リスクの種類、リスク分散、金融商品に関する消費者保護など

【評価方法】

小テストと期末テストを総合して評価。

【テキスト】

金融入門（日経文庫　日本経済新聞）

【参考文献・資料】

授業の際、紹介する。

ケーススタディ III（人事・組織研究）

榊原國城

【授業の概要】

この授業での主要な手法はケース・スタディと呼ばれる。受講学生には、具体的なテーマに関わる、何らかの問題を含んだケース（事例）が提示される。このケースは、比較的短い文章により、具体的な組織場面と、そこに登場する人物が描かれている。ケース・スタディは、そのような事例の内容を様々な角度から分析・検討することによって、問題解決能力を養成しようとする方法である。授業は、組織における人事システムの基本的知識に関する講義と、ケース内容に関する学生間の討議がセットとなって進められる。

【授業の目標】

近い将来、会社組織のメンバーとしての貢献が期待される受講学生にとって、組織が求める、人事管理の在り方や評価・育成システムを実践的に捉え、理解を深めることがこの授業の目標である。

【授業計画】

主として、以下のテーマを扱う。

1．組織人の役割
2．組織運営上の諸原則
3．効率的な職務の進め方
4．職場の問題解決
5．人事評価の考え方
6．職務遂行能力・コンピテンシー
7．職場の人間関係
8．チームワーク

【評価方法】

授業への参加態度およびリポートの内容によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

ケーススタディ IV（消費者行動・マーケティング研究）

石田好江

【授業の概要】

顧客が何を求めているかを探る消費者行動研究やマーケティングは、単に理論だけ学べば理解できるわけではない。「もっといい広告が可能ではないか」「この機能は本当に消費者が欲しているのだろうか」「価格をもし１０％上げたらどういう影響がでるだろうか」など具体的に考えることが必要である。

この授業ではそうした事例研究を通じて、課題の発見、調査・分析、問題解決、政策提案までの全過程を演習の形で行う。

【授業の目標】

事例研究を通じて、研究手法の基礎を学ぶとともに、課題発見及び問題解決能力を身に付ける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．研究の技法の学習
3．テーマの設定（課題の発見）、計画作成
4．調査・研究の実施
5．分析・ディスカッション
6．調査・研究のまとめ
7．フィードバック

【評価方法】

授業への自発的な取り組み姿勢、調査・研究の内容によって評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

フィールドスタディ演習 Ia・b

石田好江

【授業の概要】

前半は、消費者行動、就業行動、ジェンダー問題等の社会政策に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎にグループでテーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し､そこでの討議やコメントをふまえ､最終的にレポートとして提出する。

あわせて、プレゼンテーションの方法、レジュメやレポートの作成方法、文献・情報検索の方法も学ぶ。

【授業の目標】

研究活動のための基礎的な知識やツールを取得するとともに、自ら研究課題を発見する力、その課題に関する知識・情報の収集、考察ができる力をつける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
　演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など
2．文献講読
　文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。
3．個人研究・発表
　研究方法について
　個人研究・発表

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

フィールドスタディ演習 Ia・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

＜地域研究：多文化・多言語社会の考察＞

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化共生への流れは、世界的に大きくなってきている。いくつかの多文化・多言語社会に焦点を当て、その多文化主義政策および多文化状況を考察する。多文化共生世界の中で、日本が進むべき方向について、多くのヒントが得られるだろう。

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、異質なものに対する柔軟な視点を養っていって欲しい。

【授業計画】

英語・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して、オーストラリア、カナダ、米国、その他の多文化・多言語社会に焦点を当て、その歴史、経済、文化、人口構成、言語政策、外国人受け入れ政策、民族文化維持政策などの視点から考察する。

少子化に伴う労働力不足への対応としても外国人受入れ制度の整備が急がれる日本は、各国の多文化主義政策から多くのヒントを得られるだろう。

受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。

英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

【評価方法】

レポート、発表および平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

フィールドスタディ演習 Ia・b

大嶽 浩

【授業の概要】
「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業の目標】
民法の基本的な「仕組み」を理解すること。

【授業計画】
「住宅」に関する法制度を「総論」的に考察する。具体的には、
1　契約（意思表示）　2　代理（専門家）　3　売買契約
4　請負契約　5　賃貸借契約　6　消費貸借契約
などについて考察する。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

【評価方法】
出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

フィールドスタディ演習 Ia・b

榊原國城

【授業の概要】
前期は、リポートの書き方、文献の紹介の仕方、プレゼンテーション実習など、大学生としての勉学の基本を修得する。後期においては、心理テストや職業適性検査の実習、身近なテーマによる心理学ワークショップを中心に、講義、実習、討議などの方法を用いて授業を進める。

【授業の目標】
この演習の目標は、学生自身が、自らの主体的な態度に基づく勉学や研究の基礎となる原則的方法や態度と、心理学研究の基本的考え方を身につけることである。

【授業計画】
前期：リポートの書き方、プレゼンテーション、科学的研究の進め方等。
後期：心理学テスト、心理ゲーム、パーソナリティ・インベントリー、対人魅力等。

【評価方法】
前期末および後期末にそれぞれリポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業時に提示または指示する。

フィールドスタディ演習 Ia・b

清水 洋

【授業の概要】
この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族・教育などの側面から立体的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業の目標】
アジア諸国の諸相に関する基礎知識を身につけるとともに、様々な資料を使用して分析能力を養う。

【授業計画】
1）アジア諸国の政治・経済
2）民族、宗教、言語
3）教育、文化
4）アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
5）その他

【評価方法】
討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】
もっと知りたいシンガポール　（綾部恒雄・石井米雄編、弘文堂）。
もっと知りたいマレーシア　（綾部恒雄・石井米雄編、弘文堂）。

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

フィールドスタディ演習 Ia・b

竹村 弘

【授業の概要】
「文献講読」「グループ討論」「スピーチトレーニング」「バーチャル株式投資」「21世紀いろはかるた」「春合宿」などの共同研究、共同制作を実施する。

【授業の目標】
将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

【授業計画】
1.「文献講読」：　広く「日本経済」「地域開発」その他に関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで広範な知識および方法論を習得する。輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を養い、問題意識の喚起を図る。
2.「グループ討論」：　最初の段階で、ディベート・EQトレーニングを行う。これは、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。
3.「スピーチトレーニング」：　大勢の人の前で上手にスピーチし、聞く人の共感を得るためには、事前の準備と十分なトレーニングが必要である。
4.「バーチャル株式投資」：　バーチャル株式投資およびマネー・フローの実習を通じて、証券取引や資金運用等の実務を体得する。
5.「21世紀いろはかるた」：　福沢諭吉の「20世紀歓迎会」の故事に倣い、21世紀に実現したい理想や現代社会の風刺を読み込んだ「いろはかるた」を制作し、『淑楓祭』で展示する。

【評価方法】
討議、グループ研究など総合的に評価。

【テキスト】
議論に絶対負けない法（G.スペンス 三笠書房）
日本の論点（文芸春秋）（各貸与）

フィールドスタディ演習 Ⅰa・b

谷沢 明

【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで探る生活文化・地域文化」。

生活文化や地域文化、地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。

「あるく・みる・きく」という行動をとおして上記テーマを追求することを演習の中心とします。好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていきます。さらに、謙虚な気持で土地の人々に接し、そこから学んでいきます。その成果をパワーポイントにまとめ、ゼミ発表をおこないます。学外教育フィールドワークの実習をおこないます。

【授業の目標】

前期に「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」の実例を文献により学び、併せてフィールドワークの基礎を身につけ、成果発表のプレゼンテーション技法を学びます。

【授業計画】

（1）田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）をテキストに、日本各地の「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」の実例を学びます。

（2）フィールドワークの基礎は、実習科目「フィールドワークⅡ（国内調査実習②）」または「フィールドワークⅤ（国内実地研修①）」のいずれか一つを履修し、指導を受けてください。

（3）プレゼンテーション技法は、写真撮影・パワーポイント製作の基礎を前期に教えます。後期は、夏に実施する実習科目（FWⅡ・FWⅤ）のパワーポイント製作を通してプレゼンテーション能力の向上を目指します。

（4）この１年を通して３年次にそれぞれが取り組む研究テーマを見つけ、その基礎固めをおこなうための指導をします。

【評価方法】

平生の授業態度、フィールドワークへの参加、パワーポイント作成等。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

フィールドスタディ演習 Ⅰa・b

西尾林太郎

【授業の概要】

「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」

特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、〈国際化〉のまっただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

【授業の目標】

国際感覚を身に着ける。アジアへの認識を深める。

【授業計画】

例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論（日本論）や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論（ディベート）の方法を修得する。

また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。

特に今年度は、台湾を中心として、東アジアの国際関係や日本について考察する。なお、履修生はフィールドワークⅢを履修すること。

ａ前期：上記のテーマに関して各自の発表（特に、台湾や中国、日中関係などに関して）。

ｂ後期：台湾における調査研修旅行に関する、いくつかのプレゼンテーション。日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表。

【評価方法】

評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

フィールドスタディ演習 Ⅰa・b

秦 忠夫

【授業の概要】

日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。具体的には、内外経済の注目されている動きを、新聞・雑誌の解説記事、政府機関や各種研究所の報告書、単行本などを参考資料として質疑応答しながらいっしょに検討します。その課程では参加者の間で資料の要点整理を分担し、表現力の訓練も重視します。併せて、最近では参加者の間で身近な金融問題への関心も高まっているので、そうした分野にも勉強をテーマを広げていきます。後期には、それぞれが独自のテーマにつき研究し発表する「個人報告」も取り入れていきます。

【授業の目標】

積極的な姿勢で授業に参加し、活発に意見を述べる。割り当てられたテーマについてはしっかりと準備して説得力のある報告を行う。

【授業計画】

前期には、内外経済の注目されているテーマを共通の資料でいっしょに勉強する。後期には、それぞれが自分で選んだテーマにつき発表する「個人報告」も取り入れていく。

なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

フィールドスタディ演習 Ⅰa・b

藤井麻湖

【授業の概要】

現在、文化人類学は完全なる多様化の流れに身をおいています。「未開社会」を対象としてはじまったこの学問ですが、いまは、現代社会のあらゆる領域にその問題関心を広げているのです。メディア人類学、介護の人類学、芸術人類学等々、新しい領域が果敢に開拓されています。この学問の大きな特徴は、ミクロな対象を、現在にも過去にも広げながら調査し、最終的に、ミクロ－マクロ媒介的に問題を把握するその独特の方法にあります。この授業では、各自が現在もっとも関心をおいているテーマをそれぞれ取り上げて発表してもらい、今後どのような展開が文化人類学的に可能かを模索していきます。

【授業の目標】

自分の考えたことを人前で説得的に展開できるプレゼンテーション能力を身につけることを目標とします。

【授業計画】

各自、テーマを自由に設定してもらい、同じテーマで２回発表してもらいます。発表者には人前で自説を展開することに慣れてもらうと同時に、発表者以外の人には、発表に対するコメントを必ずするようにしてもらいます。なぜならば、こうすることにより、ゼミ全体の参加者意識が高まるからです。発表後には、ディスカッションをおこない、今後どのように論を発展させれば、発見的でより面白いものになりうるかを皆で探ります。

【評価方法】

２回の発表とまとめのレポート提出、平常の授業態度等にかんがみ総合的に評価します。

【テキスト】

『勝つための論文の書き方』鹿島 茂（著）（文春新書）

【参考文献・資料】

適宜指示します。

フィールドスタディ演習 IIa・b

石田好江

【授業の概要】

演習Iにおいて深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。

前期は、演習Iの基礎的な理解の上にたって、消費者行動や就業行動をめぐる周辺領域の文献、あるいは近年の新しい視点の論文を取りあげ、よりこの分野の理解を深めることをめざす。

後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が３年後期から進めてきた個人研究をさらに深め２年間の演習の集大成として論文の形でまとめる。

【授業の目標】

テーマについてのより深い考察ができるようになることとともに、研究活動を通じて問題解決能力を身に付ける。

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

フィールドスタディ演習 IIa・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

＜地域研究：多文化・多言語社会の考察＞

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化共生への流れは、世界的に大きくなってきている。いくつかの多文化・多言語社会に焦点を当て、その多文化主義政策および多文化状況を考察する。多文化共生世界の中で、日本が進むべき方向について、多くのヒントが得られるだろう。

（日本語教授法）

日本語を母語としない人を対象とした日本語初級文法・文型の英語による指導法を考察する。希望者を対象に、授業後に実施。

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、異質のものに対する柔軟な視点を養っていって欲しい。

【授業計画】

英語・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して、オーストラリア、カナダ、米国、英国、マレーシア、その他の多文化・多言語社会に焦点を当て、その歴史、経済、文化、人口構成、言語政策、外国人受け入れ政策、民族文化維持政策などの視点から考察する。

少子化に伴う労働力不足への対応が急がれる日本は、各国の多文化主義政策から多くのヒントを得られるだろう。

受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。後期には、個人指導を通して論文に仕上げ、後期終りに研究報告集を作成。

【評価方法】

発表、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

フィールドスタディ演習 IIa・b

大嶽 浩

【授業の概要】

演習Iにひきつづき、「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業の目標】

民法の基本的な「仕組み／精神」を理解すること。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「各論」的に考察する。具体的には、

１　所有～賃貸　　２　維持～管理　　３　贈与～相続

などについて考察する。以上のほかに、「『住まう』とはどういうことか」や「文学作品から見た『住まい』」についても考える。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

フィールドスタディ演習 IIa・b

榊原國城

【授業の概要】

この演習のテーマは質問紙調査法によるデータ解析である。多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分析して人間理解を進める手法が質問紙調査法である。演習Iaでは、統計パッケージ・プログラムSPSSに基づいて、調査資料の統計的データ解析の概念を把握し、データ解析手法を学ぶ。演習Ibでは、４～５人のグループを単位として、学生の設定したテーマに基づく、調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程を経験し、調査法による研究法を修得する。

【授業の目標】

この演習の目標は、心理学研究の基礎的訓練として、質問紙調査法による科学的なデータ分析手法を身につけることである。

【授業計画】

前期（演習Ia）は統計解析パッケージ活用法をマスターするためのデータ解析演習。

１．オリエンテーション
２．データの分類
３．データ・ファイルの作成
４．質的データの分析
５．量的データの分析

後期（演習Ib）は質問紙調査法の実際を体験するグループ作業による演習。

１．オリエンテーション
２．調査計画立案
３．調査票作成と調査実施
４．調査結果の分析
５．報告書の作成

【評価方法】

授業中に示される課題へのリポート内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】

授業中に提示する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

フィールドスタディ演習 Ⅱa・b

清水 洋

【授業の概要】

演習Ia・b からの継続。この演習では、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・教育・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業の目標】

アジア諸国の諸相に関する基礎知識を身につけるとともに、様々な資料を使用して分析能力を養う。

【授業計画】

1）アジア社会の変容
2）民族、宗教、言語
3）社会、教育
4）政治、経済
5）アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
6）その他

【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

フィールドスタディ演習 Ⅱa・b

竹村 弘

【授業の概要】

「文献講読」「グループ討論」「スピーチトレーニング」「サブゼミ研究」「春合宿」および「夏合宿」を通じて、今何が問題で、何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動して、課題を達成し、そのプロセスと成果をきちんと人に説明し、理解と賛同を得る能力を修得するトレーニングを行う。

【授業の目標】

将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

【授業計画】

1．「文献講読」：広く「日本経済」「地域開発」などに関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで、広範な知識および方法論を修得する。輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、いっそうの理解を深めると共に、自発的思考能力を養い、問題意識の喚起を図る。
2．「グループ討論」：グループ討論は、論理的かつ効果的に組立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。
3．「スピーチ・トレーニング」：大勢の人の前でスピーチし、聞く人の共感を得るためには、事前の準備と十分なトレーニングが必要である。
4．「サブゼミ研究」：少人数のグループで、自らの問題意識に基づき選択したテーマについて、自主的に調査研究を行い、「レポート」を作成する。夏合宿で「中間発表」を行い、『淑楓祭』展示、他大学合同研究会など、外部との討論で、研究の一層の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。
「ケーススタディI」（企業・プロジェクト研究）を併せ受講すること。
5．「春　合　宿」：4月上旬に一泊二日の日程で、「3分スピーチ・トレーニング」「グループ討論」「真実探し『藪の中』」などの、DB・EQトレーニングを実施する。（費用6千円程度）
6．「夏　合　宿」：9月下旬に二泊三日の日程で、サブゼミ研究の「中間発表」と全体討論を行い、合わせて、スポーツ、バーベキュー、花火などのレクリエーションおよび工場見学、フィールドワークなどを行う。（費用1万8千円程度）

【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

【テキスト】

『EQ・こころの知能指数』（D．ゴールマン　講談社）
『日経大予測2007』（日本経済新聞社）
『日本の論点2007』（文芸春秋）　（各貸与）

フィールドスタディ演習 Ⅱa・b

谷沢 明

【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで探る生活文化・地域文化」。
生活文化や地域文化、地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。
各自が関心を持ったテーマを、「あるく・みる・きく」という行動をとおして追求することを演習の中心とします。好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていきます。さらに、謙虚な気持で土地の人々に接し、そこから学んでいきます。その成果をパワーポイントにまとめ、ゼミ発表を行います。

【授業の目標】

各自が設定した地域研究のテーマに基づき、教員と協議の上、それぞれが一定の水準に到達することを目標とする。

【授業計画】

（1）各自の研究テーマ（分野：日本文化・伝統文化・生活文化・まちづくり・地域振興・町並み保存・景観保全・水辺の保全・観光振興など）に基づき、各自、月1回程度フィールドワークを実施し、発表をおこなう。
（2）フィールドワークの手法は、実習科目「フィールドワークV（国内実地研修①）」を併せて履修し、指導を受けてください。
（3）後期は、4年次の卒論に向けて、研究をより深い内容に進展させていきます。

【評価方法】

平生の授業態度、フィールドワーク、パワーポイント作成等。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

フィールドスタディ演習 Ⅱa・b

千葉善根

【授業の概要】

演習Iにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

【授業の目標】

一つの大きなテーマを決め、深く調査研究し、卒業論文の資料にもなるように系統的に調べる。

【授業計画】

○各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。
○各発表に全員が参加し討議する。
○随時、個々に指導助言する。
○必要に応じて見学、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、リポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

講義中に紹介

フィールドスタディ演習 IIa・b

西尾林太郎

【授業の概要】

「東北アジアおよび日本社会に関する総合的研究」

戦前および戦後の東北アジアや日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

【授業の目標】

プレゼンスの能力を涵養する。

【授業計画】

たとえ短くても、演習生全員が卒業論文（ワープロ打ちA４　12枚以上）作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。なお、ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点や卒論の一部について発表してもらう。

また、適宜、学外から講師をお呼びし、御指導いただきたいと思っている。

【評価方法】

評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

随時、指示する。

フィールドスタディ演習 IIa・b

藤井麻湖

【授業の概要】

各自の設定したテーマに沿って調査・研究をおこない、発表してもらいます。フィールドスタディ演習Ⅰa・bとは異なり、レポートではなく、プレ卒論的文章を書いてもらいます。授業では、問題発見の仕方、方法論の問題、論文構成等々の基礎的知識を伝授します。

【授業の目標】

問題発見能力を向上させ、方法論に対する知識を増やし、さらにそれを文章にまとめる技術を養うことを目標にします。

【授業計画】

各自、テーマを設定してもらい、計２回の発表をおこなってもらいます。漠然とした興味ではなく、何を明らかにしたいのかを明確に意識し、その問題を明らかにするためには、どのような方法論が可能かを、ディスカッションにより考えていきます。問題をどのように発見していくのか、何を言えばどのような事柄に答えたことになるのか、等々、フィールドスタディ演習Ⅰa・bでは深く追求しなかった事柄にも触れていきます。そして、最終的にプレ卒論を書いてもらいます。

【評価方法】

２回の発表とまとめのレポート提出、平常の授業態度等にかんがみ総合的に評価します。

【テキスト】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原 喜康（著）（講談社現代新書）

【参考文献・資料】

『勝つための論文の書き方』鹿島 茂（著）（文春新書）

フィールドスタディ演習 IIa・b

秦 忠夫

【授業の概要】

演習Ⅰでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習Ⅱでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「国際資本移動の功罪」、「わが国の金融制度改革」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めて行きたいと思います。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思います。

教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れていきます。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

【授業の目標】

積極的な姿勢で授業に参加し活発に意見を述べる。割り当てられたテーマについてはしっかり準備し、説得力のある報告を行う。

【授業計画】

上記の通り。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

テキストの使用予定なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

メディアと社会 I（メディアリテラシー）

山尾美香

【授業の概要】

現在、ありとあらゆる領域で「情報化」が喧伝され、新たなメディアや技術の登場が私たちにバラ色の未来を約束しているかのように宣伝されている。あるいは、ネットの世界や携帯の出会い系サイトなどが危険なメディアとして敵視されたりする。しかし、「情報化」は決してバラ色の未来ばかりをもたらしてくれるわけでも、暗黒の未来をもたらすわけでもない。私たちの社会や日常生活を幾重にも取り囲むようにして存在するメディアは、私たちの使い方次第であり、両刃の剣といえる。

そこで、本講義では、「メディア」とは何かについて熟考したい。特に、最近様々な場で提唱されるようになった「メディアリテラシー」の切り口から昨今のテレビ報道やコマーシャルなどを分析する一方、取材体験、メディア表現などのワークショップを通じて体験的にメディアの特徴や限界を考察することを目標とする。単なるメディア批判に終わることなく、市民社会における情報モラルやメディアとの関わり方についても考えていきたい。

特に、メディア・プロデュースコース希望者で、特に「メディアと社会」、「メディアとコミュニケーション」に関心のある学生はできるだけ前期に受講すること。

【授業の目標】

普段なんとなく見聞きし、利用しているさまざまなメディアの社会的な役割や機能、問題点の概略を理解し、講義と実習の両面から経験的に学ぶ。

【授業計画】

1．メディアとは何か
2．パーソナルメディアと社会
3．マスメディアの「力」とは
4．映像メディアを読み解く
5．広告を考える
6．新聞の特性を知る

【評価方法】

授業内のレポートと期末レポートで評価する

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

メディアリテラシー–メディアと市民をつなぐ回路（NIPPORO文庫）
メディア・リテラシー–マス・メディアを読み解く（リベルタ出版）
メディア・プラクティス（せりか書房）
メディア・リテラシーの道具箱（東京大学出版会）

メディアと社会 II（放送）

小田茂一

【授業の概要】

視覚メディアの隆盛する今日。なかでも基幹メディアとしての「放送」からは多くの影響を受けている。その受け手として不可欠なリテラシーについて、視聴率、ＣＭ、ドキュメンタリー、スポーツ放送、教育ＴＶなどの現状と機能を展望するなかで考えていく。

【授業の目標】

マスコミとかマスメディアという言葉は、日常頻繁に使われている。しかし、その意味や各自がどのように捉えていけばよいのかについては、不確かな面がある。放送について、その仕組みを考えることで、メディア理解を深めたい。

【授業計画】

主な内容
多チャンネル化と生放送
視聴率と広告
ドキュメンタリー
メディア政治
テレビ放送の歴史と変遷
番組制作
教育テレビとデジタル化
知る権利とテレビ
メディアと人権
ＴＶとweb
（内容は、変更の場合がある）

【評価方法】

期末レポートおよび出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

記号の知／メディアの知（東京大学出版会）
メディア・リテラシー　媒体と情報の構造学（日本評論社）

メディアと社会 III（新聞）

小塚哲司

【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起きる日々の動きを映す鏡である。ＩＴ革命により、グローバル化、スピード化する２１世紀高度情報化社会。マスメディアは、そうした刻々と起きる地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をし、国民の「知る権利」に答えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されて可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。新聞記者、海外特派員の体験を踏まえ、主として新聞報道を素材として、ニュース報道への理解を深めるとともに、マスメディアの責務と職業観、勤労観も考えていきたい。

【授業の目標】

具体的なニュースの中で、知る権利、言論の自由、人権への認識を深める。

【授業計画】

1．マスメディア、新聞、ジャーナリズムの役割と機能
高度情報化時代の中で、それらが果たすべき役割。その歴史と日本、世界の新聞事情、デジタル時代を迎えたメディア事情。
2．マスコミの倫理と功罪
一度に大事件などを不特定多数に伝えられる点で、マスコミは有効だが、一つ誤ると大混乱する。公平な視点を欠けば、偏った見方を伝えてしまう。加害者、被害者の人権、プライバシーに十分な配慮が必要で、報道倫理は厳しく問われる。少年非行、実名、匿名問題の訴訟例、いじめ自殺、戦争とジャーナリズム、イラン核問題など、具体的なニュース報道で検証したい。
3．授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、主なニュースを解説。

【評価方法】

教室での応答、毎日の小レポートと期末レポートで総合評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

ジャーナリズムの思想（原寿雄著　岩波新書）

メディアと社会 IV（情報）

中島豊四郎

【授業の概要】

今日の社会において、情報は第４の資源と言われるように非常に重要、かつ必要不可欠なものとなっている。それゆえに、情報システムやネットワークシステムの不具合、また、誤った情報、伝達の遅れ等は、社会に多大の影響を及ぼす。その原因は、情報に関する業務に従事する人にあることが多い。

本講義では、情報化社会の進展と職業の変遷について、また、今日の社会を支えている情報システムの構築や運用を通して、情報に関する業務に従事する人に求められる職業（情報）倫理を含む職業観と勤労観等について学習する。

【授業の目標】

今日の情報化された社会、また、情報システムの重要性とその脅威を理解すること。さらに、情報システムの開発や運用に関する業務を理解し、それらの業務に従事する人達（開発者、運用者等）に求められる職業（情報）倫理を含む職業観と勤労観等について理解すること。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　今日の情報化社会の概観
第３回　コンピュータの発展の歴史
第４回　情報システムの概要と種類
第５回　情報システムの重要性
第６回　情報システム構築のプロセス
第７回　情報システムの運用の実際
第８回　情報に関する職業その１（構築サイド）
第９回　情報に関する職業その２（運用サイド）
第10回　情報システムの脅威とその対策
第11回　情報倫理の必要性と実際
第12回　情報に関する業務に従事する人の職場環境
第13回　職業倫理を含む職業観と勤労観
第14回　職業倫理を含む職業観と勤労観の教育
第15回　まとめ

【評価方法】

１）学期末の試験、２）レポート、３）受講態度、４）出席、５）その他等により総合的に行う。

【テキスト】

未定（開講時に指示する）

【参考文献・資料】

高度技術社会と人の生き方（東京大学出版会）

【備考】

理解を促進するためできるだけ履修者と対話する方式で進める。また、ビデオ等も用いる。

メディアと社会 V（ファッション・ブランド論）

山田登世子

【授業の概要】

ブランド文化論をとおして「現代社会」を考える。
とりあげるブランドは、ルイ・ヴィトンなど、いわゆるファッション関連のラグジュアリー・ブランドとする。
◇ファッションとは何か――「見た目」は人を語る
「見せる」ことと「隠す」こと
◇モードとは何か ――人はなぜ流行に左右されるのか
「流行」とは何か、トレンドはいかにしてつくられるのか？
◇ブランドって何？
ルイ・ヴィトン、エルメス、シャネルを例にとってブランドの文化史を学ぶ。
ある商品がブランドになる「条件」は何なのか。
人はなぜブランド品が欲しいのか?
◇大衆消費社会と贅沢
◇同一化願望と差異化願望
◇ひとはなぜおしゃれをするのか――ファッションとセクシュアリティ

上記のようなプランにそって「ブランドという現象」を考える。

【授業の目標】

ファッションやブランドといった日常文化の分析をとおして現代社会とそこに生きる自分を考える。

【授業計画】

講義ではありますが、授業に「参加」してもらうため、ぬきうちショートテストを毎回のようにやります。

【評価方法】

ショートテストなどの平常点を加味しますが、成績は期末レポートで。

【テキスト】

山田登世子「ブランドの世紀」マガジンハウス
山田登世子「ブランドの条件」岩波新書
山田登世子「ファッションを考える」

【参考文献・資料】

授業では適宜アクチュアルな資料を使用しますが、学生からの資料提供も期待します。

メディアと社会 VI（イベントプランニング）

大井 純

【授業の概要】

現代社会におけるイベントの持つ意義は、多種多様となっている。
文化、スポーツをはじめ国際博覧会から商店街のフェスティバルに至るまで、それぞれの目的に合わせたイベントのプランニングが要求され、同時に基本構想、基本計画、実施計画など専門知識が求められる。
更に、単に企業PRのみならず、公共イベント、祭などの地域活性化にもイベントは欠かせない。参加する立場から企画する立場に視点を変えることにより、メディアプロデュースの主流となりつつあるイベントプロデュースを深く理解することができる。
本講は、集中講義により、イベントの企画から実際までを現実モデルをもとに、ワークショップ形式で実習する。

【授業の目標】

イベントの実際を理解するとともに、プラニングを実習で体験することで、現代社会におけるメディアイベントについての幅広い知識を得る。発表とディスカッションを通じて、イベントのプロセスを理解し、企画とプレゼンテーション能力を高める。

【授業計画】

1．イベントの実例を分析
2．イベントの企画
3．イベントの提案
4．イベントの演出
5．イベントの評価

以上のようなプロセスをチームワークで実習する。主催、内容、予算設定、参加者などシミュレーションにより、現実に可能か検証していく。

【評価方法】

ワークショップでの発表、作品、レポートなど

【テキスト】

プリントを配布する

メディアと社会 VII（地域メディア）

高橋 徹

【授業の概要】

20世紀後半から電気通信メディアの技術的発展が産業、地域社会、個人、行政等に大きな影響を与えてきたことを把握し、地域社会におけるコミュニケーション環境の変化ついて電気通信メディアや通信ネットワーク等の普及過程から論じる。

【授業の目標】

メディアが地域社会の中で社会・経済・文化等の様々な側面と密接な関係にあることを理解し、地域社会が抱える問題とその対応策について考える力を身につけること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．電気通信メディアの歴史
2．地域メディアの普及導入
3．電気通信産業の展開
4．地域情報化政策の変遷
　1）地域産業の面
　2）地域文化の面
　3）コミュニティの面
5．地域開発と情報通信システム
6．電子政府・電子自治体の進展
7．市町村合併の動きと情報環境の変化
8．地域メディア整備に係わる経営と評価方法
9．デジタルデバイドと情報リテラシー
10．地域情報化をめぐる海外の動き

以上の項目についてテキストを中心に、随時プリント教材、VTRも使用する。

【評価方法】

定期試験、小テスト、出席率等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定。（授業にて配布する）

【参考文献・資料】

未定。（授業にて配布する）

メディアと社会 IX（メディア社会）

石田米和

【授業の概要】

今日、メディアの発展、それに伴う社会の情報化の進展が目覚ましい。そして、プライバシーの侵害、著作権等の知的所有権の侵害、利用者利益の阻害等の諸問題を契機として、情報モラルや情報リテラシーのあり方が取りざたされている。
本講義では、上記のような状況を踏まえつつ、およそ以下の項目について議論していく予定である。
・メディアおよびメディア環境の捉え方
・既存メディアおよびマルチメディアの機能と役割
・メディア環境の変容と社会的文化的影響
・情報メディアの利活用と諸問題　-プライバシーや知的所有権の侵害など
・メディア社会とどう関わるか　-情報モラルや情報リテラシー

【授業の目標】

メディアの発展状況や問題点の理解を通して、メディアのあるべき姿について考え議論する能力を養うこと。

【授業計画】

基本テキストの解説・関連学習を中心に、適宜、参考資料、映像資料等を使用する。

【評価方法】

評価は、レポート提出、定期試験、受講態度により行う。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

未定

メディアと社会 X（映像情報）

大西 誠

【授業の概要】

現代社会は映像情報にあふれている。情報化社会の中で、映像によるメッセージの伝達は効果的であると同時に影響力も大きい。19世紀の写真術に始まり、映画、テレビと進展してきた映像の歴史をたどりながら、社会・文化などとの関わりを考察する。またインターネットなどに見られるデジタル化によって可能になったフェイクと呼ばれる似せ映像情報の流通、プライバシーとセキュリティなどについても検討を加え、ネットワーク社会における倫理を含め、映像の役割を展望する。

【授業の目標】

映像によってもたらされる「現実」と実社会に存在する事実として把握される社会的現実との関係を理解する。また映像メディアの情報提供の基本構造を知識として得ることから、「現実」を構成する能力（編集能力）を高める。

【授業計画】

講義形式

1．映像メディアと社会的真実
2．映画の娯楽性と報道性
3．映像ドキュメンタリーの成立
4．プロパガンダと影響力
5．テレビ的真実
6．映像とプライバシー
7．映像のコピーとネットワーク
8．インターネットと仮想現実
9．情報操作のテクニック
10．記号としての映像

などで構成する。

【評価方法】

出席状況、小テストと学期末レポートなどによる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

映像情報論（丸善）ほか

メディアと情報 I（マルチメディア情報）

辻 紘良

【授業の概要】

マルチメディア情報を構成する要素は画像、映像、音、通信であり、また一方、認識と創作という両面を持ち合わせている。ここでは、これらの種々の特徴を示すとともに、技術、システム、応用の面から全体の体系と相互の関連性をわかりやすく提示する。あわせて、技術的な内容について基本となる原理を中心に説明し理解を進める。

【授業の目標】

1．マルチメディアを構成する基本となる技術、システムについて体系的な理解を深める。
2．コミュニケーション手段としてのマルチメディア情報の多様な面を理解し、その創造的展開を図る能力を培う。

【授業計画】

1．マルチメディア情報学の基礎
2．情報を用いた問題解決
3．情報の伝達
4．情報の収集と発信
5．情報の表現
6．文字と音の情報処理
7．情報の計測と制御
8．表現の技術
9．情報化社会

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア活用の実例や実験例を提示し理解を深める

【評価方法】

課題の提出や期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

マルチメディア-基礎から応用まで-（マルチメディア編集委員会編 CG-ARTS協会　p393）
マルチメディア情報学の基礎（長尾・安西他編著　岩波書店　p240）

メディアと情報 II（マルチメディア・デザイン）

川澄未来子

【授業の概要】

マルチメディアを利用したコミュニケーションやシミュレーションのために必要となる知識やデザイン手法について学ぶ。特に、コンピュータや通信環境にも配慮しながら、図形処理や映像、処理の方法から情報メディアの在り方まで概説する。

【授業の目標】

実際の制作でどのようにしてデザイン情報を扱っていくか、映像教材を視聴しながら具体的に学ぶ。

【授業計画】

画像・映像・サウンドなどのマルチメディア教材を利用しながら学習をすすめる。特に、マルチメディアを利用したコミュニケーションやシミュレーションに関係の深い、次のトピックスについて学ぶ。

（1）デザイン表現の歴史
（2）アイディアから形へ
（3）形・色・質感のデザイン
（4）グラフィックの表現
（5）アニメーション
（6）モーションキャプチャ
（7）カメラワークとライティング
（8）マルチメディアデザインの応用

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。（評価点の配分は授業にて説明する。）

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

ビジュアル情報表現（CG－ARTS協会）
ディジタルイメージクリエーション　デザイン編CG（CG－ARTS協会）
コミュニケーションデザイン編　マルチメディア標準テキストブック（CG－ARTS協会）

メディアと情報 III（マルチメディア・システム）

辻 紘良

【授業の概要】

コンピュータ、インターネット、デジタル通信・放送など、マルチメディア関連技術は21世紀を支える根幹技術となっている。ここでは、おもにマルチメディア関連の情報処理およびシステムと応用技術の基本を学修し、現状技術の理解と今後の展開への基礎とする。

【授業の目標】

1．マルチメディア情報処理や機器に関する基本的な理解を深めるとともにシステム応用面を把握する
2．マルチメディアシステムの多面的な展開を理解するとともに進展する今後の展望を得る。

【授業計画】

1．概論
2．マルチメディア情報処理
3．文書・画像・映像・音声処理
4．コンピュータグラフィックス
5．マルチメディア応用
6．放送・通信方式
7．ヒューマンインターファース
8．マルチメディアシステムと構成要素
9．システムハードウエア
10．周辺機器
11．システムソフトウエア
12．インターネット
13．マルチメディア応用システム

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア技術の実例やシステム例を提示し理解を深める

【評価方法】

小テストや期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

マルチメディア・基礎から応用まで（CG-ARTS協会　p393）
マルチメディア情報学の基礎（長尾・安西他編著　岩波書店　p240）

メディアと情報 IV（情報メディア史）

親松和浩

【授業の概要】
情報メディアの特性を歴史的、技術的な視点を交えて概論する。

【授業の目標】
さまざまな情報メディアの特性を理解する。

【授業計画】
1．情報メディアとは
2．文字の文化と活版印刷
3．写真
4．映画の誕生
5．無線通信と電信電話
6．音響技術
7．テレビジョンの誕生と発展
8．大型計算機からインターネットへの発展
9．デジタル革命

【評価方法】
出席状況と課題レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】
未定

メディアと情報 V（マルチメディア・プロデュース）

小田茂一　東 重利　尾崎雄一　辻岡俊幸　行木 修　善金弘吉

【授業の概要】
マルチメディアの時代、新しいビジネスが生まれ、それをプロデュースする方法や考え方も多様化している。マルチメディア・ビジネスを進化させていくには、どのようなことが大切なのか。そのポイントを現場での具体例を通じ、プロデュースするという視点から学ぶ。
デジタル放送と通信、web活用、コンテンツの多角的展開、社会システム（ITS）、出版や新聞のデジタル化などICT（情報コミュケーションテクノロジー）を活用したビジネスを、第一線でプロデュースするプロデューサーが、具体事例をもとに解説していく。
（各講師によるオムニバス方式）

【授業の目標】
変化の激しいマルチメディアの現場に、プロデュースするという視点からアプローチし、実際のビジネスのすがたを通じて、マルチメディア・コミュニケーションビジネスのイメージを明確にしたい。

【授業計画】
各ジャンルごとの講師によるオムニバスで講義をおこなう。

マルチメディア・プロデューサーの仕事（1）～（3）
ＰＣネットワーク　ｗｅｂビジネス（1）～（3）
デジタル放送と通信ビジネス（1）～（3）
ＣＧ制作とデジタル映像ビジネス（1）～（2）
マルチメディア社会システム（1）～（3）

映像、web画面等の資料を使用する。

【評価方法】
レポートおよび出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業内で適宜紹介する。

メディアとコミュニケーション I（メディア心理）

太田浩司

【授業の概要】
「メディアの影響」や「メディア利用」などメディアとコミュニケーションの主要なパラダイムの中にある理論を利用して、我々人間のメディア使用とコミュニケーション活動について考察する。

【授業の目標】
本講義の目標はコミュニケーション論でのマスメディアの部分に特化し、人間コミュニケーションとメディア使用に関する社会科学的見地から提唱された理論を概観することである。さらに我々の社会生活におけるメディアの果たす役割や問題など実践面について理解を深める。

【授業計画】
学期の最初の授業に詳しい予定を提示する。従って必ず出席すること。講義は以下の内容を含む予定である。
1．メディアモーフォシスとコミュニケーション
2．コミュニケーションと玩具
3．音楽とコミュニケーション
4．パラソーシャルインタアクション、アイデンティフィケーション
5．サブリミナル効果
6．メディア暴力と培養理論
7．メディアと説得コミュニケーション
8．ケータイ電話使用とコミュニケーション
9．コンピューター使用とコミュニケーション

【評価方法】
出席
ショートペーパー
タームペーパー
期末試験

【テキスト】
Readerを作成します

【参考文献・資料】
ケータイ学入門：メディア・コミュニケーションから読み解く現代社会
子供の発達とテレビ（村野井均　かもがわ出版）
ケータイを持ったサル（正高信男　中公新書）
メディアと人間の発達（坂元章編、学文社）

メディアとコミュニケーション II（サブカルチャー）

太田浩司

【授業の概要】
この授業ではコミュニケーション論の異文化間コミュニケーションの部分に特化し、現代日本社会における様々なグループ間でのコミュニケーションの現状と特徴について概観する。特に「変化」という概念に注目し、社会アイデンティティー理論の立場から異文化、サブカルチャー、共文化などと呼ばれるグループに属する人々の間で繰り広げられるコミュニケーションについて吟味をする。

【授業の目標】
本講義の目的は大きく分けて次の二つである。一つには、めまぐるしく変化する現代社会の中で我々自身や異なる集団に属する人々をどのようにとらえ、その人たちとどのようにコミュニケーションをしているかについての理解を深めることである。第２の目標は、現存する様々な問題を解決していく為には我々一人一人がどのようなことが出来るかを考え、自分なりの提案をすることである。

【授業計画】
詳しい授業の計画は初回の講議で説明する（必ず出席すること）が、以下の内容を授業で扱う予定である。
（1）社会アイデンティティー理論
（2）偏見と差別
（3）ステレオタイプ
（4）コミュニケーション調節理論
（5）文化と価値観
（6）異文化間コミュニケーション
（7）スティグマ（Stigma）と対人プロセス
（8）異文化と教育

【評価方法】
テスト１回（期末）、短いペーパー２回の予定。出席

【テキスト】
異文化理解（青木保　岩波新書）

【参考文献・資料】
多文化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　三修社）

メディアとコミュニケーション Ⅳ（ヴィジュアル）

小田茂一

【授業の概要】
絵画・写真・映像作品についての鑑賞を軸に、ヴィジュアル・メディアの歴史的変遷、メディア相互間の影響関係、メディアへの社会的要請について解説していく。

【授業の目標】
絵画などヴィジュアル・メディアを通して、コミュニケーション過程の基礎知識を習得する。また、絵画や写真などの、相互連関や視覚メディアとしての変遷とその意味を考え、議論できるようにする。

【授業計画】
絵画・写真・映画などを、視覚メディアとしての視点でとらえ、それを通してのコミュニケーションの変遷をたどっていく。
主な内容
絵画の約束ごと
画像表現の歴史　～カメラ・オブスキュラ～
写真術の誕生
写真の芸術性と記録性
絵画表現の変貌 ～写真の瞬間性に学ぶ～
点描による絵画　～モネ、スーラ、ゴッホ～
映画（映像）の登場
動態（時間）を絵画描写する
アウラの消失と複製技術の時代
平面化する絵画
ヴィジュアル化の進展とコミュニケーション

絵画、写真、ビデオ映像等の資料を適宜使用する。

【評価方法】
期末レポートおよび出席状況によって評価する。

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業で紹介する。

メディアとコミュニケーション Ⅴ（映像演出A）

坂元 多

【授業の概要】
ビデオや映画の中の表現テクニックを抽出して映像制作方法として一般化、法則化を試みる。
映像制作は高い独創性が要求される。これは説明や講義で学べるものではない。数多くの優れた作品に接しながら、これを理解し、消化する中で制作の手がかりを得る。

【授業の目標】
映像作品を分析的に観賞できる技能、態度を養う。

【授業計画】
映像作品の試写と解析。

【評価方法】
授業時間内のテストで評価。

【テキスト】
特になし。

メディアとコミュニケーション Ⅵ（映像演出B）

大西 誠

【授業の概要】
黒澤明の「七人の侍」を中心に、国内外の名作映画の中から、シーンを抽出し、映像技法という角度から分析し、制作者の意図と演出の意味について学ぶ。

【授業の目標】
用語理解および実際の映像分析を通じて、映像技法の知識を身につける。また様々な事例を検討することを通じて映像文法やテクニックを学び、映像批評能力を高める。

【授業計画】
すぐれた映像は、一定の技術を使って集団で作品を作り上げる職人的要素と独自の語り方を表現する作家的要素によって成り立っているといえる。本講では、日本人監督の作品を中心に映像が生み出す感動や驚きに焦点をあてて、数々の映像技術を取り上げ、その方法論を解説する。あわせて映画が作り上げてきた映像文法を考察する。
具体的には、下記のような技術を用いた映像場面を取り上げて検討する。
・ミザンセヌと構図
・クロース・アップとロング・ショット
・アクション・カットとダイアローグ・カット
・オーバー・ラップとフェード・アウト
・マルチ・カメラ
・スローモーション
・パン・フォーカス（ディープ・フォーカス）
・ワンシーン・ワンカット
・モンタージュ

【評価方法】
授業への参加度、リポート、期末の試験などで総合評価する。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
一人ででもできる映画の撮り方（洋泉社）

放送制作実習 Ⅰ（基礎）

宮原美佳

【授業の概要】
ビデオカメラやコンピュータの個人所有が一般的になった現在、映像はテレビや映画関係者などプロだけが制作するものではなくなった。趣味の撮影、会社での記録や、プレゼンのため、webでの映像配信など、だれでもが映像（情報）の発信者になれるようになった。しかし、人に何かを伝えるためにはただ撮影すればいいというものではない。ビデオカメラで撮影するだけでは記録にすぎない。人に見せる、伝えるという意志を持って、撮影、編集することによりメッセージが生まれる。
この授業ではテレビ番組の制作方法をベースに、企画、撮影、編集の基礎を行ない、映像で他者に何かを伝えるということに取り組んでもらう。実際に自分で番組制作をすることにより、現実に放送されている映像、情報の虚実を読み取る力をつける。

【授業の目標】
この授業には正しい答えがありません。
個人でテーマを見つけ撮影して編集します。
自分で学ぶスキルを一緒に発見してゆきましょう。

【授業計画】
最終課題として、デジタルビデオカメラ等を使用して、２分間の自己PR番組を制作する。それに向け番組制作の基礎理論と演習を行なう。
メディアプロデュースコース希望または専攻者が望ましい。

【評価方法】
出席回数、授業態度、課題で総合的に評価する。

【テキスト】
なし

放送制作実習 II（スタジオ）

大西 誠

【授業の概要】

スタジオ機器を使用して、番組を制作する。基本技術と企画・演出などを講義と実習を通じて理解し、放送が個人プレイによるものでなく、集団で作り上げるものであることを学ぶ。またカメラ、音声、照明など技術面とディレクターやフロア・ディレクター、出演者など演出面を実地に経験することにより、制作における問題点を理解し、番組制作の裏面からメディア・リテラシーを身につける。

【授業の目標】

グループによる番組の制作を通じて、メディア・リテラシー能力を高める。また、お互いに意見を出しあうコミュニケーション能力や、リーダーシップ、チームワークなど社会性を身につける。

【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

1．スタジオカメラ、音声等制作技術
2．出演者とスタッフの関係
3．企画の立て方、台本の書き方
4．放送素材/ロケーションと編集
5．スタジオ収録と試写

メディアプロデュース・コース専攻者が望ましい。実習の積み重ねが大切なのでチームワークを大切にしてほしい。

前半はニュース番組、後半はトークショー／情報番組を10人～15人のグループで制作する。

【評価方法】

実習の態度（チームワーク）と作品及びリポートで評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

資料を必要に応じて配布する。

放送制作実習 III（音声表現）

三久保角男

【授業の概要】

この授業では、アナウンスやナレーションをはじめ、言葉によるわかりやすい伝え方、相手から本音を引き出すインタビュー術、聞き取りやすい発音やアクセント、現場レポートなどを実習形式で学ぶ。最終的には、２分程度の音声による作品を制作する。

【授業の目標】

音声で表現すること、音声メディアの特徴と限界を学び、自らも音声で表現できる基礎的なスキルを獲得する。

【授業計画】

1．音声と映像
2．ナレーション／アナウンス
3．インタビュー
4．レポート
5．番組構成
6．録音／編集
7．課題提出

【評価方法】

課題の提出状況、受講態度、最終作品などにより、総合的に判断する。

放送制作実習 IV（ドキュメンタリー）

小田茂一

【授業の概要】

現代社会をビデオカメラの目を通して見つめる力を実習と理論で養成する。カメラによって切り取った事実を、編集という作業によって構成していく。そのことで、テレビ表現の世界を認識する。

また作品の制作を通じ、ドキュメンタリー番組のあり方や問題点について考える。（放送制作実習I受講済が条件）

【授業の目標】

短い番組（５分程度）を企画・構成・撮影・編集・作成する過程を通じ、「放送制作実習I」で学んだ制作能力をさらに高める。また、普段の認識と映像表現されたものとの差異を把握することで、放送についての理解を深める。またそのことを、メディア・リテラシーにつなげたい。

【授業計画】

実習と講義を組み合わせる。ドキュメンタリーの意味、方法論を知るとともに、企画（テーマの選び方）から番組完成までの手法を学ぶ。最終的には、インタビューやリポートを取り入れての番組（５分程度）を制作する。

1．ドキュメンタリーとは？
2．ドキュメンタリー番組の企画
3．ドキュメンタリー番組の構成
4．ドキュメンタリー番組の編集
5．ドキュメンタリー番組の作成
6．ドキュメンタリー番組の評価

２～３人のチームワークにより、撮影実習から番組制作へと進めていく。
自ら取材する意欲、問題意識が求められる。
ドキュメンタリー番組や新聞の企画記事などへの普段からの関心が大切。

【評価方法】

作品の内容、実習での成果により評価する。

【テキスト】

使わない。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

放送制作実習 V（ドラマ）

大久保晋作

【授業の概要】

ドラマ（TVドラマ番組）制作を試みることによって、自然や人間を見つめる目を育てるとともに、現代社会を把握する一つの方法を身につける。

また、ドラマがいかに多くの人を経て制作されるかを知ることによって、その中に現れる芸術性や文化の創造性について考える。

【授業の目標】

・日常の中でTVドラマを制作することによって、現代社会を把握する力を養う。
・TVドラマの制作には、他人との関わりが大切な条件となることを知る。

【授業計画】

講義は、下記のようなもので構成される。

1．TVドラマの条件
2．TVドラマの企画
3．台本の決定と演出
4．TVドラマの美術
5．TVドラマの技術（カメラ、音声、照明）
6．演技者
7．編集
8．完成/試写

など

多くのドラマ番組を視聴しながら、理論と実習を組みあわせる。また制作現場を見学し、理解の一助とする。

【評価方法】

授業への参加度、課題リポートで総合評価する。

【テキスト】

なし。

デジタルメディア実習 I（CG画像制作）

石丸 緑

【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理の基礎を学習する。
２次元画像の作成・加工のプロセスを体得し、作品制作までを行う。

【授業の目標】

２次元画像編集ソフトの基本的操作方法の理解と作品を制作することでCGでの表現方法の多様性を発見する。
イメージを形にする楽しさを体験してほしい。

【授業計画】

1　ガイダンス（画像処理）Adobe Photoshopの基本操作
2　画像合成演習－選択範囲、マスクの作成
3　画像合成演習－レイヤー作成
4　画像処理演習－ペイント、レタッチ
5　画像合成の実践－コラージュ作品制作
6　画像合成の実践－コラージュ作品制作
7　Adobe Illustratorの基本操作
8　パスやブラシによるイラストの作成演習
9　テキストのデザイン演習
10　グリーティングカードの作品制作
11　グリーティングカードの作品制作
12　IllustratorとPhotoshopの連携
13　テーマ課題（実習）
14　テーマ課題（実習）
15　テーマ課題・講評

【評価方法】

出席状況と提出課題
（３課題）の評価採点。

【テキスト】

CGデザインの入り口（石丸みどり著　株式会社マナハウス発行）

デジタルメディア実習 II（CG動画制作）

親松和浩

【授業の概要】

コンピュータによる動画像・３次元図形処理の基礎を学習する。
動画像の作成・加工とウェブページへの応用のプロセスを実習し作品制作まで行い、３次元画像についてモデリングからレンダリングまでの一連の処理プロセスを実習する。
３次元グラフィックは、現実世界をモデル化し、光の反射屈折透過をシミュレートするものである。授業では、コンピュータグラフィックがメディア作品に使われるだけでなく、フライトシミュレーターなど工学医療等の様々な分野で幅広い応用を持つことも紹介する。

【授業の目標】

動画像と３次元画像の制作の基礎的な概念と技能を習得する。

【授業計画】

1　コンピュータグラフィックとシミュレーション
2　画像処理の基礎–基本図形、ベジェ曲線、テキスト
3　簡単なアニメーションの作成
4　アニメーションを利用したウェブページ
5　アニメーションの作成技術
6　インタラクティブなアニメーション
7　課題１：アニメーションを利用したウェブページ
8　３次元グラフィックの作成手順
9　３次元グラフィックの作成技術
10　３次元グラフィックのアニメーション
11　課題２：３次元グラフィックの制作

【評価方法】

出席状況と提出課題の評価。

【テキスト】

未定（開講時に指示する）

デジタルメディア実習 III（デジタル映像制作）

辻 紘良

【授業の概要】

最近は高度な映像処理がパソコンを用いて誰にでも簡単にできるようになっている。ここではデジタル映像処理技術の基礎を学習するとともに、ビデオ素材の処理・編集操作を体験的に学習する。ビデオ素材の取り込みからムービー作成まで通して行うことにより、一連のデジタル映像処理プロセスを習得する。
毎回、講義の前半は映像処理理論と操作法の説明、後半はパソコンを用いた映像処理の実習を行う。

【授業の目標】

1．デジタル映像処理の基礎と編集処理の基本的な体系を理解する。
2．パソコンによる映像制作の実習を通して、体験的にデジタル映像編集を理解、体得する。

【授業計画】

1．ムービー作成の流れ（シナリオ、ロケ、カット表）
2．ビデオカメラの使い方と撮り方
3．デジタル映像処理の基本
4．環境設定とプロジェクト設定
5．映像とサウンドの取り込み
6．ビデオの編集（１）分割・削除・トリミングなど
7．ビデオの編集（２）インサート・オーバーレイなど
8．サウンドの編集
9．映像に特殊効果（フィルタ）を付ける
10．トランジション（場面転換）の使用
11．映像のモーション設定（回転、移動、変形）
12．文字と画像の合成処理（重ね合わせ）
13．タイトル画面の作成と文字アニメーション
期末には各自小規模なムービーを作成し、期末の課題として提出する。
デジタルビデオ・カメラは貸し出しする。

【評価方法】

課題の提出状況や期末作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Premiere Pro の仕事術（毎日コミュニケーションズ）

デジタルメディア実習 IV（電子音楽制作）

渡邉 康

【授業の概要】

マルチメディア表現を構成するにあたって、音響、音声、音楽は、欠くべからざる要素である。そこで、音データの編集・処理・音楽ファイル作成の実習を通して、サウンド処理の基本原理とプロセスを体得する。さらに、Midiを使った音楽データ製作の演習により、より個性的なマルチメディア表現の獲得を目標とする。Cubase SXを使用する。

【授業の目標】

1．音声トラックの効果的な構成を各種エフェクトを使用することなどで行う。
2．オリジナル曲を作曲できるように学習する。

【授業計画】

（1）　授業概要、メディアランドの利用法、Mac Osの基本操作
（2）　Cubase SXチュートリアル
（3）　Audio処理によるムービーサントラ制作
（4）　Audio処理によるムービーサントラ制作
（5）　発表
（6）　Midiによる課題曲の打ち込み
（7）　Midiによる作曲法の演習
（8）　Midiによる作曲法の演習
（9）　MidiデータとAudioデータの融合
（10）　発表
（11）　Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作（楽曲制作を中心に）
（12）　Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作（楽曲制作を中心に）
（13）　発表

【評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度の総合評価。

【テキスト】

毎回プリント配布

メディアプロデュース演習 Ia・b

石田米和

【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習IIや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

概ね、以下のようなテーマを考えている。

1．社会科学における方法論・手法論
2．理解力・洞察力・表現力等
3．メディア（環境）の変容とその影響
4．メディア文化の考え方
5．関心テーマ（卒業論文）の模索

【授業の目標】

社会とメディアとの関係を考えるための分析視点や枠組みの設定および問題意識～仮説構築～分析～結論という一連の調査分析技法を習得する。

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君のプレゼンテーションとをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な関連学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定。英文も使用する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース演習 Ia・b

太田浩司

【授業の概要】

音声、文字、画像などの表現・伝達媒体としてのメディアは文化や社会集団と密接に結びついている。テレビ、新聞、雑誌、インターネット、映画などでのマスメディアで繰り広げられる対人コミュニケーションや異文化間コミュニケーションのプロセスについて概観する。そこに潜む様々な人間心理について観察、実験、コンピュータを使用してのデータ分析・研究発表を通して理解を深めて行く。

【授業の目標】

授業の主な目的としては（1）対人、異文化、マスコミュニケーションの様々な理論的視点を概観すること、（2）人の前で適切な語彙を使用し、自分の意見を発表できる能力を培うこと、（3）新たな知識や情報を作り出すプロセスについて実践を通して理解を深めること、である。

【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示する。以下の内容を含む予定である。

1．メディアのとらえかた
2．文化としてのメディア
3．社会グループとメディア
4．対人コミュニケーションと人間関係
5．異文化とコミュニケーション
6．研究方法
7．データ分析
8．論文作成

【評価方法】

出席、口頭発表、タームペーパー

【テキスト】

メディアとコミュニケーションリーダー（Ia,b）

【参考文献・資料】

言葉の社会心理学（岡本真一郎　ナカニシヤ出版）
メディアと人間の発達（坂元章編　学文社）
ケータイ学入門（岡田朋之　松田美佐　有斐閣選書）

メディアプロデュース演習 Ia・b

大西 誠

【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、メディアの自明性に疑問を向け、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。授業では、テキスト（プリント）をもとに事件報道の問題点，地域や世界の理解の仕方などに眼を向け、多面的かつ多角的な考え方を身につける。またメディア表現の基礎を身につける。

【授業の目標】

幅広い視野を身につけるための基礎的な知識を身につける。テキストの解読を通じて、メディア情報やメディア表現についての分析能力を高める。各種のワークショップを通じてメディアン表現（プレゼンテーション）能力を高める。

【授業計画】

＜前期＞

現代社会をダイナミックに理解するために、言語、イメージ、情報などを地域、世界に目を向け、複眼的にとらえ、メディア表現を読み解くとともに、ワークショップを通じて表現の技術を学ぶ。

1）テキストの解読
2）メディア表現の技術/プレゼンテーション

＜後期＞

メディア・リテラシーの中でも特に表現技術やテキスト編集に焦点をあて、個人またはグループごとに課題を設定し、調査・発表する。

1）ワークショップと発表
2）メディア理論の基礎

【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなど。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

知の技法（東京大学出版会）

メディアプロデュース演習 Ia・b

小田茂一

【授業の概要】

絵画・写真・テレビなどの持つ視覚メディアとしての側面に注目し、各ジャンルの具体的作品を「鑑賞」し、各自がその鑑賞成果を報告することなどを通して、メディアへの多面的な理解を図る。

【授業の目標】

近・現代の絵画作品からテレビ番組まで、ヴィジュアルな世界についてクリティカルに読み解いていくこと、さらには、制作についても体験することで、視覚メディアへのリテラシーと鑑賞力を高めていきたい。

そのためには、アートを含めた視覚メディア全般に広い興味のあることが望ましい。

【授業計画】

メディアとしての視点から、絵画からテレビなどまでをとりあげ、具体的作家と作品に注目しながら、様々な課題について考えていく。

ゼミの内容・方法としては

1）美術作品をメディアとして読み解く。
2）美術館などでの鑑賞を通じた「受け手」としての感想をもとに議論をおこなう。
3）映像文化としての放送を考える。
4）デジタルカメラ・ビデオカメラなどで撮影・構成してみることにより、メディアについての理解を深める。
（さらには、映像作品制作につなげる）
5）アートマネジメントの視点から展示・鑑賞などについて考える。

【評価方法】

ゼミでの報告、実習内容で評価する。

【テキスト】

適宜、使用する。（メディアについての何種類かの文献を講読する）

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

メディアプロデュース演習 Ⅰa・b

親松和浩

【授業の概要】

情報メディア技術をはじめとした科学技術をどのように利用していけば、私たちの暮らしを豊かにそして幸せなものにできるかを考えていきます。演習Ⅰでは、自分自身の考えをまとめて、文章にしたり、人前で報告する練習を行い、「調査、分析、報告までの一通りのプロセスを体験」して、卒業論文/制作に繋げていきます。

【授業の目標】

情報メディアをはじめとした科学技術を暮らしに活かすことをテーマとして基本知識を習得し、調査、分析、報告の技能を養う。

【授業計画】

「暮らしと自然環境について考える」「情報メディアを利用した作品や教材の制作」を目指す基礎固めとして、次の課題に取り組む予定です。

1．自然環境を考える　～デジカメやパソコンを利用した自然観察～
2．自分史を書く　～世の中の移り変わりと自分の進路を考える～
3．Webやケータイを利用した情報サービスの研究
4．科学館/博物館見学

【評価方法】

授業の参加度や報告レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習 Ⅰa・b

古賀暁子

【授業の概要】

－映像の面白さを“ことば”で語る－

現代は映像の時代だといわれている。生活の中で映像の読解や映像による表現の必要性は日々に増している。

古今の映像、それが１枚の絵や写真、映画の１シーン、テレビCMの１場面であれ、自分に訴えてくるものを、ことばによって追い求め、知の枠組みとして構築してみることは愉しい。一人で楽しむのもいいが、授業では、この愉しみを仲間と共有してみよう。

【授業の目標】

映像を多角的に味わう力を養うとともに映像の世界を拡げる。

【授業計画】

各学生が自分のこだわりの映像を提示し解説し、全員でこれを解析してゆくことを中心とする。自作の映像作品を題材とすることも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、期末レポートなどによって常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習 Ⅰa・b

五島幸一

【授業の概要】

新聞、テレビ、雑誌や広告などの様々なメディアを概観し、その特徴を考えていく。それとともにそのようなメディアを通して流されるメッセージの内容を考察する。

【授業の目標】

私たちの身の回りにあるメディアの特徴を覚え、そのメディアを通じて流されてくるメッセージ（コンテンツ）を分析し、人々にどのようにアピールしているのかについて、コミュニケーションの視点から理解すること。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。とくに、学生主体の発表とするので、学生はプレゼンテーションを考えること。

【評価方法】

授業への参加度、与えられた課題についてのプレゼンテーション、およびレポートをもって評価の対象とする。

ゼミでは学期末試験を行わないかわりに、レポートを課す。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習 Ⅰa・b

辻 紘良

【授業の概要】

マルチメディアを題材に取り上げ調査、研究を進めていくために不可欠な問題の設定とそのアプローチの方法、そして論理的な思考の方法や表現・発表の方法を実際に体験することにより修得する。

実施にさいしては、マルチメディアの最先端のトピックスを取り上げ調査・研究を進める。また、マルチメディアの社会的な意味についても調査検討を行う。

【授業の目標】

1．マルチメディアを構成する要素技術、システムおよびその社会面について広範な理解を深める。
2．マルチメディアを対象に課題（テーマ）を設定し、調査・分析を行う。また、調査・分析を進めるための方法論を構築する力を培う。

【授業計画】

1．マルチメディアの基礎
2．マルチメディアの社会論
3．IT技術の利用や普及に関する調査と発表、討議
4．次世代マルチメディアに関する調査と発表、討議
5．調査・研究の位置付けや論文の構成の理解
6．問題の設定とアプローチの方法
7．表現の技術ー論文の作法

OHPやプロジェクターを用いた発表、ホームページによる公開等、プレゼンテーション各方法の活用をはかる。

【評価方法】

課題の提出状況や期末試験の結果、ならびに作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

入門マルチメディア（編集委員会編、画像情報教育振興協会、p191,2006年）

メディアプロデュース演習 IIa・b

石田米和

【授業の概要】

演習Iでのテーマをより深化させて、各自の関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。

概ね以下の項目についての指導を行っていく。

メディア文化に関する議論、個別研究

関心テーマの絞り込み

卒業論文の作成計画

卒業論文の執筆

【授業の目標】

問題意識をより深化させ、仮説設定、資料収集と分析、理論構築等の卒業論文作成に不可欠な能力を習得すること。

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース演習 IIa・b

太田浩司

【授業の概要】

演習Ia・bに引き続き個人が社会生活の中でどのようにコミュニケーションをしているのかを調査・研究をする。前期は、調査を行った結果を社会の中にどのようにフィードバックをしていくかという応用面に焦点を当てる。後期は研究した内容について報告書を作成することを目標とする。

前期はグループプロジェクト方式、後期は卒論に向けての個人プロジェクトという形式を採用する予定である。

【授業の目標】

自らが問題視をしている社会的事象に関して適切な方法でリサーチして、適切な言葉を使用して表現、議論する技術を身につけることを授業の目標とする。

【授業計画】

学期の最初に提示する。

【評価方法】

個人の口頭発表とプロジェクト

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

随時配布をする。

メディアプロデュース演習 IIa・b

大西 誠

【授業の概要】

演習Ia・bをさらに発展させる。

メディアプロデュースの実際について、企画から実施まで制作を試みる。それぞれの感覚や独自性の伸長を図る。

【授業の目標】

テキストの解読を通じて、メディア論の基本を理解する。またメディア表現（プレゼンテーション）などを通じて自己表現力を高める。研究成果をまとめることにより、論理的思考力と情報編集能力を身につける。

【授業計画】

テキスト、映像などの素材をもとに発表と討論を行う。

＜前期＞

写真、映画、テレビなど様々なメディアの映像を読み解くとともに、現実のメディアの動向に目を向けて、ジャーナルな感覚を身につける。

1）テキストの解読・要約と意見の発表

2）メディア表現の分析と討論

＜後期＞

前期に引き続き、メディア表現について、各自テーマを設定し、分析に取り組む。またグループワークとしてメディア企画のシミュレーションを行うとともに具体的な成果物の作成にとりくむ。

1）展示企画/イベント企画

2）映像制作

【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなどの提出などにより総合的に評価。

【テキスト】

映像論（NHK出版）

メディアプロデュース演習 IIa・b

親松和浩

【授業の概要】

演習Iをふまえて、各自が具体的なテーマを設定し、調査研究論文を完成させる。特に、情報通信技術に関連するテーマについては、より実践的研究として、パソコンを利用した教材制作も視野に入れる。

【授業の目標】

情報メディアをはじめとした科学技術を暮らしに活かすことをテーマとして基本知識の習得しその理解を深める。また調査、分析、報告の技能を実践的に磨いてゆく。

【授業計画】

以下の課題に取り組むとともに、学生の発表、ディスカッションによって調査研究（教材制作）を完成させていく。演習I同様、資料の配付や収集、レポート提出には電子メールとWWWをフルに活用する。

1．メディアとしてのコンピュータ　～コンピュータ言語Squeak～

2．科学技術の発展と暮らし　～旧暦とピラミッドからGPSまで～

3．理科実験キットの評価検討

4．科学館・博物館見学

【評価方法】

授業の参加度と報告レポート等で総合的に評価する。

メディアプロデュース演習 IIa・b

北出真紀恵

【授業の概要】

前期は、文献購読を通して現代的なメディア状況をよりよく理解し、メディアと社会の関係をとらえる視点を養う。

後期は、これまでの研究内容を踏まえ、卒業研究に関する構想発表の場としたい。

【授業の目標】

メディア社会に対する理解を深め、メディア・リテラシーを身につける。また卒業研究に向けた基本的な準備を行う。

【授業計画】

1．全体計画提示
2．文献購読
3．卒業研究構想と討論
4．卒業研究の発表

【評価方法】

授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

【テキスト】

『改訂版　メディア論』（放送大学教育振興会）（予定）

【参考文献・資料】

メディア・プラクティス（せりか書房）

メディアプロデュース演習 IIa・b

古賀暁子

【授業の概要】

演習Iでの経験をもとに、映像の世界を更に深く遠く旅することにしよう。その過程では、先達の遺したすぐれた作品に感動したり、その時代としての新しい挑戦の意義に気付いたりすることも必要だ。映像の面白さをあえて言葉で分析し、整理し、表現することを学ぶことによって、注意深く“見る”眼が養われ、映像表現のテクニックも身につくことであろう。

【授業の目標】

映像を注意深く視る力を養い、映像の世界を更に拡げる。

【授業計画】

演習Iとの相異点は、学生主体の発表に課題を与え、方向性を加味する。話し合うだけでなく、論理的な文章としてまとめる訓練も行う。演習Iと同様、自作の映像作品をもちよって全員で検討することも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、レポート、自主研究の深まりなどにより常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習 IIa・b

五島幸一

【授業の概要】

演習Iを発展させて、様々なメディアの特徴を理解するとともに、メディアを通じて流されてくるメッセージの内容を分析する。具体的には、ニュース報道、広告、またはテレビドラマなど様々なものを対象にして、コミュニケーション（とくにレトリック批評）の観点からその内容を考察する。

授業はテキストを輪読するとともに、学生は自分たちの興味あるトピックをみつけ、それを発表することが課せられる。

【授業の目標】

メディアがどのようにメッセージ（コンテンツ）を作り上げているのかを学び、そのメッセージがどのような意味を人々に与えるのかを理解する。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するレポートをもって評価の対象とする。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習 IIa・b

坂元 多

【授業の概要】

演習Iをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。

課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

【授業の目標】

映像表現を、斬新性、実験性、創造性の観点から自ら試みる力を養う。

【授業計画】

試写と討議を中心とする演習。

【評価方法】

発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習 IIa・b

辻 紘良

【授業の概要】

電子メディアの要素技術であるCG画像作成、デジタル映像ならびに電子音楽について作成技術や編集方法を学ぶとともに、これらを総合的に活用してマルチメディア作品を作成する。さらに、HPを作成し研究室内LANを介して対話型送受信を試みる。これらにより、マルチメディア技術諸相の現在を体得するとともに、マルチメディアの可能性と問題点を把握する。

【授業の目標】

1．マルチメディア作品の制作法をより幅広く捕らえかつ深め、総合し創作する能力を高める。
2．システム制作や個人やグループ制作を通して体験的に制作技術を修得する。

【授業計画】

前期はパソコンで行うマルチメディアに関する基礎技術を学ぶ。後期は、修得した技術を総合的に活用して映像作品を作成する

前期：マルチメディアに関する基礎技術の修得
・２・３次元画像作成（イラスト、３次元CG）
・ディジタル映像作成・編集（対話型２・３次元動画）
・サウンド作成・編集（MIDI音楽）
・ホームページ作成（対話型ネットワーク通信）
・プログラミング（ネット対応言語）

後期：作品作成
・各自作品（一つのソフトを利用して作成）
・グループ作品（複数のソフトを活用して作成）

７号棟Media Landの設備を使用する。

受講にさいしては「情報演習科目、デジタルメディア実習科目」の履修が望ましい。また、授業に電子メールを利用するので、学内のネットワーク利用資格を取得しておくこと。

【評価方法】

中間報告やクラス討議､ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎（長尾真他著　岩波書店　p.240）

住生活論

渥美正子

【授業の概要】
住まいは、私たちにとって欠かすことのできない家庭生活の「器」である。現代社会の住まいは様々であるが、住まいやそこで展開される住生活様式は、風土・時代・社会の中で形成され、変化してきた。今日の住生活様式が形成されるまでの流れを概観し、今後の新しい住み方を展望する。

【授業の目標】
住まいは人間生活の大切な基地であることの理解を深め、快適な「住まい方」を創造していくことの重要性を認識すること。

【授業計画】
1）住生活とは
2）風土と住まい：風土特性と住様式、民家が語るもの
3）日本住宅の原型：寝殿造・書院造の住様式
4）戦前の住宅と住様式：「家」制度と住まい
5）西山夘三の研究：住生活の秩序化
6）モダンリビングの住生活：民主的住生活、n LDK型プラン
7）住生活におけるポスト・モダンリビング：家族の多様化と住要求の変化
8）これからの住生活：新しい住まい方の展望
9）住生活の洋風化：住生活の洋風化過程
10）起居様式：イス座・ユカ座、畳の行方
11）マンションと住居管理：集住、マンションの管理問題
12）家庭生活を映し出す住まい：住み手が主人公の住まい

【評価方法】
試験とレポートによって行う。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献・資料】
授業にて指示する。

住宅政策論

渥美正子

【授業の概要】
日本における住宅問題の発生についての歴史的経緯と、戦後の住宅政策の特徴について考える。経済大国でありながら、先進諸国のなかで貧しいといわれるわが国の住宅事情の特徴と背景を探り、人間らしい住まいを実現するための住宅政策の理念について、西欧先進国との比較を交えて考察する。また、住まいの質的向上の原動力となる住教育の実情や、消費者問題について論じる。

【授業の目標】
住宅は、多くの消費財のなかで特殊な商品であること、私的に利用・所有するものであるが社会資本として公共財的側面をもつことを理解する。

【授業計画】
1．住宅の社会的側面
2．住宅事情の国際比較
3．東海圏の住宅事情
4．住宅政策の母国-イギリス
5．住宅の質の政策化
6．日本における住宅政策のあゆみ
7．住宅政策における市場主義
8．住居費の管理
9．多様化するハウジング
10．消費者問題と欠陥住宅
11．住教育の課題と展望
12．阪神大震災と住まい

【評価方法】
出欠状況とレポート・試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
プリント配布。

【参考文献・資料】
現代社会とハウジング（巽和夫編　彰国社）
変貌する住宅市場と住宅政策（伊豆宏編　東洋経済新報社）
住宅貧乏物語（早川和男著　岩波新書）
住教育－未来へのかけ橋（住環境教育研究会編　ドメス出版）

建築計画論 I（住宅）

垂井洋蔵

【授業の概要】
建築のデザインを学ぶためにはまず建築で扱う空間がどのような概念であるかを知らなければならない。また建築空間をデザインするということは具体的にどのようなプロセスなのであるかを理解しなければならない。建築を学ぶ第一歩として、住宅という最も人間にとって基本的な建築空間を題材にしながら上記のテーマについてまず解説する。それをふまえて、住まうことに関わる建築を設計するために必要な住要求、建築意図や設計条件の把握、分析の方法、また住宅設計の基本となる構造、設備、材料に関する知識を設計者の立場から総合的に修得することを目的とする。

【授業の目標】
建築に関わるさまざまな学問分野を紹介し、建築作品を設計する上で基礎となる計画学的な建築のとらえ方を住宅をテーマに学ぶ。

【授業計画】
1　建築とは、建築家とは、建築で扱う空間とは
2　住みやすい住宅を作るために　建築計画学
3　安全な住宅を作るために　建築構造学
4　快適な住宅を作るために　建築環境工学
5　美しい住宅と町並みを作るために　建築デザイン
6　住宅の設計に関わる法律　建築関連法規
7　各室の計画１　招き入れる空間
8　各室の計画２　集まる空間
9　各室の計画３　私的空間とサービス空間
10　近年の住宅作品の実例　計画上の試みとデザイン
11　住宅計画の今日的課題　高齢者　健康　省エネ
12　まとめと質疑

【評価方法】
講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】
スライド、OHP等の視覚資料を用い、できるだけ実例を示しながら講義を進める。講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

【参考文献・資料】
「人間と空間」O.F.ボルノー著　せりか書房　「住環境の計画１　住まいを考える」「住環境の計画２　住宅を計画する」住環境の計画編集委員会編　彰国社

建築計画論 II（計画各論）

垂井洋蔵

【授業の概要】
現代の施設設計は、従来からの建築種別にとらわれない複雑な複合化、新しい要求や情報メディアの登場、社会構造の変化に直面している。こうした建築設計に関わるさまざまな外的条件の分析や、計画に先立つ建築企画の手法の理解とともに、建築計画上考慮すべき機能上の諸要求、法規、それらに対応する新しい計画上の試み等、施設計画上必要な諸知識の体系的な修得を目的とする。

【授業の目標】
さまざまな、建築の設計にあたり、建築の企画、計画段階でまず知っておかなければならない基本的な知識を学ぶとともに、現在行なわれている手法を学ぶ。

【授業計画】
以下の６テーマについて各２週にわたり講義する。
1　住居系施設
　新しい集住の形態と、集合住宅
2　教育系施設
　新しい教育方法論に基づく学校計画の試み
3　医療・社会福祉系施設
　病院、診療所計画の基本と、高齢化社会に対応する医療福祉施設計画
4　文化系施設
　新しいメディアと情報の共有、発信の場としての複合文化施設計画
5　商業系施設
　大規模複合施設とオフィス計画の今日的課題
6　施設計画の手法
　地域活性化施設の企画と、諸提案の実例

【評価方法】
講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】
講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

【参考文献・資料】
新建築学体系（彰国社）
建築設計資料集成　コンパクト建築設計資料集成（丸善）
その他講義中に参考図書を紹介する。

建築計画論 III（環境心理）

日色真帆

【授業の概要】
建築や都市における人間と環境との関係について、個人や集団の行動、環境の知覚や認知、それらの時間的変化などの視点から学ぶ。スケール、状況、利用者の違いを理解し、人間と環境との関係の質をたかめるデザインのあり方を考える。また、これらを学習する中で環境心理学の基礎的な諸理論と研究方法を習得する。

【授業の目標】
基礎的な諸概念と研究方法を学ぶことで、建築や都市と人間との関係を分析的に観察し具体的デザインに適応できるようにする。

【授業計画】
・文化と空間：パーソナルスペースや人のテリトリーについて述べ、文化による差異を取り上げる。
・環境認知：環境認知やそれを支える空間認知の問題を取り上げ理論を解説する。
・Wayfinding：環境認知の典型として人の動きと空間の認知を扱う。特にwayfinding（経路探索）における迷いや発見を切り口に理論や研究方法を紹介する。また、わかりやすい空間をつくる多様な方策について述べ、その一つとしてサインシステムについても触れる。
・シークエンスと表記法：建築の内部空間やアプローチ、庭園などの例から、人の行動や体験を記述し、デザインする手法を学ぶ。
・居住環境、多様な利用者：居住環境をとりあげ人間環境系としてとらえる視点を示す。
・都市環境のデザインへ：都心と郊外という対照的な環境を取り上げ総合的な見方を示す。その環境の質を向上する方法として、デザインの意味について述べる。

【評価方法】
数回のレポートと期末の試験によって行う。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
建築・都市計画のための空間学事典（井上書院）、環境と人間（高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編　朝倉書店）、人間環境学（朝倉書店）、建築理論の創造（J．ラング著　鹿島出版会）、空間計画学（井上書院）、環境行動のデータファイル（高橋鷹志他編　彰国社）

建築計画論 IV（設計方法）

吉田邦彦

【授業の概要】
建築の設計対象の機能の複雑化、規模の拡大化、設計主体の多様化などに対応して、提案され論じられてきた種々の設計方法、設計手法についての理解と知識の修得を目的とする。
設計方法の考え方、設計プロセス、各種の設計手法、人間－環境系の計画理論などを取り上げ、設計行為の解明と実践との連携等について論じる。

【授業の目標】
建築設計における設計方法の考え方、設計プロセス、種々の設計方法、設計手法についての理解と基本的な知識・技術の修得を目指す。

【授業計画】
以下の項目について講義に演習を加えた形式で授業を進める。
・オリエンテーション：建築計画と設計、設計方法研究の歴史
・設計プロセス・発想のプロセスのモデル化、
・アイティアと情報
・設計ツール（機能図、チェックリスト、シミュレーションによるモデル分析など）
・表現言語・パターンランゲージ
・建築設計におけるコンピュータ利用
・設計方法と設計主体
・建築設計におけるコラボレーション

【評価方法】
授業時間中の提出物と、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】
授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

【参考文献・資料】
設計方法IV「設計方法論」（日本建築学会編　彰国社）
人間－環境のデザイン（日本建築学会編　彰国社）

ファシリティマネジメント論

吉田邦彦

【授業の概要】
施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動であるファシリティマネジメント（FM：Facility　Management）について、その基礎知識と固有技術の理解と修得を目指す。FMの主要な対象であるオフィスを取り上げ、具体的に論じる。

【授業の目標】
FMの考え方、FMの基礎知識と関連知識、そしてFMに関する技術の理解と習得を目指す。

【授業計画】
以下の項目について講義形式で授業を進める。
1．オリエンテーション、FMの必要性と重要性
2．オフィスの歴史、日本のオフィス建築の歴史と形態的な変遷
3．オフィスプランニングの基本と基礎知識
4．オフィスの快適性-豊かな人間生活と仕事の場を求めて
5．地球環境とFM
6．セキュリティの必要性と災害への対策
7．欧米の情報化オフィスの諸相
8．オフィスの実例紹介
9．FMのための知識と技術
10．施設評価の必要性と困難性、各種の評価手法
11．FMの目的と目標、FMの業務体系
12．公共施設、教育施設などにおけるFM

【評価方法】
授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

【テキスト】
変化するオフィス（沖塩荘一郎他　丸善株式会社）
また、授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

【参考文献・資料】
総解説 ファシリティマネジメント（FM推進連絡協議会編　日本経済新聞社）

インテリアデザイン論

高橋敏郎

【授業の概要】
近世から現代に至るインテリアデザインの思潮と様式を概観し、これを基盤として、空間を構成する各種エレメント（要素）や素材、造形のそれぞれの機能と意味について学習する。さらに、近未来に向けての、健康や安全を含むインテリアアメニティー高き空間創造について考察する。

【授業の目標】
インテリアデザインを考えるにあたって最小限配慮しなければならない事項について、基礎的な知識と関心を抱くことが出来、社会状況や環境とインテリアデザインが不可分の関係にあることが一定理解できること。

【授業計画】
以下の項目につき講義形式で授業を行う。
1．インテリアの意義と資格
　授業のオリエンテーション。インテリアの意義と資格。
2．インテリア空間の意味（1）
　実際の作品に見るデザインの意味と意図。
3．インテリア空間の意味（2）
　実際の作品に見るデザインの意味と意図。空間を規定するもの。
4．デザインするために必要な解読の手がかり
5．人体寸法と動作空間。
6．人間工学とその応用。
7．インテリアの安全。建築基準法と消防法など。
8．インテリアの健康。シックハウスほか。
9．加齢と障害。ユニバーサルデザインに向けて。
10．知覚による認識。人の集合と行動。
11．建築の工法。インテリアの材料。
12．インテリアの納まり。
テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

【評価方法】
学習した各単元ごとに小テスト、レポート課題などを実施、出席、受講態度、定期試験と合わせて評価する。

【テキスト】
インテリアデザイン教科書（インテリアデザイン教科書研究会編著　彰国社）

色彩計画論

高橋敏郎

【授業の概要】
空間デザインにおける重要な要素である色彩と、色彩を生み出す根源である光（自然光、人工光）について基礎的知識を修得する。重ねて、色彩が心理に及ぼす影響を学び、これらの知識を基盤として、室内、建築、環境等の色彩計画をいかに行うかについて学習する。実際に色彩計画を行ったデーターを使用して、３D-CADなどを用いて色彩構成、照明シュミレーションやマッピングによる材料のテクスチャーと色彩の関係などについて検証する。
計画演習Ⅳ（CAD基礎）履修者（同時履修可）のみ受講可。

【授業の目標】
色彩と光についての基礎的知識を習得し、コンピュータを使用して具体的な空間の素材、光、色彩の計画が出来ること。

【授業計画】
以下の項目について講義形式で授業を行う。
1．色彩計画の意義
2．光から生まれる“色”
3．光源の種類と特徴
4．照明と色彩
5．色が見える仕組み、眼と脳の構造。色の見えを決める要因。
6．色の知覚に関与する相互作用
7．色がもたらす心理効果
8．色の表示方法と特徴
9．配色と色彩調和
10．混色と色の再現
11．12．CADによる３ディメンションの室内色彩計画（CAD室にて授業）
テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

【評価方法】
期間中に数回の小テストを行う。この結果と、出席、作品を合わせて評価する。

【テキスト】
カラーコーディネーションの基礎（東京商工会議所編）

【参考文献・資料】
カラーコーディネーション（東京商工会議所編）
カラーコーディネーター１級テキスト（環境色彩）（東京商工会議所編）
公共の色彩を考える（青娥書房）

現代デザイン史

高橋敏郎

【授業の概要】
19世紀から現在に至る欧米を中心にしたデザインの思潮の流れを概観し、社会状況、生活様式、技術と生産様式などの背景の変化との関わりの中で近代ザインが成立し、現代デザインへと引き継がれてゆく過程を学習しながら、デザインの分析を通じて近代社会の歩みを理解しデザインの在り方を考える。

【授業の目標】
現代のデザインに至る歴史の大きな流れと、デザインの成立の背景としての社会の動きの関係について基礎的な理解をし、一定の社会的視点を獲得する。

【授業計画】
1）デザインの意味と力
　産業革命がデザインに及ぼした影響
2）デザインによる革命
　アーツ・アンド・クラフト運動の歴史的意義
3）世紀末の華燭
　社会現象としてのアール・ヌーヴォー
4）アール・ヌーヴォーの伝播
　新しい時代の予感
5）ウィーンの新世紀
　分離派の新デザイン原理
6）工業技術と芸術
　ドイツ工作連盟が意味するもの
7）ポスターの時代
　商業化社会におけるポスターの歴史
8）炎の1910年代
　工業化の曙・デザインの革命
9）芸術と技術の統一
　バウハウスのもたらしたもの
10）アール・デコと摩天楼の夢
　1925年様式・第一機械時代のデザイン
11）白の時代
　バウハウス以降のモダンデザインの特質
12）世紀末の回航
　多様化した現代のデザイン傾向

【評価方法】
授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

【テキスト】
世界デザイン史（阿部公正監修　美術出版社）

建築史Ⅰ（西洋）

河辺泰宏

【授業の概要】
西洋建築の様式史を中心に、様々な時代の価値観の移り変わりと建築様式との関わりについて論じる。とくに、建築を社会的産物としてとらえ、支配体制や技術革新と建築造形との結びつきを明らかにし、社会思潮の変化を理解する指標としてその歴史を解説する。

【授業の目標】
各時代・各地域の歴史的建築様式の特徴を覚え、その様式がどのような社会思潮から生まれてきたかを理解すること。

【授業計画】
1）建築に託された人類のメッセージ
　古代エジプトにおけるピラミッド建設の意義
2）人と神と王の建築
　古代メソポタミアのジッグラトとエジプトの神殿建築
3）民族と神々
　ギリシア神殿とペルシアの宮殿に見る民族の表現
4）新しい建築空間の創造
　アーチ構造とコンクリートが生み出した古代ローマ建築の特質
5）ローマに生まれた神の館
　初期キリスト教時代とビザンティン帝国の教会堂建築
6）世界の終末を越えて
　至福千年説とロマネスク建築の興隆
7）地上の天国
　ゴシック建築の構造と表現
8）人と神の対話方式
　マホメットの帝国とイスラム建築の特質
9）再生という名の創造
　ルネサンス建築における科学と芸術の融合
10）不安と成熟のマニエリスム
　16世紀イタリア芸術に見るルネサンスの末期的現象
11）建築のドラマツルギー
　対抗宗教改革思想から生まれたバロック建築の劇的性格
12）プロテスタンティズムの顔
　パラディアニズムと新古典主義建築への道

【評価方法】
学期末にレポートを課す。

【テキスト】
西洋建築史図集（日本建築学会編　彰国社）

建築史Ⅱ（日本・東洋）

溝口正人

【授業の概要】
建築史は、生活空間を構成する基本要素である建築の歴史的な変遷の考察を通して、建築や都市の社会的・文化的な意味について論ずる分野である。
本講義では、日本の建築や都市を主な対象として、その背景にある思想や造形理念、技術をふまえ、東アジアという地理的な視点、あるいは現代建築思潮という今日的な視野からの比較検討をも交えながら、建築の空間構成や造形の変遷について学ぶことにより、日本の建築観の特質について理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
大きくは、建築士受験を前提とした日本建築に関する基礎的な用語と意匠の理解、建築を通してみた日本文化の理解、のふたつを目標とします。講義内容は建築のデザイン的な側面を重視し、空間デザインの観点からみた日本建築の特質の理解、現代において日本人建築家が活躍する背景としてみた日本建築の近代性の理解、に力点を置きます。

【授業計画】
1．世界からみた日本の建築
2．「建築」の発生：先史時代の日本建築
3．源流／インド・中国の建築と都市
4．古代／東アジアの造形理念と日本建築
5．古代～中世１／宗教建築
6．古代～中世２／都市
7．古代～中世３／住宅
8．中世／和風空間の確立
9．中世～近世／技術革新と空間デザイン
10．近世２／社会相としての住居と都市
11．近代の胎動／数寄屋建築とモダニズム
12．文明開化と洋風建築／近世技術の開花

【評価方法】
記述式の単位認定試験を課し、出席を点数化して加算して総合的に評価します。所定の欠席を越えた場合は失格とします。

【テキスト】
なし。適宜プリントを配布します。毎回プリントは持参のこと

【参考文献・資料】
図解日本建築の構成（山田幸一著　彰国社）
日本建築史序説（太田博太郎著　彰国社）
建築の歴史（藤井恵介・玉井哲雄著　中央公論社）
日本建築史図集（日本建築学会編　彰国社）
東洋建築史図集（日本建築学会編　彰国社）

都市形成史

河辺泰宏

【授業の概要】

都市の形成される過程と都市造形との関わりについて論じ、歴史的都市の成立過程と産業革命以降の近代都市の変化を明らかにする。また、都市再生や町づくりの様々な試みを紹介し、都市のアイデンティティの確立や機能開発についても考える。

【授業の目標】

都市組織の観察によって都市形成の歴史と特徴を推察する能力を養い、さらに近代から現代に至る都市計画の歴史について理解すること。

【授業計画】

1）都市文明をささえるもの
　人口暴発と計画不能の巨大スラム都市の出現
2）名古屋を読む
　家康の時代から戦後復興まで名古屋の都市計画の歴史
3）格子状都市の履歴
　古代文明から現代に至る様々な格子状都市の特質
4）不整形都市～中世都市の営み～
　集落から徐々に発展した不整形な都市の秩序
5）放射状都市の論理
　強大な権力によってコントロールされた放射状直線街路の形成
6）水の都の物語
　日本と西洋における親水都市の歴史
7）実験都市ハウステンボスの挑戦
　企業が企画・経営する町
8）都市と広場の形成史
　都市における広場形成の歴史とその役割
9）近代都市計画の理論と実践
　産業革命以後の都市の変化と新しい都市計画理論
10）歴史的資産を活かした都市再生
　環境改善策のための都市財産の保存と活かし方
11）景観コントロールの意味と手法
　景観論争とデザインコントロールの手法
12）計画なき都市計画
　挫折した首都復興計画と都市開発理念の国際比較

【評価方法】

中間と期末のレポートによる。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて プリントを配布する。

都市景観論

清水裕二

【授業の概要】

都市景観は我々にとって非常に身近でありながら、容易な分析を拒む複雑な事象である。この授業では具体的な例をとりあげながら都市景観を読み解くための様々な視点を提示し、都市景観についての理解を深めると共に、景観を形成する活動としての都市デザインの手法を概観する。

主な授業内容は次の通り。

1．都市論・都市景観論
　近代以降の都市論・都市景観論のなかから代表的なものをとりあげ、現代の都市を切り取る視点の多様さを認識する。
2．都市景観の構造
　都市景観に潜む構造を抽出し、普段目にしている都市とは異なる都市像を浮き彫りにする。
　・自然：景観を形成する最大の要素である地形と景観の関係性を明らかにする。
　・都市基盤（インフラストラクチャー）: インフラストラクチャーと景観の関係性から、現代都市の景観に影響を及ぼしている不可視の営みを捉える。
　・郊外：近代都市が生み出した都市周縁の景観と、そこから派生する社会的状況について考察する。
　・歴史：都市景観のなかに織り込まれた時間性をもとに現在の都市景観を再検討する。
　・法規制、建築・都市計画：都市の景観をコントロールしようとする様々な制度について見てゆく。
3．景観の視点
　都市以外のフィールドから、都市景観を捉え直す
　・集落：都市の原型ともいえる伝統的集落を見てゆくことで現代都市の逆照射を試みる。
　・芸術：アースワーク、映画、写真、文学等の芸術において描かれた景観を分析する。

【授業の目標】

都市景観のはらむ現代的課題について、多様な視点から考察することを学ぶ。

【授業計画】

講義を中心とし、いくつかのレポートを出す予定。

【評価方法】

出席状況、レポート及び試験により、総合的に評価を行う。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市計画論

瀬口哲夫

【授業の概要】

都市計画論においては、現代の複雑な社会で生活して行く上での基本的な知識である都市問題を認識させると共に、都市のあり方を理解させる。その上で、都市計画理論や都市計画制度について解説し、都市計画（まちづくり）への市民参加のあり方などを講義する。授業では、具体的な都市や都市計画事例を取上げて、わかりやすく論じる。

【授業の目標】

都市計画の主な制度、手法を覚え、それらにより実現される都市についての理解を深める。

【授業計画】

1．現代の都市問題
　人口増加時代から人口縮小時代を向かえた都市の問題
　大都市と地方中小都市では異なる都市問題
2．都市の分析
　都市と人口で見る都市の実態
　土地利用コントロールとその実態
　どのような都市計画規制方策があるか。
3．市街地の整備
　土地区画整理事業による市街地の整備
　開発許可による市街地の整備
　自然発生的な市街地の形成／スプロールの発生
4．団地開発
　近隣住区理論による住宅団地
　日本のニュータウンを代表する高蔵寺NT、千里NT、多摩NTなど
5．都市の再生
　市街地再開発事業による都市機能の更新
　都市資産を活かした都市再生
6．都市計画策定プロセス
　市民参加と計画プロセス
7．近代都市計画理論
　日本と欧米での近代都市／交通との調和
8．欧米の都市計画
　英国、ドイツ、アメリカなどの都市計画の特徴
　国により都市計画制度は異なる。

【評価方法】

出席状況に加え、レポートなどにより総合的に判断する。

【テキスト】

特に使用しない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

都市計画教科書（都市計画教育研究会、彰国社）など

都市防災論

担当者未定

【授業の概要】

近年の都市への人口集中にともなって、自然・人工災害から都市・人間を如何に守るかが、大きな課題となってきている。この問題の大局理解を主眼に多様な災害について講述する。

【授業の目標】

【授業計画】

別途指示する。

【評価方法】

【テキスト】

建築環境学 I（熱・空気）

齋藤基之

【授業の概要】

建築空間は人間の日常生活の場であり、その内部環境は健康・安全かつ快適なものであることが求められる。この講義では、建築や都市における熱・空気環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基本的事項を解説し、建築・都市のデザインに応用するための基礎知識を身につけるとともに、環境への配慮の重要性を理解することを目的とする。数式の使用等は必要最小限にとどめ、身のまわりの住生活における実例や実際の設計例を挙げながら解説する。

【授業の目標】

建築設計に必要な、熱・空気環境に関する基礎知識（一級建築士試験で要求される範囲）を習得する。

【授業計画】

○屋外気候
○太陽の動きと日射
○湿気と結露
○建築における熱の伝わり方
○断熱・熱容量
○室内気候・温熱環境評価
○シックハウス問題
○室内空気汚染
○換気・通風のしくみ
○必要換気量

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著　培風館）

建築環境学 II（音・光）

齋藤基之

【授業の概要】

建築環境学Iに引き続き、建築や都市における音・光環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基礎的事項を解説する。本科目履修に先立ち、建築環境学I（熱・空気）を履修しておくことが望ましい。

【授業の目標】

建築設計に必要な、音・光環境に関する基礎知識（一級建築士試験で要求される範囲）を習得する。

【授業計画】

○音に関する物理量
○音の知覚
○遮音と吸音
○騒音防止計画
○音響計画
○光に関する物理量
○光の知覚
○採光計画
○人工照明計画
○色彩計画

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著　培風館）

【参考文献・資料】

初めての建築環境（建築のテキスト編集委員会編　学芸出版社）
図説テキスト建築環境工学（加藤信介・土田義郎・大岡龍三著　彰国社）

建築設備学

池畑紀久雄

【授業の概要】

近年における建築物は建築基準法の改正により大型化になり、高断熱、高気密になった結果、建築設備は高度な機能を要求されるようになった。そのため空調設備に代表されるように建築物はエネルギの大量消費型となり、更にはシックビルシンドロームや地球温暖化等さまざまな問題を指摘されるようになった。そこでこの講座では、最新の建築設備について体系的に学ぶだけでなく、地球環境に貢献できる建築技術者の育成に貢献したいと考えています。

【授業の目標】

CASBEE（日本）、BLEEM（カナダ）、LEED（米国）GBTOOL（中国）などに代表されるように建築物環境配慮制度の導入は世界的傾向にある。これらの建築環境技術を体系的に学び、建築家として持続可能な社会形成に貢献できる人材を育成する。

【授業計画】

パワーポイントによる講義を中心に13コマ開催。教材はこのパワーポイントで作成した資料を教材として配布する。

1．ガイダンスと建築設備概要
2．建築と地球環境問題
3．建築設備工学の基礎知識
4．空調調和設備
5．熱源設備と搬送装置
6．クリンルームとバイオハザード
7．給排水衛生設備
8．防災と消火設備
9．排煙と換気設備
10．電気設備（受変電・配電設備）
11．証明コンセントと動力設備
12．情報通信と警報設備
13．自動計装設備
14．昇降機設備（エレベーター等）
15．建築物環境配慮制度

【評価方法】

1．テスト問題（50点）
2．レポート（50点）
3．出席回数とノート

【テキスト】

パワーポイントによる講義ため不用

【参考文献・資料】

建築設備工学（田中俊六監修、井上書院）、空気調和衛生設備の基礎（彰国社）、建築設備（オーム社）、建築物の環境衛生管理（ビル管理教育センター）、電気設備の実務知識、空気調和・衛生設備の知識（改訂２版）（空気調和・衛生工学会編　オーム社出版局）

建築法規

山本正文

【授業の概要】

建築物の基本法である建築基準法を中心に建築士法、都市計画法、住宅の品質確保の促進等に関する法律等について概要を理解するとともに、法律書が活用できるよう、より実践的な内容とする。

【授業の目標】

社会生活に加え、街づくりや建築物を造るという創造的な行為についても、そのベースは法律にあることを理解させるとともに、建築士の社会的責任の大きさを学ぶ。

【授業計画】

1．建築士の役割と建築士法及び法律についての基礎知識
2．日常生活言葉と法律用語
3．建築基準法の仕組み
4．集団規定について（道路）
5．　同　上　　（用途地域）
6．　同　上　　（形態）
7．　同　上　　（誘導）
8．街づくりや建築計画と都市計画法との関連
9．単体規定について（一般構造）
10．　同　上　　（安全・衛生）
11．　同　上　　（強度）
12．　同　上　　（防火・避難）
13．建築基準法における手続きやその他の制度規制
14．住宅の品質確保の促進等に関する法律やハートビル法の概要
15．期末テスト

【評価方法】

期末試験と出席状況を勘案して決定する。

【テキスト】

建築行政（片倉武雄　他著　学芸出版社）

【参考文献・資料】

基本　建築関係法令集（法令編・告示編　霞ケ関出版社 ）

建築構法

高田豊文

【授業の概要】

常時荷重や地震、風などの外力に対して建物が安全であるためには、適切な構造形態および構造材料を選択する必要がある。本講義では、力学基礎と建物構築法の考え方を理解することを目的として、木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料および各種構造形式の特性を概説する。

【授業の目標】

建築で用いられる各種の構造形式について、それらの名称を覚え、作用する様々な荷重（外力）に対して，どのように抵抗するかといった力学的特徴を理解すること。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．力学基礎・建築構造概説
3．構造形式と建築構造材料
4．ラーメン構造
5．コア構造・チューブ構造
6．壁式構造・スラブ構造
7．アーチ・シェル構造
8．ドーム構造
9．平面トラス構造
10．立体トラス構造
11．折版構造・テンション構造
12．テント・エアドーム構造
13．建築構造に関する最新の話題－構造形態創生

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

初めての建築構造デザイン（宮元健次著　学芸出版社）

建築生産システム

鈴木直人

【授業の概要】

工業生産としての建築・商行為としての建築の実務に関する理解と知識の習得を目的とする。建築生産のプロセスについて概観したのち、建築施工計画・施工管理の現状と問題点を解説する。併せて、ビデオ・現場見学によって建築生産の実態に関する理解を深める。今後の方向として、建築生産の新しいシステムや生産情報に関する動きについて論じる。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

第１回　ガイダンス　工業生産としての建築生産
第２回　建築生産のプロセス・商行為としての建築生産
第３回　建築設計のプロセス
第４～６回　施工計画と施工管理の現状
　　現場見学会
第７回　建築生産の問題点・建築生産の新しい動き
第８回　建築生産情報と将来展望
第９回　単位認定試験

現場見学、ビデオの関係で週１回２時限の時と、隔週１回４時限との組み合せを考えています。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験（レポートを含む）の成績による総合的評価

建築材料

山田和夫

【授業の概要】

現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造である。本授業では､これらの構造物を構成する素材､すなわちコンクリートおよび鉄鋼の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然材料および人工材料の基本的特性に関する知識も習得できるように講義する。

【授業の目標】

各種建築物を構成する主要な構造材料の種類と性質を把握し、構造材料と建築物の特徴との関係を理解するとともに、仕上げ材料の種類とその用途についての知識を得る。

【授業計画】

第１講　建築材料の分類と講義予定の説明
第２講　コンクリートの構成材料
第３講　コンクリートの製造方法
第４講　フレッシュコンクリートの性質
第５講　硬化コンクリートの強度性質
第６講　硬化コンクリートの変性性質
第７講　鉄鋼の種類と製造方法
第８講　鉄鋼の性質と製品
第９講　木材の性質と製品
第10講　粘土およびガラス製品
第11講　アスファルトおよびプラスチック製品
第12講　不燃材料および材料試験

【評価方法】

出席状況と定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

建築材料＜第３版＞（嶋津孝之他著　森北出版）

建築構造 Ⅰ

岡本晴彦

【授業の概要】

建築物には、作用する力に対して安全であることと、必要な使用性を保つことが求められる。そのために建築構造に関する学問体系が存在する。本科目においてはそれらの体系の基となる構造力学の基礎について扱う。力とは何か、力の釣合い、建築物のモデル化の説明後に、構造物に生じる力を、力の釣合いのみから求めることのできる静定構造物の断面力と変形の求め方を解説する。　さらに力の釣合いと変形の双方を考慮して断面力を求める不静定構造物の基礎的な考え方を学ぶ。

授業においては講義とともに演習問題を解く。それにより、理論を具体的に理解できるようにする。

【授業の目標】

主として静定構造物を対象として、力学的扱い方を習得する。それを通じて建築全体と構造との関係を考えるための端緒を得る。さらに、次段階の建築構造学を学ぶための知見を身につける。

【授業計画】

1．なぜ建築構造学を学ぶか
2．構造物のモデル化
3．力の考え方、力の釣合い
4．断面力、応力（応力度）、ひずみ
5．静定はりの断面力
6．静定トラスの断面力
7．静定ラーメンの断面力
8．断面の性質
9．静定構造物における変形の求め方
10．不静定構造物の断面力算定法基礎

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

やさしい構造力学（浅野清昭著　学芸出版社）
建築構造力学（林　貞夫著　共立出版株式会社）
授業担当者の作成するテキスト（講義の際に配布）

【参考文献・資料】

構造用教材（日本建築学会編　日本建築学会）

建築構造 II

岡本晴彦

【授業の概要】

建築構造Iに続いて、建築構造学の体系の基となる構造力学について扱う。力の釣合いと変形の双方を考慮して行う不静定構造物に生じる断面力の求め方を解説する。さらに、連続体内の応力と変形に関する基礎理論とその応用法並びに座屈について説明する。

授業においては講義とともに演習問題を解く。それにより、理論を具体的に理解できるようにする。

【授業の目標】

不静定構造物に関する力学的扱い方と建築構造の挙動を把握するための諸理論を習得する。それらを通じて建築技術者に必要な構造関連の知見と基礎的判断力を養成する。

【授業計画】

1．仮想仕事の原理と応用
2．応力法による不静定骨組の解法
3．たわみ角法
4．固定モーメント法
5．連続体の応力とひずみ
6．座屈
7．建築計画と構造の関係

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

建築構造力学（林　貞夫著　共立出版株式会社）
授業担当者の作成するテキスト（講義の際に配布）

【参考文献・資料】

構造用教材（日本建築学会編　日本建築学会）
その他、講義中に紹介する。

建築構造設計法

岡本晴彦

【授業の概要】

はじめに、建築構造設計の果たすべき使命について述べる。

続いて、鉄筋コンクリート構造と鋼構造を中心として、力学的挙動について説明する。次に、これらの構造の構造設計法について講じる。それらには最近の代表的研究成果を含めて説明する。

授業においては講義とともに演習問題を解く。それにより、理論を具体的に理解できるようにする。

【授業の目標】

現代における主要な建築構造である鉄筋コンクリート構造と鋼構造の力学的特性を把握するとともに、構造設計法の基本を習得する。

本科目の内容は将来、建築のどの分野に携わる場合においても有益となるものとする。

【授業計画】

1．建築構造設計の使命
2．鉄筋コンクリート構造の力学的挙動
3．鋼構造の力学的挙動
4．各種構造設計法の概要
　　許容応力度設計法
　　終局強度設計法
　　限界状態設計法
5．鉄筋コンクリート構造の構造設計法
6．鋼構造の構造設計法
7．プレストレストコンクリート構造の力学原理と有効活用法
8．モデル建築に対する構造設計の実施

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

エース　鉄筋コンクリート構造（渡邉史夫他著　朝倉書店）
入門　鉄骨構造設計（小高　昭夫他著　工業調査会）
授業担当者の作成するテキスト（講義の際に配布）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

計画演習 I（図面表現）

高橋敏郎　渡辺 達　担当者未定

【授業の概要】

建築は設計者、施工者、その他多くの人々の共働によってつくられる。建築設計製図は、それら建築に携わる人々を結ぶコミュニケーション手段であり、基本言語であるともいえよう。計画設計演習Iでは、構想⇔平面⇔立体といったプロセスを通じて設計に必要な空間把握力や、図面から立体的な空間がイメージできる能力を修得するとともに、建築設計製図作成上必要な諸々の製図記号、表現方法を学び、設計意図の有効なプレゼンテーション技法を身につけることを目的とする。

1．平面と立体：立体をいかにして平面上に表現するのか。正投影法、透視図法など、いくつかの図法を通じて学んでゆく。
2．建築設計図面の基礎：製図記号などの基本的言語を身につけ、平面図、立面図、断面図など、建築設計図面の読み方、描き方を修得する。
3．様々な図面表現：必要なことを過不足なしに伝える図面から、アピールする図面をめざし、プレゼンテーションの幅を広げる。

＜受講上の注意＞
・一級建築士受験資格の取得を目指している人は、必ず受講すること。
・基本的製図用具（三角スケール、三角定規、製図用シャープペンシル、テンプレート等）が必要。詳細は授業のガイダンスで説明する。学内での販売も行う予定。

【授業の目標】

製図法について理解し、図面をルールにのっとり正確に表現し、また読み取ることの出来る能力を習得する。

【授業計画】

1．製図法や図面表現に関する解説を行った後、課題を出題する。
2．数週間製図作業を行い、課題を提出する。
3．授業中作業する課題以外に、いくつか宿題を出す予定。

【評価方法】

出席状況と提出された課題、宿題をもとに評価を行う。

【テキスト】

建築設計演習　基礎編　建築デザインの製図法から簡単な設計まで（武者英二・永瀬克己　彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編　丸善）

計画演習 II（都市観察）

林 廣伸

【授業の概要】

人は集合して社会を形成し、都市を構築する。一方、都市は自然環境や歴史環境も内包している。我々の生活の基盤である都市を、自然・人・社会からなる横軸と、それらの重層を時間の縦軸でとらえ、その構成を読み解く。

演習では、名古屋を中心にその近郊を訪れ、現地において様々な視点から観察し、あわせて、より良き生活環境としての都市創出の手法を模索する。

【授業の目標】

講義・演習を通して、都市における自然・歴史・地域についての観察眼を養い、都市環境のあり方についての考察力を高める。

【授業計画】

1）都市の歴史……名古屋の成立
2）歴史建造物（町並み保存・文化財）
3）歴史街区見学
4）建造物の調査・修理手法
5）修復建造物見学
6）都市観察の手法
7）都市観察実習
8）観察内容の発表
9）レポート講評・まとめ

【評価方法】

出席点とレポート・資料等をまとめたファイルにより評価する。

【テキスト】

講義ごとに必要資料を頒布するので、テキストはありません。

【参考文献・資料】

図説 日本の町並み　5（中部編）・6（東海編）　（第一法規）
愛知県の地名　日本歴史地名大系23　（平凡社）
明治・昭和　東海都市地図　（柏書房）

計画演習 III（調査実測）

清水裕二　高橋敏郎　岡島哲明　太田 忍

【授業の概要】

建築設計の作業の中で、図面や建築模型と実際の空間体験を結びつけるにはある程度の経験を必要とする。たとえば、スケール感。たとえば、構造の空間的な力の流れ。この授業では、手を動かし、ものをつくり、五感で体験することを通じて、机上での構想と実現される空間とを少しでも架橋することを試みる。実際の空間を調査実測し、その空間に対してどのように新たな空間を構築していくかを実践的に学んでゆく。登録者は、日程、必要な道具、材料などを追って掲示するので、注意するように。（毎年、ギャラリー間主催の巡廻展の会場構成計画、及び施工を行っており、本年度も開催が決定された場合、例年通り展覧会場の計画・施工を授業内で行う予定である。）

【授業の目標】

実際の空間を対象とし、インテリアデザインのプロセス＜調査、コンセプトワーク、デザイン、施工＞を実践的に学ぶ。

【授業計画】

授業は集中講義とする（日程は追って掲示するが、前期土曜日に６～７回の授業と、展覧会前に設営作業を数日間、展覧会後に撤去作業を１日行う予定である。これらの作業に参加できない場合は失格となるので履修の際は注意すること）。

【評価方法】

作業の成果物及びその製作過程を記録したレポート等の提出物、授業態度等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

空間設計 I（設計基礎）

清水裕二　三輪律江　道家 洋

【授業の概要】

与えられた条件から導き出される建築的解答はひとつではない。この授業では、ある与条件からコンセプト（概念）を整理しつつ空間を構築してゆく訓練を行い、より複雑な建築を設計するための基礎体力を養うことを目標とする。

授業の進め方としては

1．課題の提出：条件の提示。
2．コンセプト：与条件に対して自分はどのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイヤグラムを用いて練る。
3．プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4．エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5．図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6．講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。

という流れとなる。

【授業の目標】

建築内部の機能的・環境的要求からのアプローチと、外部との関係性からのアプローチ双方から建築のデザインを進めて行くことを学ぶ。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（２～４）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況、制作過程と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

空間設計 II（小規模施設）

日色真帆　小林 聡　高橋敏郎

【授業の概要】

空間設計Iをふまえて、周辺環境も考慮した小規模な施設の設計を行う。現地調査、資料収集、事例研究などをふまえて、図面、模型、CAD、写真、スケッチ、文章など、さまざまな表現手段を使って、案をまとめあげるトレーニングを行う。プレゼンテーションの仕方についても学習する。

【授業の目標】

小規模な施設について、十分な検討を加え、具体的な設計案としてまとめあげる技術を身に付ける。

【授業計画】

・出された課題に対して、エスキースを作成し、教員の指導を受けながら案をまとめる。
・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
・課題は２～３課題出される予定である。
・具体的な課題は、講義の中で説明する。
・グループ分けを行い、３名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

建築のかたちと空間をデザインする（フランシス.D.K.チン著　彰国社）
目を養い手を練れ（宮脇塾講師室編　彰国社）

空間設計 III（中規模施設）

垂井洋蔵　笠嶋淑恵　鈴木千鶴

【授業の概要】

空間設計I及びIIでの成果をふまえ、提出された演習課題に従って、複雑な建築的諸要求を具体的なプロジェクトにまとめる為のトレーニングを行う。

1）より複雑な機能上の諸要求の建築的空間への計画学的な合理性を持った翻訳
2）周辺環境のもつ視覚的構成と論理的に対応する形態の発見と外部空間の規定
3）建築空間と、それを成立させる為の整合性をもった構造的システムの提案
4）法的規制の把握
5）魅力あるオリジナルな建築空間の造形とその表現を実際の設計課題を通して学ぶ。

【授業の目標】

教員とのディスカッションを通して建築設計の各プロセスで、どのような手法で何を考え、それをどう具体化していくのかを作品制作の過程で学ぶ。

【授業計画】

おおむね次のようなプロセスをふむ。各段階ごとに必ず成果を提出し批評を受ける。

1）敷地や周辺環境の空間的特性から建築造形のイメージを得る為のスケッチと概念的造形モデルの作成
2）ヴォリューム検討の為のブロックモデルを造形モデルと関連させながら作成する
3）建築モデル第一次案の作成と講評
4）構造システムの検討
5）エスキースと講評により計画をまとめあげる。
6）最終提案の完成と発表

【評価方法】

各段階ごとの提出作品と、最終案への成熟プロセス、講評会での発表の内容などを総合的に評価します。

【テキスト】

特に無し

空間設計 IV（複雑な施設）

清水裕二　鈴木えいじ　吉村昭範

【授業の概要】

現代の建築は、スケールの大きさにかかわらず、従来のビルディング・タイプ（学校・美術館・庁舎等）では分類できないような新たなプログラムが要求される。この授業では、従来の建築計画をベースにしつつ、現代性のある提案を盛り込んだ課題について考察し、建築化するプロセスを学習する。

授業の進め方としては
1．課題の提出：条件の提示。
2．コンセプト：与条件に対して自分はどのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイヤグラムを用いて練る。
3．プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4．エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5．図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6．講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。
という流れとなる。

【授業の目標】

複雑なプログラムをコンセプトに基づいて整理し、それを空間化すること。さらに、それを図面化、模型化し、設計意図を明快に示したプレゼンテーションを学ぶ。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（２～４）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況、制作過程と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

空間設計 V（都市複合施設）

日色真帆　尾崎公俊

【授業の概要】

空間設計I～IVをふまえて、現実の建築設計に近い、より複雑で高度な課題に取り組む。コンセプトの立案から、資料の収集、案の創造性豊かな展開、細部にいたる修正と詰め、プレゼンテーションの工夫といった一連のプロセスを自力で展開することが要求される。課題としては、都市的環境における建築のあり方を探るものが出題される予定である。学生はこの科目で十分なトレーニングを積んだ上で、卒業時に制作する卒業設計に臨むことになる。

【授業の目標】

複雑な条件を多方面から検討し、各自の構想を展開し独自の設計案としてまとめあげる技術を習得する。

【授業計画】

・出された課題に対して、教員の指導を受けながら案をまとめる。
・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
・具体的な課題は、講義の中で説明する。
・２名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

建築環境学実験

齋藤基之

【授業の概要】

室内や屋外等の熱・空気・光・音環境の定量的な測定・評価方法を学ぶことにより、建築や都市の環境、およびこれらと人間とのかかわりについて理解を深めることを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学I（熱・空気）およびII（音・光）を履修しておくことが望ましい。

【授業の目標】

物理環境の測定値と各自の感覚との対応関係を身につけるとともに、基礎的なデータ解析（測定値からその意味を読み取る）手法を習得する。

【授業計画】

測定器を用いた演習を行い、測定結果・考察をレポートにまとめる。提出されたレポートに基づき講評・解説を行う。

演習のキーワードは以下のとおり。
・温熱環境の測定と評価
　－気温、湿度、風速、放射温度、着衣量、代謝量、PMV－
・空気環境の測定と評価
　－二酸化炭素濃度、粉塵濃度、換気量－
・光環境の測定と評価
　－照度、昼光率、均斉度－
・音環境の測定と評価
　－音圧レベル、騒音レベル、等価騒音レベル－

【評価方法】

出席状況、提出レポートにより評価する。

【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著　培風館）

建築材料実験

山田和夫

【授業の概要】

現代の建築構造物に使用されている主用構造材料は、鉄鋼およびコンクリートである。これらのうち、鋼については、建築技術者が材料の製造を担当することは殆どないため、専ら材料または構造物としての性能を評価するための実験が重要となるが、コンクリートについては、その製法と性質に関する実験が重要となることが多い。そのため本授業では、これらの点を十分に考慮して半期で修得すべき重要な実験項目を厳選した。

【授業の目標】

実験実習を通して、主要な構造材料であるコンクリートの構成材料（細・粗骨材、セメント）の各種性質を調べるための試験方法、コンクリートの調合設計方法、コンクリートおよびもう一つの主要な構造材料である鋼材の力学性質を調べるための試験方法を修得する。

【授業計画】

第１講　各種実験方法および実験予定の説明
第２講　骨材試験の種類と試験方法の説明
第３講　骨材の密度、吸水率、単位容積質量試験
第４講　コンクリートの調合設計方法の説明
第５講　コンクリートの実施調合表の作成
第６講　コンクリートの混練および打設
第７講　コンクリート試験の種類と試験方法の説明
第８講　フレッシュコンクリートの試験
第９講　硬化コンクリートの引張および圧縮試験
第10講　鋼材試験の種類と試験方法の説明
第11講　鋼材の引張実験
第12講　レポートの講評

【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

構造材料実験法＜第３版＞（谷川恭雄他著　森北出版）

CAD基礎

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築設計、デザイン、設計図の作成等の諸場面におけるCADシステムのもつハード、ソフト面の基礎的な概念を理解する。CADの持つ積極的側面、限界を正しく把握することによって、計画、デザインのプロセスにコンピュータを有効に利用する能力を開発することを目的とする。演習を通してCADシステム利用の基本的操作をマスターし、より高度な設計、プレゼンテーション手法としてのコンピュータ利用の為の基礎を修得する。

【授業の目標】

コンピューターをデザインの道具として使いこなす能力を身につけるとともに、新しい表現方法を学びデザイン能力を高める。

【授業計画】

1　CADシステムの概要。本学のシステム構成と、機器の説明及び演習の進め方の諸注意
2　実社会で使われているCADソフトウエア体系の概観と本演習で使用するソフトウエアー
（VectorWorks）の基本操作の解説と実習

以下各演習課題に基づいて簡単なデザイン課題を完成させる。課題の各段階で必要な操作上の解説を行う。

演習課題１　簡単な建築的要素による造形。二次元図面の作成と三次元化によるデザイン上の評価。
演習課題２　建築図面のCADによる作図方法の演習。
演習課題３　演習課題１で行なった各自の作品を題材にして建築作品をコンピュータ上で設計する。すべての課題をプレゼンテーションして提出する。

【受講上の注意】
CAD教室の時間外使用を含め、施設使用上の諸注意を行うので第１回目の演習に必ず出席すること。

【評価方法】

演習への出席。各ステップごとの課題の提出。作品の内容を総合的に評価する。

【テキスト】

演習の各段階で解説資料を配布する。操作上のマニュアル及びソフトウェアーの操作解説書はCAD教室に備え付ける。

CAD応用

天野良則

【授業の概要】

計画演習Ⅳ（CAD基礎）で修得した技術をもとに、設計初期段階における造形力開発の為の３次元形態のモデリングやシュミレーション技法、作品のレンダリングやプレゼンテーション技法をコンピュータ上で学ぶ。建築デザインの表現能力を高める手段として、コンピュータ利用に習熟することを目指す。

【授業の目標】

CAD/CGを用いた表現能力の向上・生産性の向上を目標とする。

【授業計画】

本演習では、VectorWorks、RenderWorksの他Photoshop、Illustrator、Shade等のプレゼンテーション用ソフトを使用する。演習課題をとおして、３次元モデリング、レンダリング、画像処理の技法を学び、最終的に作品としてまとめるための表現技法を学ぶ。

各演習課題にそって、講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

演習課題１　簡単な立体の組合せによるモデリング、レンダリングの基本操作
演習課題２　街並みのモデリング・ムービー作成
演習課題３　住宅のモデリング・レンダリング
演習課題４　過去の課題の再プレゼンテーション

〔受講上の注意〕
計画演習Ⅳ（CAD基礎）を受講していることを前提として演習を進めます。各課題は演習時間内に完成させることは難しいので、各自自習時間を利用して作業を進めることになります。

【評価方法】

演習への出席状況と、各課題の提出、課題作品の内容を総合評価します。課題を期限内に必ず提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

演習時間内に資料を配布します。操作上のマニュアルはCAD室に備え付けます。

〔定員〕各40名（越えた場合はCAD基礎においてＡ、Ｂの者優先）

【参考文献・資料】

授業内に配布します。

CAD特別演習

天野良則

【授業の概要】

CAD基礎・CAD応用で修得した技術をもとに、コンピューターを利用したプレゼンテーション技術の上達を目指す。

【授業の目標】

プレゼンテーションのみでなく設計時に発想段階からもCAD/CGを自然に活かせるレベルへの各アプリケーションの操作能力向上を目標とする。

【授業計画】

本演習では各CGアプリケーションの応用技術を演習課題をとおして学び、最終的に作品の表現力を高める事を目標としています。

各演習課題にそって講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

※第１回目の授業で演習課題を発表します。

【受講上の注意】
CAD基礎・CAD応用を受講していることを前提とします。

【評価方法】

毎回複数のアプリケーションについて説明を行うため、出席状況を重視します。

課題は期限内に提出したもののみ評価します。

【テキスト】

授業内に配布します。

〔定員〕40名（越えた場合はCAD応用においてＡ、Ｂの者優先）

【参考文献・資料】

授業内に配布します。

都市環境デザイン研修

垂井洋蔵　岡本晴彦

【授業の概要】

建築に関わる職業は多岐にわたっています。同時に建築実務の世界では、大学では学ぶことができない様々な具体的な問題に直面し、その問題の解決の道を提示しなければなりません。

実社会での建築実務研修を通して、その一端に触れます。

【授業の目標】

建築が社会の中でどのようなプロセスで作られているのかを知る。同時に、将来実社会で建築に関わる職業に携わる上での心構えと、自らの進む方向の指針を得て、大学での勉学のモチベーションを高める。

【授業計画】

夏期あるいは春期休暇中に、２週間以上一定の基準を満たす建築実務の研修を、建築設計事務所、建築施工会社等で行いその概要、得られた成果を報告会で発表し、レポートとしてまとめるための指導を行う。夏期休暇中の研修は後期に、春期休暇中の研修は前期に、それぞれ集中講義として発表及び報告書としてまとめるため、この講義に履修登録しようとする学生は、事前にどのような内容の実務研修を、どこで行う予定であるのかを報告し、その内容や方法についての指導を受けること。

【評価方法】

研修先の指導者より提出された研修中の評価、及び集中講義での発表内容と報告書を総合して評価する。

都市環境デザイン演習 Ⅰa・b

渥美正子

【授業の概要】

住宅、その他の生活空間を、“住む”“生活する”側の視点に重点をおいて考えていく。近年、生活主体である家族のかたちや役割、ライフスタイルが多様化し、生活空間に求められる機能も変容している。こうした現状を客観的に見つめることにより、新たにどのような変化や矛盾が生じているのかを把握し、問題解決に向けての方向を探ることを目的としている。

【授業の目標】

生活空間をつくるには、生活の分析がベースとなる。生活者のニーズや思いを映し出した生活空間づくりのあり方を考えたい。また、演習を通して、自分の考えを文章化したり、成果をプレゼンテーションする能力及び人前で聞き手が理解できるようにスピーチする能力向上を目指す。

【授業計画】

1）住宅・居住地における矛盾の発見
　住生活に関する文献を講読し、ディスカッションを行う。
2）テーマの設定
　全体で取り組む大テーマを設定し、各グループはそれに関連するサブテーマを決める。
3）調査・資料収集
　それぞれのテーマに基づいて、文献・論文等で予め情報を得たうえで、実際に見学やヒヤリングなどを行う。
4）結果の分析
　自ら得た情報を分析し整理する。
5）発表・討論
　成果のプレゼンテーションを行い、全員で討論する。討論をふまえ、最後にレポートを提出する。

【評価方法】

結果分析への取り組み過程、発表の内容、討論への参加状況、出席状況等を総合して行う。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

都市環境デザイン演習 Ⅰa・b

岡本晴彦

【授業の概要】

建築構造も人間の生活、文化と深い関係がある。その視点から、社会が必要としている建築構造に関する研究の方向と内容について考察する。
その研究実施のために必要となる基礎的学問の習得と文献調査を行う。
さらに、数値解析を行うことにより理解を深めるとともに、新たな知見を得るための検討を行う。
なお、本科目履修には授業科目「建築構造I」の履修が完了していることが必要である。

【授業の目標】

建築構造と人間の生活、文化との関係を考える視点を身につける。
その上で、鉄筋コンクリート構造の挙動を力学原理に基づいて理解できるようにする。
さらに、同構造に関する基礎的研究を行うことができるようになるために必要な既往知見の習得度を向上させる。

【授業計画】

1．次の課題について社会が求めることを実現するためには、どのようなことを行うべきかを考える。
　1）建築構造物の長寿命化
　2）建築使用性上の自由度向上のために有効な構造技術
2．前項についての資料調査と考察を背景として次を行う。
　1）鉄筋コンクリート構造の基本原理に関するテキスト講読
　2）構造関連既往論文の調査と討議
3．後期からは具体的研究テーマを設定し、実験と数値解析により、新たな知見を得るための作業を行う。
授業の一環として、構造部材生産施設の見学を行う（日帰り、または１泊２日）。

【評価方法】

課題への取り組み方、発表内容、レポートにより総合評価する。

【テキスト】

エース　鉄筋コンクリート構造（渡邉史夫他著　朝倉書店）
その他に関連する論文、技術資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

都市環境デザイン演習 Ⅰa・b

河辺泰宏

【授業の概要】

文献講読、資料調査、施設見学、都市観察などの演習を通じて、日欧の都市と建築を中心に造形様式と社会状況との関連について考える。
とくに、建築や都市の歴史、歴史的文化遺産の保存・再生、近現代の建築デザイン等について、フィールドワーク等を行いながら体験的に学ぶことを主な目的としている。

【授業の目標】

事例研究を通じて歴史的遺産の保存と再生の現状や問題点を把握する能力を養う。

【授業計画】

主な演習課題およびフィールドワークとして下記のような内容を予定しているが、フィールドワークの対象はメンバーと相談の上で決定する。
文献講読や見学会、研修旅行等にあたっては、レポート担当者や実行委員を決めて、報告や準備を行う。また、演習の根幹をなす見学会やフィールドワークには、必ず参加することが義務づけられる。
なお、年間を通じて１～２回の国内研修旅行、３～４回のフィールドワークおよび見学会を催すので、参加費用（５～８万円程度）を各自準備する必要がある。さらに、年度末には海外研修旅行を行うことがあるが、これについては有志参加とする。
1）論説文の書き方
2）フィールドワークの仕方
3）都市の開発と保存をテーマとしたフィールドワーク
　（例）名古屋市内（四間道から白壁町まで）/妻籠
　　高山/京都/長浜/有松etc.
4）日本の近代建築をテーマとしたフィールドワーク
　（例）明治村/神戸/半田/桑名etc.
5）日本の近代建築および西洋建築史に関する文献講読

【評価方法】

授業や見学会等への参加状況とレポート、課題発表の内容によって決める。

【テキスト】

図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年（河辺泰宏著　河出書房新社）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリント等を配布。

都市環境デザイン演習 Ⅰa・b

齋藤基之

【授業の概要】

地球環境問題の叫ばれる今日、建築の分野にもこれまで以上に環境に配慮した設計・技術が求められている。この演習では、文献講読、都市・建築の観察、調査・実験等を通じて、熱・空気・光・音環境といった室内の快適性を犠牲にすることなく、地球環境にもやさしい建築デザインのあり方について、様々な切り口から考えていく。また、その過程において、研究課題の設定や計画・実施・解析、プレゼンテーション能力を養う。

【授業の目標】

各自の興味の対象を明確にし、それについて検討するための手段・方法を整理したうえで、卒業論文・制作へと発展する課題設定の絞り込みを行うことを目標とする。

【授業計画】

1．受講者各自の興味に合わせ、各個人もしくはグループ毎に研究テーマを設定する。
2．設定した研究テーマの遂行に必要な基礎知識を、文献講読等により習得・整理する。
3．テーマの遂行に適切な調査方法（都市観察、アンケート調査、測定器を用いた実測調査・実験等）について検討し、実施計画をたてる。
4．調査を実施し、結果の解析・整理を行う。
5．研究成果についてプレゼンテーションを行い、受講者全員で討議する。
6．討議内容を考慮し、研究内容の追加・修正を加えたうえで、報告書等としてまとめる。

【評価方法】

テーマへの取り組み状況、討議への参加状況、プレゼンテーション、報告書等の提出物、出席状況により総合評価する。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習 Ia・b

清水裕二

【授業の概要】

次のシークエンスに従って授業を進めていく。

1．課題の設定
建築や都市に関係するテーマであれば、特に限定はしない。建築や都市を通して現代社会の事象や問題について考察し、それらについてアクチュアルな提案を含んだ設計・研究を目指してほしい。（共通のテーマを設定したり、ゼミ全体でコンペや展覧会などに参加する場合もある。）

2．調査・分析
自らが設定した課題について調査・分析を行う。
フィールドワーク：テーマについて実際に現場へ出向き、自ら情報を収集する。
文献調査：書籍、雑誌、論文等の文献、インターネット等から必要な情報を獲得する。
分析：テーマに沿って収集した情報の整理・分析を行い、設計や立論へとつなげる。

3．プレゼンテーション
調査・分析を基に、課題に対する解答、提案、結論を、他の人々にプレゼンテーションする。その際、テーマに沿って最も効果的なメディア（図面、模型、映像、小論文等）を各自選択する。

4．総合評価：前期、後期末に総合講評をおこなう。

例年、前期はテーマ別に数人のグループをつくって共同で作業を行う。後期は各個人のテーマをより突き詰め、それぞれで作業を進めることとする。ただし、年度によって作業の進め方を変更することもある。

【授業の目標】

自ら設定したテーマについて調査・分析し、それに対する具体的提案を提示する。

【授業計画】

ゼミ期間中を通して以上１→４の流れで授業を進めて行く。

【評価方法】

プレゼンテーションと、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市環境デザイン演習 Ia・b

高橋敏郎

【授業の概要】

「コンセプトの無いデザイン」はありえない。私たちを取り巻く家具、調度品、室内、建築、都市すべてが何らかの意図を持ち関わり合い空間を構成している。この演習では、設定されたテーマあるいは自分の関心を持ったテーマについて基礎知識を習得し、また、作品を見ることから設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解読することによって独自のデザインの切り口を見つけようとするものである。特に室内の家具や調度、室内空間、室内気候と人間の関わり、建築内部と外部空間の関わり、都市と建築の関わりなどに着目し、資料収集、調査・観察、分析を行い、設計に結びつけてゆきたい。

【授業の目標】

人間工学、家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得とプレゼンテーションテクニックを習得し、作品化できること。卒業研究についての自分のテーマが設定でき、資料収集・調査の計画が立案できること。

【授業計画】

前期
1．建築と室内の現代デザイン思潮、人間工学と家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得。
2．共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3．作品の発表と討論会。
4．国内建築研修旅行

後期
1．共通課題の設計（個人）。共通課題に必要な基礎知識の習得
2．ａ）卒業研究についての各自でテーマ設定の仕方について
2．ｂ）各自の設定したテーマについて資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する
2．ｃ）分析結果を踏まえ、研究または設計計画書を作成する
2．ｄ）計画書の発表と討論会

【評価方法】

計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

【テキスト】

特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

【参考文献・資料】

目を養い手を練れ（彰国社）
建築のかたちと空間をデザインする（彰国社）

都市環境デザイン演習 Ia・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築を設計するということは、「意味に形を与える」ということであるといえる。形態や様々な記号の操作の前に、その建築が存在する場所の意味、さらにそこに企画しようとする建築の意味の本質、そしてそこにどのような場所と空間を生み出そうとするのかという明快な論理性を物としての建築の全体と部分が持っていなければならない。建築をデザインする上での基本となるこうした思考方法を建築を学び始めた学生諸君に様々な建築思潮、作品の分析、実際の制作行為を通して学んでもらうことを目的とする。

【授業の目標】

教員とのディスカッションの中で、建築を設計する上で基礎となる理論的な知識を得る。

【授業計画】

1）建築論、空間論に関する基本的文献の紹介と解説を行う。
2）現代建築の作品をいくつか取り上げ、見学し、実際の体験と観察を通して、その解読と分析を試みる演習を行い、制作者の意図と建築空間の連関について学ぶ。
3）小規模な設計課題にとりくみ、設計意図の明確化、コンセプトの建築形態への具体化とデザインを学ぶ。
4）夏期に現代建築作品の見学研修旅行を行なう。

以上の過程で、演習II、卒業論文、設計へと発展する各自のテーマが見出せるように指導したい。

【評価方法】

課題への取り組み、発表、成果を総合評価する。

【参考文献・資料】

参考文献として
人間と空間（O.F.ボルノウ　せりか書房）
かくれた次元（E.ホール　みすず書房）
その他いくつかの文献や論文を演習中に提示します。

都市環境デザイン演習 Ia・b

日色真帆

【授業の概要】

自分たちの居住環境を形成している、室内、建築、都市というそれぞれスケールの異なる空間について、現実の体験や観察の記述、図面やその他の視覚的な表記法、模型、写真、創作的な物語、コンピュータシミュレーションなど、さまざまなメディアを利用して、解読し評価することを学習する。調査や実験の方法についても一連の作業の中で習得する。特に都市住居を見直す視点からアプローチする。

【授業の目標】

都市や建築の空間のデザインについて知見をひろめ、各自が焦点を当てて考察を深める方向性を定める。

【授業計画】

演習の進め方は、受講者と議論の上具体的に決めることとするが、「目標をたて、調査や実験をし、プレゼンテーションをする」という一連の作業を、数セット行うこととする。大学院生や４年生の研究テーマと関連づけて行うこともある。

・イントロダクション：居住空間を解読する視点を概説する。様々な分析手法についても解説する。
・見学：対象とする地域について見学をし議論を深める。
・調査・実験：各自が関心をもった側面について、それぞれ調査・実験を行う。
・中間発表会：調査・実験の経過について発表をし講評を受ける。
・調査・実験の追加およびプレゼンテーション作業
・講評会
・プレゼンテーション追加作業：講評会での批評をもとにプレゼンテーションの追加作業を行う。

【評価方法】

プレゼンテーションと提出されたレポートによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習 Ⅰa・b

吉田邦彦

【授業の概要】

建築設計に関わる下記の項目に関するテーマを取り上げ、調査・分析・検討する。

・建築の設計プロセス
・建築設計におけるCAD・CGの機能や表現力の可能性
・情報技術（IT）革命の建築（住宅・オフィス・図書館など）への影響
・建築（大学キャンパスやオフィスなど）の評価
・サスティナブル・デザインの手法

検討結果をもとに今後の変化の方向あるいは望ましい将来のあり方や方法を考察・提案する。

【授業の目標】

各自が自主的にテーマを取り上げ、調査・分析・検討し、その結果を発表する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

【授業計画】

（1）テーマ設定：各自が関心を持ったテーマについて発表、討論の上、設定する。内容や方法によっては、2～3名でグループを編成する。
（2）演習実施計画の作成と発表：取り上げたテーマについて、どのような観点、方法、スケジュールでアプローチするかをとりまとめた実施計画書を作成・発表し、討論する。
（3）調査・分析あるいは制作の実施：文献調査、現地調査、アンケート調査、ヒヤリング調査など適切な手法で調査し、結果の分析を行う。また、CAD・CG等による制作を通して、検討する。作業は、各人が自主的に行い、その経過を随時報告し、全員で討議する。
（4）発表及び講評：各グループ毎に調査・分析・制作の結果についてプレゼンテーションを行い、討議・講評を受ける。講評会での討議をもとに、追加・修正作業を行い、最終報告書のとりまとめを行う。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

【参考文献・資料】

授業内で、適宜紹介する。

哲学概論

長滝祥司

【授業の概要】

西洋を中心とする哲学の概要をテーマにそって理解するとともに、哲学的思考法を学ぶことをめざす。哲学のトピックに親しみながら、現代社会の諸問題を哲学的な思索とを相互連関的にとらえ、論理的な思考力と表現力を養うことを目的とする。

【授業の目標】

哲学的な概念を理解し、論理的な思考力を養うことを目標とする。

【授業計画】

1．現代社会において哲学することの意義とは何か
2．心身二元論と認識論――デカルトから『マトリックス』へ
3．心身問題というアポリア
4．実在と表象について
5．身体論的転回――哲学から認知科学へ
6．コンピュータは心をもつのか１――『ブレードランナー』とチューリングテスト
7．コンピュータは心をもつのか２――中国語の部屋
8．ロボットが他者になるとき――『甲殻機動隊』の一話より
9．他者と心の帰属――心の理論
10．身体の機械化の果てにあるもの――『ゴースト・イン・ザ・シェル』と人格の同一性
11．心と脳の同一性をめぐって
12．水槽のなかの脳
13．クオリアとは何か

【評価方法】

平常点（含小テスト）、レポート。

【テキスト】

【講義の進め方】
基本的には教科書が中心となるが、折に触れて、講義で扱っている哲学的なテーマに関係する映画などを鑑賞しながら進めていく。

【参考文献・資料】

現象学と二十一世紀の知（長滝祥司　ナカニシヤ出版）

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】

現代は情報化、国際化、少子化が進み、とりまく環境も大きく変化してきた。情報機器をはじめとする科学技術は目を見はるばかりに進展している。しかし、それに伴って人間性は失われていった。価値観が変わり、生きる指標を失ってしまったのが現代人ともいえよう。この混迷期の時代に、いかに生きるべきかの生き方が問われている。まさに人間の心の豊かさが求められた宗教の時代ともいえよう。
本講義では、最初に宗教に関する学説や本質を学び、その後、世界の諸宗教を概観する。次に私達の人生の先達ともいうべき人々の著作をとりあげ、その解説を通して、先達の生き方や人間の真の生きがいを考えてみようとする。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業の目標】

世界の宗教を概観し知識を得た後、特に仏教を開いた釈尊の生涯、教説を学び、人間の心の豊かさと生き方を学んでもらいたい。

【授業計画】

1：はじめに
2：宗教の学問的見方
3：世界の諸宗教（1）
4：　〃　（2）
5：　〃　（3）
6：釈尊の生涯（1）
7：　〃　（2）
8：釈尊の教説（1）
9：　〃　（2）
10：　〃　（3）
11：祖師の著作や古文書の解読（1）
12：　〃　（2）
13：　〃　（3）
14：まとめ

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

使用しない。経典、語録などのプリントは当方で用意し配布する。

心理学概論

藤井恭子

【授業の概要】

この授業では、個性の発揮や自己・他者理解のために、人間のパーソナリティ・発達・学習・動機づけなど、現代心理学の主なテーマを取り上げて解説し、考察していく。
心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを受講者が理解することをこの授業の目的とする。

【授業の目標】

GIO（一般目標）
心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを理解し、「人間」というものがいかにして成り立ち、どんな特徴をもつ存在であるかを考えるための基礎的な知識を身につける。
SBO（活動目標）
（1）科学としての心理学の視点を身につける。
（2）知覚，記憶，社会的認知，感情・動機づけ，パーソナリティ，発達という６つの枠組みに従い，基礎的な知識を身につける。
（3）簡単な実験や尺度を体験し，自己を理解する。

【授業計画】

1．オリエンテーション／心理学の生い立ちと歩み
2．知覚　－外界をどのように知るのか－
3．記憶　－覚えること・忘れることのしくみ－
4．社会的認知　－対人認知－
5．社会的認知　－態度変容・集団認知－
6．感情・動機づけ　－感情・情緒－
7．感情・動機づけ　－動機づけ－
8．パーソナリティ　－心の個人差－
9．パーソナリティ　－適応－
10．発達　－児童期－
11．発達　－青年期のアイデンティティ－
12．発達　－青年期の対人関係－

【評価方法】

レポート（詳細は授業にて説明する）

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の中で随時紹介する。

特別セミナー

清水裕二

【授業の概要】

（1）**趣旨**：高等学校教育から大学教育への円滑な移行を図り、入学後の基礎教育の推進を目的に、各種研修的行事への参加によるレポート作成指導を中心とした、「特別セミナー」を実施する。
（2）**指導方法**：担当教員がクラス単位で指導する。
（3）**注意事項**：担当教員からの連絡・課題図書等の指示、及び現代社会学会研修行事開催の案内は掲示で行うため、掲示に注意すること。また、学生は積極的に担当教員を訪ね、指導を仰ぐこと。

【授業の目標】

学生が担当教員（アドバイザー）とのコミュニケーションを深め、入学後の大学生活における勉学の目的意識を育むとともに、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

以下に指定するものの中から学生が選択をし、レポートを年に２回以上提出し、担当教員が指導・評価する。

＜必須＞
（1）エンカウンターキャンプの観察レポート
（病気等の理由でキャンプ不参加の学生は、博物館・美術館等の見学レポートをこれに代える）

＜選択＞
（1）担当教員の指定する課題図書の読書感想文
（2）現代社会学会主催の研修旅行への参加と観察レポート
（3）現代社会学会主催の講演会への参加と感想レポート
（4）学内で行われる各種研修行事への参加と感想レポート
（5）学外で行われるボランティア等体験学習への参加と感想レポート
（6）その他担当教員が認めるもの

【評価方法】

レポート（２回以上提出）による

【テキスト】

課題図書は、担当教員が指示する

【参考文献・資料】

特になし

基礎演習

清水 洋　親松和浩

【授業の概要】

現代社会における課題発見と問題解決のための基礎知識と技法を学ぶ。この授業は２名の教員によるオムニバス形式で実施する。

【授業の目標】

調査、分析、報告に関する基本的な技能を習得する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．図書館を利用した文献検索実習
3．各教員の指定テーマに関する調査、発表、プレゼンテーション
4．文献購読等

（注）この授業は旧カリキュラム履修者に対して特別に開講する授業であるため、授業で扱うテーマは履修者の状況に即して各教員が適宜決定する。

【評価方法】

授業態度、課題提出および発表などから総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

地域社会演習 IIa・b

石田好江

【授業の概要】

演習Iにおいて深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。

前期は、演習Iの基礎的な理解の上にたって、消費者行動や就業行動をめぐる周辺領域の文献、あるいは近年の新しい視点の論文を取りあげ、よりこの分野の理解を深めることをめざす。

後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が３年後期から進めてきた個人研究をさらに深め２年間の演習の集大成として論文の形でまとめる。

【授業の目標】

テーマについてのより深い考察ができるようになることとともに、研究活動を通じて問題解決能力を身に付ける。

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

地域社会演習 IIa・b

大嶽 浩

【授業の概要】

演習Iにひきつづき、「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業の目標】

民法の基本的な「仕組み／精神」を理解すること。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「各論」的に考察する。具体的には、
1　所有～賃貸　　2　維持～管理　　3　贈与～相続
などについて考察する。以上のほかに、「『住まう』とはどういうことか」や「文学作品から見た『住まい』」についても考える。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

地域社会演習 IIa・b

榊原國城

【授業の概要】
受講学生は自らの興味や関心によって研究テーマを自由に設定し、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学ぶことが求められる。演習は、先ず、問題・仮説の設定に関わる基礎的講義によってスタートする。その後、受講学生の個人発表および討議によって進められる。最終的には、演習を通して行った研究の成果を研究論文としてまとめる。

【授業の目標】
この演習の目標は、学生自身の個人研究活動を通じて、判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけることにある。

【授業計画】
毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式である。その内容は研究活動の各段階ごとに、問題の設定・文献研究・研究目的の明確化・方法の検討・データの収集・結果の集計・分析・考察というように、段階的に変化しながら1年間継続的に進行する。

【評価方法】
演習への参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】
組織行動の調査方法（E.F.ストーン著　鎌田伸一・野中郁次郎　1980　白桃書房　定価2,400円）

【参考文献・資料】
授業中に提示する。

地域社会演習 IIa・b

竹村 弘

【授業の概要】
目的は、「演習I」で述べたように、実社会においてプロジェクトを主体的に立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、行動できる実力を身につけることである。
「演習II」においては、日本経済および地域開発に関わるあらゆるテーマについて、一人ひとりの問題意識に基づき、「調査研究」「企画提案」「論文作成」を実施する。

【授業の目標】
論文の作成

【授業計画】
1.「調査研究」: 文献調査により先行研究を十分理解・整理した上で、現地調査、アンケート調査、ヒアリングなどにより、独自の観点からの研究を深める。
2.「企画提案」「論文作成」: 事例調査・企画提案を統合して論文を作成する。中間報告で全体討論、意見交換を行い、論旨展開、実証資料、理論構成等の一層の充実を図る。

【評価方法】
討論、「論文」など総合的に評価。

地域社会演習 IIa・b

谷沢 明

【授業の概要】
地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。
3年次後期に各自が設定したテーマに基づいておこなった「地域社会演習Ia・b」のフィールドワークの成果を基礎に、それを発展させていきます。ゼミでは、学生の自発的な調査研究活動の成果報告をもとに、調査研究論文の作成の指導を行います。後期は、文献講読です。

【授業の目標】
各自が設定したテーマに基づき、教員と協議の上、それぞれが一定の水準に到達することを目標とする。

【授業計画】
前期：各自が設定したテーマに基づき、それぞれが、調査研究を進め、そのまとめを行う。
4～7月：調査研究とまとめ。
8月：個別研究指導。
10月初旬：調査研究論文の提出（これを卒業研究の基礎とする）。
後期：宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとして講読を行う。
10～1月：『家郷の訓』講読。

【評価方法】
平生の授業態度、調査研究論文の内容等で行う。

【テキスト】
前期はテキストは使用せず。後期は、家郷の訓（宮本常一　岩波文庫）をテキストとする。

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

地域社会演習 IIa・b

千葉善根

【授業の概要】
演習Iにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

【授業の目標】
一つの大きなテーマを決め、深く調査研究し、卒業論文の資料にもなるように系統的に調べる。

【授業計画】
○各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。
○各発表に全員が参加し討議する。
○随時、個々に指導助言する。
○必要に応じて見学、試食などを考える。

【評価方法】
発表・討議、リポート、出席など総合して評価。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
講義中に紹介

国際社会演習 IIa・b

石橋千鶴子

【授業の概要】
演習Iに引き続き、（1）地域研究：多文化・多言語社会の考察、（2）日本語教育に関する考察を深めるとともに、各自が設定したテーマで論文作成を進めていく。

【授業の目標】
文化の多様性を認識し、異質なものに対する柔軟な視点を養っていって欲しい。

【授業計画】
各自が、自分のテーマについて調査・研究を進め、中間発表を行う。クラス討議と個人指導を通して、卒論を仕上げていく。

【評価方法】
発表、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】
テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

【参考文献・資料】
必要に応じて紹介する。

国際社会演習 IIa・b

清水 洋

【授業の概要】
演習Ia・b からの継続。この演習は、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業の目標】
アジア諸国の諸相に関する基礎知識を身につけるとともに、様々な資料を用いて分析能力を養う。

【授業計画】
各自が設定した、アジアに関するテーマに基づいて調査・研究を進め、中間発表を随時行い、期日までに卒論を完成させる。また、アジアに関する文献の講読を行い、内容について討議する。

【評価方法】
討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】
第１回目の授業で指示する。

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

国際社会演習 IIa・b

西尾林太郎

【授業の概要】
「東北アジアおよび日本社会に関する総合的研究」
戦前および戦後の東北アジアや日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

【授業の目標】
プレゼンスの能力を涵養する。

【授業計画】
たとえ短くても、演習生全員が卒業論文（ワープロ打ちA４　12枚以上）作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。なお、ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点や卒論の一部について発表してもらう。
また、適宜、学外から講師をお呼びし、御指導いただきたいと思っている。

【評価方法】
評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
随時、指示する。

国際社会演習 IIa・b

秦 忠夫

【授業の概要】
演習Iでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習IIでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「国際資本移動の功罪」、「わが国の金融制度改革」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めて行きたいと思います。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思います。
教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れていきます。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

【授業の目標】
積極的な姿勢で授業に参加し活発に意見を述べる。割り当てられたテーマについてはしっかり準備し、説得力のある報告を行う。

【授業計画】
上記の通り。

【評価方法】
レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】
テキストの使用予定なし。

【参考文献・資料】
授業の際、適宜紹介。

国際社会演習 IIa・b

藤井麻湖

【授業の概要】
卒論執筆に向けた指導をおこないます。各自のテーマに沿った指導を綿密におこないます。

【授業の目標】
まずは、卒論のテーマでどのような問題を明らかにしようとするのかの論文の問題点を明確にしていきます。そのうえで、どのようなアプローチがとりうるのかをじっくり模索してほしいとおもいます。

【授業計画】
各自が卒論のテーマにそって２回の中間発表をおこない、クラスでディスカッションをします。また、個人指導を通して、より構成力のある論文に仕上げてもらいます。

【評価方法】
２回の中間発表とまとめのレポート提出、それに平常の授業態度を総合して評価します。

【テキスト】
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原 喜康（著）（講談社現代新書）

【参考文献・資料】
適宜授業中に指示します。

メディアプロデュース演習 IIa・b

石田米和

【授業の概要】
演習Iでのテーマをより深化させて、各自の関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。
概ね以下の項目についての指導を行っていく。
メディア文化に関する議論、個別研究
関心テーマの絞り込み
卒業論文の作成計画
卒業論文の執筆

【授業の目標】
問題意識をより深化させ、仮説設定、資料収集と分析、理論構築等の卒業論文作成に不可欠な能力を習得すること。

【授業計画】
徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】
レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース演習 IIa・b

太田浩司

【授業の概要】
演習Ia・bに引き続き個人が社会生活の中でどのようにコミュニケーションをしているのかを調査・研究をする。前期は、調査を行った結果を社会の中にどのようにフィードバックをしていくかという応用面に焦点を当てる。後期は研究した内容について報告書(卒論）を作成することを目標とする。

【授業の目標】
自らが問題視をしている社会的事象に関して適切な方法でリサーチして、適切な言葉を使用して表現、議論する技術を身につけることを授業の目標とする。

【授業計画】
学期の最初に提示する。

【評価方法】
個人の口頭発表とプロジェクト

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
随時配布をする。

メディアプロデュース演習 IIa・b

大西 誠

【授業の概要】
演習Ia・bをさらに発展させる。
メディアプロデュースの実際について、企画から実施まで制作を試みる。それぞれの感覚や独自性の伸長を図る。

【授業の目標】
プレゼンテーションなどを通じて自己表現力を高める。研究成果をまとめることにより、論理的思考力と情報編集能力を身につける。卒論作成または卒業制作を行う。

【授業計画】
研究発表と討論、一部フィールドワーク。課題の深化のため、個別指導を求めることが望ましい。
＜前期＞
各自の課題を明確にし、メディア・プロデュースについて理解を深める。
1）メディア表現分析と討議
2）テキスト解読とその応用
＜後期＞
グループワークとしてメディア企画のシミュレーションを行うとともに具体的な成果物（卒論、卒業制作など）の作成にとりくむ。
研究課題は以下の三つを中心に行う。
1）展示企画/イベント企画（大学祭参加など）
2）広告概論（CM分析）
3）映像制作（グループワーク）

【評価方法】
口頭発表、レポートの提出などにより総合的に評価。

【テキスト】
情報デザイン入門（平凡社新書）

メディアプロデュース演習 IIa・b

板倉達文

【授業の概要】
前期は文献購読。「世論」「孤独な群集」などのメディア研究の古典を読む。
後期はこれまでの研究内容を踏まえ、卒業論文、制作に関する構想発表の場としたい。

【授業の目標】
メディアに関する社会心理学の古典を理解する。また卒業研究に向けた基本的な準備を行う。

【授業計画】
1．全体計画提示
2．文献購読
3．卒業研究構想と討論
4．卒業研究の発表

【評価方法】
授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

【テキスト】
孤独な群集（みすず書房）
幻影の時代（東京創元社）

【参考文献・資料】
メディア・プラクティス（せりか書房）

メディアプロデュース演習 IIa・b

親松和浩

【授業の概要】
演習Iをふまえて、各自が具体的なテーマを設定し、調査研究論文を完成させる。特に、情報通信技術に関連するテーマについては、より実践的研究として、パソコンを利用した教材制作も視野に入れる。

【授業の目標】
情報メディアをはじめとした科学技術を暮らしに活かすことをテーマとして基本知識の習得しその理解を深める。また調査、分析、報告の技能を実践的に磨いてゆく。

【授業計画】
学生の発表、ディスカッションによって調査研究（教材制作）を完成させていく。演習I同様、資料の配付や収集、レポート提出には電子メールとWWWをフルに活用する。また、科学館・博物館見学も行う予定である。

【評価方法】
出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース演習 IIa・b

古賀暁子

【授業の概要】
演習Iでの経験をもとに、映像の世界を更に深く遠く旅することにしよう。その過程では、先達の遺したすぐれた作品に感動したり、その時代としての新しい挑戦の意義に気付いたりすることも必要だ。映像の面白さをあえて言葉で分析し、整理し、表現することを学ぶことによって、注意深く“見る”眼が養われ、映像表現のテクニックも身につくことであろう。

【授業の目標】
映像を注意深く視る力を養い、映像の世界を更に拡げる。

【授業計画】
演習Iとの相異点は、学生主体の発表に課題を与え、方向性を加味する。話し合うだけでなく、論理的な文章としてまとめる訓練も行う。演習Iと同様、自作の映像作品をもちよって全員で検討することも奨励する。

【評価方法】
授業への参加態度や貢献度、レポート、自主研究の深まりなどにより常時評価する。

【テキスト】
なし。

メディアプロデュース演習 IIa・b

五島幸一

【授業の概要】
演習Iを発展させて、様々なメディアの特徴を理解するとともに、メディアを通じて流されてくるメッセージの内容を分析する。具体的には、ニュース報道、広告、またはテレビドラマなど様々なものを対象にして、コミュニケーション（とくにレトリック批評）の観点からその内容を考察する。
授業はテキストを輪読するとともに、学生は自分たちの興味あるトピックをみつけ、それを発表することが課せられる。

【授業の目標】
メディアがどのようにメッセージ（コンテンツ）を作り上げているのかを学び、そのメッセージがどのような意味を人々に与えるのかを理解する。

【授業計画】
テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

【評価方法】
与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するレポートをもって評価の対象とする。

【テキスト】
未定

メディアプロデュース演習 IIa・b

坂元 多

【授業の概要】
演習Iをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。
課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

【授業の目標】
映像表現を、斬新性、実験性、創造性の観点から自ら試みる力を養う。

【授業計画】
試写と討議を中心とする演習。

【評価方法】
発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

メディアプロデュース演習 IIa・b

辻 紘良

【授業の概要】
演習Iで体得したマルチメディア技術諸相の認識を基盤とし、次の研究１～４を並行して進めていく。
（研究１）マルチメディア社会や技術に関し、今日的なテーマを設定し、調査分析を試みる。例えば、無線LANや4Gケイタイなど具体例を取り上げ、それらの現状と将来を調査し、地域社会や産業に及ぼす影響を考察する。
（研究２）演習Iの延長で電子メディアを総合的に駆使してマルチメディア作品の作成を行う。
（研究３）マルチメディアに関する要素技術をより深める実験・研究を行い、応用面を開拓する。
（研究４）新しいシステムの望ましい姿を思い描き、プログラム言語を用いてパソコン上に構築し、実現可能性を確認する。

【授業の目標】
1．マルチメディアを対象に課題を設定し調査・分析し、新たな提案や展望を得るための研究能力を高める。
2．システム制作や個人やグループ制作を通して総合的な制作能力を高めるとともに研究、開発力を高める。

【授業計画】
（研究１）調査対象は一人一つを選び、前期に専念して調査する。後期は各自がその結果を用いて現状や将来を考察するとともに、論文を作成する。これらを随時、各自が発表するとともに全員で討議し問題の認識を深める。講義や、クラス討議を通して各技術の位置づけや、関連性を理解する。これらを通して、マルチメディアに関して具体的で幅広い認識を得る。
（研究２）～（研究４）に関しても上記と同様に前期、後期の階段を追って研究を深める。
受講にさいしては「情報演習科目、デジタルメディア実習科目」の履修が望ましい。学内ネットワーク利用資格は取得しておくこと。

【評価方法】
中間報告やクラス討議、ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】
テキスト使用せず。

【参考文献・資料】
マルチメディア情報学の基礎（長尾真他著　岩波書店　p.240）

都市環境デザイン演習 IIa・b

渥美正子

【授業の概要】
演習Iを基に、さらに、それらを発展させていくことにより、論文としてまとめていく。

【授業の目標】
それぞれのテーマに関連する文献、論文の収集を行い、オリジナルな視点を設定する。居住者調査やヒヤリング調査等、自らの足で動き現状を客観的に把握し、得られたデータを分析していくことにより、提言（含　平面プランの提案）に結び付けていく。

【授業計画】
次のようなことをふまえ、進めていく。
（1）テーマの設定
　研究テーマを設定した目的・意義を明確にする。
（2）研究論文の書き方
（3）関連文献・論文の収集
（4）居住者調査等の方法
　調査対象の設定、調査票の作成、集計結果の分析
（5）全員による討論
各人、個別にテーマを設定するが、全員での議論をもとに進めることを原則としている。したがって、他のメンバーの研究に対しても、全員で積極的に意見を出し合う。

【評価方法】
授業への出席状況、テーマへの取り組み状況、討論への積極性、研究発表の内容を総合して行う。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

都市環境デザイン演習 IIa・b

岡本晴彦

【授業の概要】
建築構造も人間の生活、文化と深い関係がある。その視点から、社会が必要としている建築構造に関する研究を行う。
その研究実施のために必要となる既往関連文献の調査と検討を行う。
さらに、設定した研究テーマについて、新たな知見を得るための数値解析と実験を行う。

【授業の目標】
設定した研究テーマを遂行する過程から、建築構造に関する考察力、問題解決能力を向上させる。

【授業計画】
○　鉄筋コンクリート構造の基本原理に関するテキスト講読
○　設定した研究テーマに関連する既往文献の調査と検討
○　研究テーマを数値解析と実験により遂行する。
○　何を明らかにしたかに関して整理をする。
授業の一環として、構造部材生産施設の見学を行う（日帰り、または１泊２日）。

【評価方法】
遂行過程と作成される論文などを総合的に評価する。

【テキスト】
エース　鉄筋コンクリート構造（渡邉史夫他著　朝倉書店）
その他に関連する論文、技術資料を配布する。

【参考文献・資料】
授業中に紹介する。

都市環境デザイン演習 IIa・b

河辺泰宏

【授業の概要】
デザインと建築の歴史、建築と都市の造形、現代のデザイン状況等に関連したテーマを扱った文献のサーヴェイリポートとフィールドワークを中心とした演習を行う。
本年度の主な課題としては、とくに西洋建築史や古建築の保存と再生に関わる文献講読等を考えている。
このほか、各個人の研究テーマを設定し、随時研究報告を行う。

【授業の目標】
事例研究を通じて歴史的遺産の保存と再生の現状や問題点を把握する能力を養う。

【授業計画】
文献講読やフィールドワーク等にあたっては、持ち回りで担当者を決めて準備・報告を行う。また、年度末の研究報告会は口頭試問として行うので、必ず参加しなければならない。
なお、3年生の演習Iで研修旅行やフィールドワークを行うが、4年生も希望があればその都度、自主的に参加することができる。

【評価方法】
授業・見学会・調査活動等への参加状況とレポート、論文発表の内容と口頭試問の結果によって決める。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
必要に応じて参考資料を配布。

都市環境デザイン演習 IIa・b

齋藤基之

【授業の概要】
都市環境デザイン演習Iで各自が設定したテーマに基いて内容を発展・深化させるとともに、詳細な実施計画をたて、それを遂行し、卒業論文・卒業制作としてまとめる。

【授業の目標】
卒業論文・制作における提案・結論に到るまでの思考を整理することにより、論理的思考力を身につけるとともに、それを人に伝える（プレゼンテーション）能力を養う。

【授業計画】
授業の進め方は、都市環境デザイン演習Iに準じる。
前期は主に、調査や実験の遂行に必要な基礎知識やノウハウ、得られたデータの解析方法等について指導する。
後期では、研究成果のプレゼンテーション（論文執筆や図面・模型の制作など）の充実に重点を置いた指導を行う。

【評価方法】
卒業論文・卒業制作に向けての取り組み状況、途中経過の発表、報告書等の提出物、討議への参加状況、出席状況により総合評価する。

【テキスト】
特になし。

都市環境デザイン演習 IIa・b

清水裕二

【授業の概要】
都市環境デザイン演習Iのテーマ（建築や都市を通した現代社会の事象や問題についての考察）をふまえ、それらを発展、深化させるかたちで卒業制作や卒業論文へとつなげることを目指す。
授業の進め方としては、都市環境デザイン演習Iに準じる。

【授業の目標】
都市環境デザイン演習Iと同様、自ら設定したテーマについて調査・分析し、それに対する具体的提案を提示することが目標であるが、卒業制作、卒業論文としては、社会性をもったテーマ、提案が望ましい。

【授業計画】
基本的には都市環境デザイン演習Iに準じる。

【評価方法】
最終成果物（卒業製作・卒業論文）と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

都市環境デザイン演習 IIa・b

高橋敏郎

【授業の概要】
演習Iで学んだ事項を基礎に、昨年度各自が設定したテーマについて作業をすすめ卒業設計、卒業論文に結びつけていく。具体的には資料収集、調査・観察、分析を行い研究レポートを提出、教員との議論、ゼミ全体での討議を経て計画書を作成する。これらの作業の中から設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解読することによって独自のデザインの切り口を見つけ卒業設計や卒業論文に結びつけてもらいたい。前期にはこれらの作業と平行して設計課題も行い設計に必要な知識、技術の習得をも目指す。

【授業の目標】
人間工学、家具、インテリア、空間などについての各自のテーマに沿って資料収集・調査、分析を行い、論文、設計、制作として完成させること。

【授業計画】
前期
1．各自のテーマの設定。資料収集、調査、観察を行いレポートを作成する。
2．共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3．作品の発表と討論会。
後期
1．作品の発表と討論会（第二回）。
2．研究または設計計画書を作成する。
3．補足の資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する。
3．分析結果を踏まえ、計画書を加筆、研究または設計へと展開する。
4．論文または設計としてまとめる。
5．研究または設計の発表と討論会。

【評価方法】
計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

【テキスト】
特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

【参考文献・資料】
同上

都市環境デザイン演習 IIa・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

原則的には昨年度各自が設定したテーマに基づいて、卒業設計・論文としてまとめる為の修正、テーマの絞込み、内容の深化をめざす。既存の類似作品の分析を通して、独自性のある視点を開発すると同時に、コンセプトの明確さ、計画的確性や空間・造型の論理性等、卒業設計をまとめる上で必要な見識を修得する。

【授業の目標】

自らの選んだテーマにそって、より深く学ぶための分析手法や設計の際しての思考方法を学ぶ。自ら学ぶという姿勢を身につける。

【授業計画】

1）昨年度演習Iで各自が発表してきたテーマに関連した既存の作品や文献を提示します。
2）それとの比較の上で各自自分のテーマの絞込みと、新しい視点の設定を行う。
3）各自のテーマを進める上で、どのような調査や資料が必要かを整理する。
4）卒業設計又は卒業論文骨格を整理した予備的なレポートを提出して発表し全員で議論する。
5）卒業設計あるいは論文としてまとめるための個別指導を行う。
6）建築作品の見学と分析のためのフィールドワークを行なう。

【評価方法】

途中の発表と積極性、最終的な作品又は論文の内容で評価します。

【テキスト】

テーマごとに必要な文献や論文を提示します。

都市環境デザイン演習 IIa・b

吉田邦彦

【授業の概要】

演習内容については、演習Iを継続し、範囲を拡げるか、あるいは深く調査・検討する。今後の情報化・長寿化及び環境型社会などの動向への対応と問題点の解決方法についても検討する。

【授業の目標】

各自が自主的にテーマを取り上げ、調査・分析・検討し、その結果を発表する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

【授業計画】

演習の進め方は、演習Iの方法を引き継ぐ。特定テーマについて、グループでの研究あるいは個人単位での研究を行う。研究論文としての形式、内容を重視した視点からの討議、講評を行う。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

【参考文献・資料】

授業内で、適宜紹介する。

都市環境デザイン演習 IIa・b

日色真帆

【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、教員と議論の上、学生がそれぞれに選択したテーマについて分析、調査、実験、考察を加え、研究レポートを作成する。デザイン的な提案をまとめる場合もある。この演習を通して各自テーマを絞り込み、卒業研究へと結びつけてもらいたい。

【授業の目標】

各自のテーマについて考察を深め、最終的に研究成果をまとめあげる。

【授業計画】

受講者と議論の上具体的にテーマを決めるが、教員が掲げている最近のテーマは以下のようなものである。

・両義的空間について
・街区内のヴォイド空間の調査と提案
・都市空間のオープンスペースについての研究
・現代の囲われた庭について
・デパートなど商業空間におけるwayfindingの研究
・空間の表記方法「スペースブロック」の開発
・出来事の表記方法「イベントピクトグラム」の開発
・場面のデザインの視点から見た各種デザインの比較
・映画や演劇における場面デザインの分析
・回遊式庭園のwayfindingの分析
・ハイパーテクストのwayfindingの分析
・建築空間の転用に関する研究
・立体的に複雑な建築空間のデザインについて
・都市空間の緑化についての研究

【評価方法】

評価は、研究レポートとそのプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

ジェンダーと社会

中島美幸

【授業の概要】
文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

【授業の目標】
「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】
第１回　講義概要説明
第２回　表現する女性の困難（１）――イギリス小説誕生の背景
第３回　表現する女性の困難（２）――樋口一葉の挑戦
第４回　『青鞜』の女性たちの主張
第５回　＜母＞の表現――母性神話を問う
第６回　＜娘＞の表現――恋愛と自立と
第７回　ことばとジェンダー
第８回　男性作家のジェンダー
第９回　幼い頃に出会った表現――「シンデレラ」
第10回　教科書のなかのジェンダー
第11回　映画のなかのジェンダー
第12回　＜家族像＞を描きなおす

【評価方法】
学期末レポートを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。（詳細は授業にて説明する）

【テキスト】
なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】
講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】
男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】
男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】
第１回　講義の概要説明
第２回　作られる「女らしさ」「男らしさ」
第３回　恋愛と結婚
第４回　リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
第５回　母になるということ、父になるということ
第６回　多様性とエンパワメント
第７回　女性に対する暴力の根絶
第８回　「男らしさ」からの解放
第９回　「働くしかない男」と「働けない女」
第10回　近代的性別分業――現在と2055年の日本
第11回　男女をめぐる国際比較
第12回　女性学・男性学の誕生
第13回　テスト

【評価方法】
学期末テストを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。（詳細は授業にて説明する）

【テキスト】
なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】
講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】
少子化時代に不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

【授業の目標】
ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

【授業計画】
新聞記事、ビデオを多数使って、以下の４点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。
１．戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
２．ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
３．格差社会と少子化のはざまで～不安定雇用と福祉削減に揺れる「子育てできる社会」
４．仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】
出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】
『家事の値段』とは何か（久場嬉子・竹信三恵子著　岩波ブックレット　1999年）

【参考文献・資料】
ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著　現代書館　1996年）
ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著　岩波書店　2002年）

女性学・男性学

中村 彰

【授業の概要】
１９９９年６月に成立した「男女共同参画社会基本法」がめざす社会システムを検証し、仕事の場や家庭、地域で、私たち男女がフェアで対等に生きるとは何かを説明します。日本における女性運動、男性運動のあゆみにもふれ、先人たちの心根を学びます。セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、過労死、中高年の自殺など、そのときどきの社会問題を男女共同参画の視点で読み解きます。

【授業の目標】
男女共同参画社会とは何か？　新聞などのプリント、ビデオなどで判りやすく講義します。ワークショップで自分を振り返る工夫も試みます。

【授業計画】
1　ジェンダーと男女共同参画社会
2　日常に潜むジェンダー・バイアス
3　女子差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法
4　ドメスティック・バイオレンス
5　セクシャル・ハラスメント
6　恋愛・性をめぐるジェンダー
7　多様な性を考える―性自認・性指向・インターセックス
8　メディア・リテラシー
9　教育とジェンダー
10　仕事社会がもたらしたもの
11　高齢社会とジェンダー
12　育児支援とジェンダー
13　福祉・医療現場とジェンダー
14　ジェンダーからみた障害者問題

【評価方法】
レポートにより評価します

【テキスト】
中村彰『男性の「生き方」再考　―メンズリブからの提唱』世界思想社　2005
伊藤公雄ほか『女性学・男性学　―ジェンダー論入門』有斐閣　2002

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】
国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】
外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】
本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。
1．異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2．異文化交流史における本講義の位置付け
3．前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4．近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5．異文化としての「日本文化論」

【評価方法】
1．出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50％を評価する。
2．学期末レポートで残る50％を評価する。

【テキスト】
講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

比較文化

星山幸子

【授業の概要】
国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、種々の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。
その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】
私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】
1．文化と文明
2．文化の理解
3．民族と国家と文化
4．ナショナリズムと文化
5．イスラームの文化
6．イスラームとジェンダー
7．トルコの農村の暮らしと文化
8．南北問題とモノの国際化
9．食の文化
10．グローバル化とローカル化
11．異文化交流

【評価方法】
出席、授業中の提出物、討論と質疑応答　20％
期末試験　30％
期末レポート　50％

【テキスト】
テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】
日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】
中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことは目標とする。

【授業計画】
1．中国の民族構成
2．儒・仏・道とは
3．中国の年中行事
4．医食同源食文化
5．東西医学の比較
6．気文化と気功術
7．飲茶文化と歴史
8．伝統武術と映画
9．少数民族の音楽
10．少数民族の服装
11．中国人の百家姓
12．中国の名勝物語
13．中国人の考え方

【評価方法】
出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
中国人・文字・暮らし（李順然　東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇　河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興　河北大学出版社）

国際交流

松本一子

【授業の概要】
国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業の目標】
地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】
1．国際交流とは
2．国際交流の歴史
3．国際交流活動の現状
・自治体と国際交流
・地域の国際化と多文化共生
・地球市民教育
・ネットワークの形成と活用
4．実践国際交流
・先進的組織運営のさまざまな事例
・交流から共生へ

【評価方法】
レポート及び平常点で評価する

【テキスト】
オリジナル教材

【参考文献・資料】
草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著　明石書店　2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著　明石書店　2004年）

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】
手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】
手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】
1．視覚障害概要
2．視覚障害者のコミュニケーション方法
3．点字の概要
4．点字演習
5．聴覚障害概要
6．聴覚障害者のコミュニケーション方法
7．手話の概要
8．手話演習

【評価方法】
点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】
点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

生涯学習

藤井基貴

【授業の概要】
現代は生涯学習の必要性と重要さが強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】
受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】
1　生涯学習の理念
2　生涯学習と学校教育
3　生涯発達と発達課題
4　戦後日本の教育改革
5　生きがいと自己実現
6　人生と学習計画
7　学習意欲と労働
8　生涯学習施設の活用
9　まとめ

【評価方法】
レポート、授業内課題、出席状況による総合評価
（評価のポイントについては第一回の授業にて説明する）

【テキスト】
テキストは特に指定しない。毎回Ａ３サイズのプリントを配布する。

【参考文献・資料】
新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著　有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著　ミネルヴァ書房）
資料でみる教育学（篠田弘編、福村出版）
参考文献については随時紹介する。

日本の歴史

岩口和正

【授業の概要】
社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】
（1）人間の歴史が日々のたえまない暮らしの中からつくられることを理解すること
（2）家族や親族をめぐりあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
（3）歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

【授業計画】
（1）婚姻と家族・親族の諸形態１＜妻問婚の特徴＞
（2）婚姻と家族・親族の諸形態２＜婿取婚と嫁取婚の成立＞
（3）前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
（4）明治民法の成立と日本近代の「家制度」
（5）氏・名字・姓の歴史
（6）戸と戸籍
（7）イエとヤケ
（8）イエの成立と展開１　貴族社会とイエ
（9）イエの成立と展開２　開発領主とイエ
（10）家族と親族＜日本の親族体系の特徴＞

【評価方法】
成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】
使用しません

【参考文献・資料】
授業の中で別途に紹介いたします

東洋の歴史

大森信徳

【授業の概要】
東アジア地域に大きな影響を及ぼした中国の歴史・文化について学び、その文化的特質を考察するとともに、自国の文化との比較を通じて、相互間にいかなる共通性・異質性が存在するかという点についても議論したい。

【授業の目標】
個々の事象を手がかりに、中国の文化的風土、中国人のメンタリティーについて考察し、ステレオタイプに依存した見方から抜け出して、自分なりの見識を培うことを目標とする。

【授業計画】
（1）先史（2）殷周（3）春秋戦国（4）秦漢（5）魏晋南北朝（6）隋唐（7）宋（8）遼西夏金元（9）明（10）清
毎回一つないしは二つのテーマについて、基本的に上に示したように時代順に講義を進める予定である。文献史料のみならず、遺跡・美術品・出土文物などのモノも数多く扱うため、ビデオやOHCなどの視覚教材を積極的に活用する。

【評価方法】
期末試験およびレポートによる課題提出にもとづき総合的に評価する。

【テキスト】
毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】
教場で提示する。

西洋の歴史

北村陽子

【授業の概要】
ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心にした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】
他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

【授業計画】
1．はじめに－国民国家とは何か
2．近代国民アイデンティティ形成の前段階
3．イギリスの国民国家－「イングランド」から「イギリス」へ
4．アメリカ合衆国の国民国家－誰が「アメリカ人」か？
5．フランスの国民国家－国民共同体創出の理念型
6．ドイツの国民国家－統一国家形成までの道のり
7．おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】
成績評価は、学期末テストをもとに行う。

【テキスト】
とくに定めない。

【参考文献・資料】
○国民国家とナショナリズム（谷川稔　山川出版社）
○国民国家を問う（歴史学研究会編　青木書店）
○ヨーロッパ市民の誕生（宮島喬　岩波書店）
その他講義中に指示する。

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】
日本の文学史について概説し、日本文学の特色や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】
1．文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2．日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】
1．文学とは何か
2．明治期の文学
3．坪内逍遥．二葉亭四迷
4．三輪弘忠．巌谷小波
5．大正期の文学
6．小川未明．鈴木三重吉
7．千葉省三．浜田廣介
8．少年詩．童謡．金子みすゞ
9．昭和期の文学
10．佐藤紅緑．江戸川乱歩
11．宮澤賢治
12．新美南吉．坪田譲治
13．平成期の文学
14．創作の方法理論
15．試験

【評価方法】
定期試験．レポート．出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】
新日本児童文学論（堀尾幸平著　中日文化　2,200円）

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】
日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）などの歴史や文化的意義について講義し、ビデオなどによる鑑賞も行う。

【授業の目標】
各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】
1．授業の目的と方針を提示
2．日本芸能演劇史概説
3．芸能の発生について
4．神楽について
5．伎楽・舞楽・散楽について
6．田楽について
7．猿楽について
8．能について
9．狂言について
10．歌舞伎について
11．文楽について
また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】
出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】
日本文化論序説（林和利著　青山社）

【参考文献・資料】
日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）

書道

森美恵子

【授業の概要】
現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】
すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

【授業計画】
楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】
授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】
書の鑑賞と学び方（上田桑鳩　教育図書研究会）

書道

小川晃治

【授業の概要】
現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】
東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】
講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】
レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】
担当者の手本、古典法帖。

音楽

松下伸也

【授業の概要】
現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】
音楽の情操教育を通して創造性・自己表現力を養い感性を磨く。アンサンブルを体験し他人とのコミュニケーションを図る。

【授業計画】
第１回　自分の身体の楽器を知る
第２回　腹式呼吸と身体の使い方（えっ？赤ちゃんは「ラ」の音で誕生してくるの？）
第３回　ヴォーカルトレーニング１（腹式呼吸と身体の使い方２　男の子は腹式呼吸はすぐマスターできるのに女の子はなぜ難しい？）
第４回　ヴォーカルトレーニング２（腹式呼吸と身体の使い方３（柔軟）「アイーン体操」）
第５回　ヴォーカルトレーニング３（自分の声域を知る）
第６回　ヴォーカルトレーニング４（自分の楽器を磨く）
第７回　鑑賞１（声楽曲・声楽作品の鑑賞）
第８回　鑑賞２（声楽作品以外を中心とした鑑賞）
第９回　創作（音の出る仕組みを知る）
第10回　演奏法１（音楽の３要素）
第11回　演奏法２（コード・和音付け）
第12回　実践１（発表会に向けてグループ分け）
第13回　実践２
第14回　実践３
第15回　実技演奏発表会

【評価方法】
実技発表を５割、平常点（出席状況・授業態度・達成度・授業内でのレポート）を５割として評価する。

【テキスト】
必要に応じ適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
必要に応じ授業内で紹介する。

大衆文化

鈴木　亙

【授業の概要】
現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業の目標】
消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

【授業計画】
１　戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
１：１　団塊の世代（1965～1975）
１：２　新人類（1980年代）
１：３　団塊ジュニア（1990年代）
１：４　新人類ジュニア（2005～2015）

２　大衆文化を支える消費社会を分析する
２：１　現状認識
２：２『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
２：３　人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）

３　モダンの脱構築＝21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

【評価方法】
出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】
必要に応じて、授業中に指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指示する。

映像文化

小倉　史

【授業の概要】
現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。欧米やアジアの映画との比較の視点から日本映画の特徴について講義し、映画への興味と関心を高める。
本講義では、特に「ホームドラマ」というジャンルに着目し、日本映画のなかで「家族」がどのように表象されてきたかを考える。比較対照として欧米の映画、アジアの映画、TVドラマなどにも幅広く視野を広げるつもりである。また、関連する映像作品は授業内に鑑賞する機会を設けたい。

【授業の目標】
「ホームドラマ」というサブジャンルを通して、映像表現の特質を理解し、映像を意識的に「見る」習慣を身につける。

【授業計画】
1．イントロダクション～映画のジャンルを考える～
2．「ファミリー・メロドラマ」というジャンル
3．日本映画に出現した「ホームドラマ」とその変遷
4．崩壊する家族（1）アメリカ映画編
5．崩壊する家族（2）日本映画編
6．異端家族・擬似家族の表象（1）アメリカ映画編
7．異端家族・擬似家族の表象（2）日本映画編
8．「ホームドラマ」の様式と映像表現
9．食卓の場面から捉える「ホームドラマ」
10．終わりに～近年のTVドラマを批評する～

【評価方法】
学期末にレポートを課す。出席状況と授業後提出してもらうコメントの内容も加味する。

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
『映画ジャンル論』（加藤幹郎著、平凡社）
『〈家族〉イメージの誕生 日本映画にみる〈ホームドラマ〉の形成』（坂本佳鶴恵著、新曜社）

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】
数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】
文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】
以下の各項目について説明し、演習を行う。
1　確率
2　統計、偏差値
3　ベクトル
4　微分
5　積分
6　物理学への応用

【評価方法】
課題及び試験で評価する。

【テキスト】
特に使用しない。随時プリントを配布する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】
地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】
地球という太陽系第３惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】
第１回　1．生物界の分類
　　2．生物の進化
第２－６回　3．植物と人の関わり
　　1）農耕の始まり
　　2）世界の農耕文化
　　3）日本農耕文化の起源と発展
　　4．人が手を加えた植物一作物
　　1）作物とは？
　　2）世界の作物の起源
第７－８回　5．作物改良の原理と方法
　　1）作物改良の原理
　　（1）メンデルの法則一遺伝学
第９回　　（2）遺伝の物質的基礎
第10回　　2）作物の改良方法
第11－12回　6．バイオテクノロジー
　　1）バイオテクノロジーとは？
　　2）作物の改良とバイオテクノロジー
　　（1）細胞・組織培養
　　（2）遺伝子操作
　　（3）バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
　　（1）倫理
　　（2）安全性

【評価方法】
受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】
下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著　開成出版）

生き物の世界

江崎敏之

【授業の概要】
地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】
地球上の生物の持つ共通性と特殊性を学ぶ。生命の単位である細胞という概念を知り、細胞の外部から内部への情報伝達のしくみ、細胞の発生や分化のしくみ、生殖や遺伝のしくみなどをとりあげ、生命の基本を理解する。

【授業計画】
第１回　1．生物の多様性と一様性
　　1）生物の系統
　　2）生体を構成する物質
第２回～４回　2．生物体のつくりとはたらき
　　1）細胞の構造
　　2）酵素
　　3）光合成と呼吸
第５回～10回　3．生命の連続性
　　1）生殖と減数分裂
　　2）発生と分化
　　3）遺伝
　　（1）遺伝の法則
　　（2）遺伝子と染色体
　　（3）遺伝情報の複製
　　（4）遺伝子の発現
第11回～13回　4．動物の反応
　　1）刺激と反応
　　2）体液の恒常性
　　3）動物の行動

【評価方法】
出席状況とテストによる。

【テキスト】
使用しない。

生命の科学

林　博司

【授業の概要】
生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】
生命現象の多くの側面が､物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】
1．命の惑星地球
2．命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3．命を支える器官
4．器官を作る細胞。
5．細胞の仕組み
6．分子機械としての生命
7．分子機械の設計図：遺伝子
8．遺伝子の働き
9．遺伝子を操作する
10．細胞を操作する
11．器官を操作する
12．遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】
出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】
指定しない

【参考文献・資料】
講義中に適宜触れる

生命の科学

小野佳成

【授業の概要】
ヒトの生命維持機構を他の脊椎動物と比較しながら解説する。

【授業の目標】
ヒトの生命維持機構が効率的に上手く働き、生命維持が行われているかを理解する。

【授業計画】
1．ヒトはなぜ食べるのか？（1）　ビタミン・エネルギー源
2．ヒトはなぜ食べるのか？（2）　消化と吸収
3．ヒトはなぜ食べるのか？（3）　肥満
4．ヒトは陸上で生活できるのか？（1）　腎臓と排尿
5．ヒトは陸上で生活できるのか？（2）　肺呼吸
6．ヒトは陸上で生活できるのか？（3）　運動器官
7．ヒトは冬にも活動できるのか？（1）　恒温
8．ヒトは冬にも活動できるのか？（2）　心臓と血管
9．ヒトは細菌、ビールス等の微生物からどのようにして身体を守っているのか？　感染防御
10．ヒトはどのようにして見るのか？　眼と視覚
11．ヒトはどのようにして音を聞くのか？　耳と聴覚、平衡感覚
12．ヒトはどのようにしてにおいを感じるのか？　鼻と嗅覚
13．ヒトはどのように殖えるのか？　胎生
14．ヒトはどこから来たのか？進化について

【評価方法】
小テストと出席状況よって評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
なし

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】
基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】
日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

【授業計画】
1．現代食生活の問題点
　食生活の変化と食糧資源について。
2．糖質と食品
　デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3．たんぱく質と食品
　変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4．脂質と食品
　脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5．無機質と食品
　骨粗鬆症等。
6．ビタミン
　食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7．発酵食品
　食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】
定期試験にて評価。

【テキスト】
使用しない（プリント配布）。

【参考文献・資料】
講義の際 紹介

食品の科学

杉浦信彦

【授業の概要】
ヒトの生命の源泉は食物に在り，幸福の源泉は健康に在るといわれています。生涯を通して健やかで安らかなくらしを続けるにはどうしたらよいのか。生命と健康を脅かす様々なリスクに対処しながら健康を守るための手段を，食品と栄養の視点から学びます。

【授業の目標】
1．　食と健康のかかわりの基礎的知識を学ぶ。
2．　食品の表示を知り，正しい知識に基づいた食品の選択を考える。
3．　過剰および不足栄養成分と生活習慣病とのかかわりを学ぶ。
4．　食の化学的安全性について添加物や農薬の功罪を中心に考える。

【授業計画】
1．　ガイダンス
2．　食と健康を考える“食の５条件とは”
3．　食品の表示
4．　健康補助食品・サプリメント
5．　現代人に不足する成分元素　1)カルシウム
6．　〃　2)鉄
7．　過剰栄養とメタボリックシンドローム
8．　食生活の安全　1)食品添加物
9．　〃　2)天然着色料と合成着色料
10．　〃　3)合成保存料の功罪
11．　〃　4)合成甘味料の恐怖
12．　〃　5)残留農薬とポストハーベスト
13．飲料水の化学的安全を考える。

テーマによりVTR視聴や簡単な演習を行います。

【評価方法】
出席回数，授業内容についてのメモリーシートおよびレポートの提出により評価します。

【テキスト】
使用せず，適時プリントを配布します。

【参考文献・資料】
適時紹介します。

生活の化学

永井愼一

【授業の概要】
私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】
身じかな物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき構造式やエックス線結晶構造を眺めながら理解を深める。

【授業計画】
豊かな暮らしの化学、身じかな現象の化学、日曜雑貨の化学、ホルモンとフェロモンの化学、身のまわりの毒の化学、薬と作用の化学、知っておきたい病気と治療法などの分野から毎回トピックスを取り上げ、最先端の研究成果も紹介しながら、なぜ？どうして？という素朴な疑問に図やイラストを多用しながら答える。また、最近テレビコマーシャルを賑わした数々の生活関連ヒット商品の化学的なしくみを解説、化学の楽しさ、面白さを学ぶ。

【評価方法】
期末に提示する問題の答えをレポートで提出させ、レポートの内容と出席した実授業時数で評価。

【テキスト】
毎回配布するプリント（A３両面）で講義。

【参考文献・資料】
多数あるので、初回授業で紹介。

環境の保護

田部一史

【授業の概要】
いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】
1．さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2．環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3．人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】
第１講　序論：自然に学ぶ
第２講　森林破壊：森はいのちの母である
第３講　砂漠化：人為による沙漠の拡大
第４講　地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
第５講　大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
第６講　フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
第７講　いのちのしくみ１・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
第８講　いのちのしくみ２・個体レベル：生体防御
第９講　環境汚染とがん：遺伝子を狂わせる物質の氾濫
第10講　環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
第11講　生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
第12講　生命の多様性：人の手による大量絶滅
第13講　美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】
出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。（出席20％、レポート30％、試験50％）

【テキスト】
使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】
法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】
基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】
1．憲法と理想
2．憲法と法律
3．憲法と憲法典
4．国民の司法参加
5．憲法の最高法規性
6．憲法の改正

【評価方法】
試験とレポートによる評価。

【テキスト】
使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】
法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】
激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかり学んで欲しいと願っている。

【授業計画】
第１回　憲法総論
第２回　日本国憲法制定の経緯
第３回　日本国憲法の基本原理
第４回　国民主権
第５回　平和的生存権と戦争の放棄
第６回　基本的人権
第７回　国会
第８回　内閣
第９回　裁判所
第10回　地方自治
第11回　憲法の変動と保障
第12回　国法の諸形式
第13回　国家と国家統治の基本
第14回　日本国憲法と法の支配
第15回　政府の手続に関わる諸権利

【評価方法】
主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】
憲法講義I（第２版）（初谷良彦著　成文堂）

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

入門政治学

西尾林太郎

【授業の概要】
政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】
現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】
1．国内政治と国際政治
　a　国際社会とは？
　b　国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
　c　トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
　d　イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2．古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
　a　「都市国家」のデモクラシー
　b　市民社会と大衆社会
　c　立法国家と行政国家
　d　社会契約論
3．現代の政治過程
　a　政治と利益団体、NPO、市民運動
　b　選挙、官僚、議会
　c　マスメディアとマスコミュニケーション
4．戦後国際社会と日本の政治
　a　冷戦構造と55年体制
　b　政党政治と市民参加

【評価方法】
試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】
市民政治再考（高畠道敏　岩波ブックレット617）

【参考文献・資料】
授業においてその都度、指示する。

入門政治学

李　相睦

【授業の概要】
本講義は、政治学を勉強する人々に、政治学に関する基本概念の意味を的確に把握させると共に、更にその諸概念間の関係を正確に理解させる点に、その目的がある。本講義の関心は、現代の政治が現実に如何なる問題に直面しているのか、又それを理解する上で、今日の政治学が、何を示唆しているのか、との点を理解する所にある。その際、その分析に当たっては、概ね現代の政治や社会に見られる様々な事象を説明の素材として用いることとする。

【授業の目標】
1．国内・国際政治
　a　国家とは？
　b　政治とは？
　c　国民国家、ナショナリズム、国際社会、国際貢献
2．政治の機構
3．地方自治
4．現代の政治過程
　a　政治と利益団体、NPO、市民運動
　b　選挙、官僚、議会
　c　マスメディアとマスコミュニケーション
　d　議会制デモクラシーと市民
5．社会福祉
　a　高齢者社会
　b　児童福祉
6．戦後国際社会と日本の政治
　a　内政と外交
　b　国際社会
　c　日本政治

【授業計画】
政治に関心を持たせ、その基礎的な理解を追及する。
試験（持ち込み全て可）と出席状況による。

【評価方法】
試験70%　レポート20%　出席10%

【テキスト】
阿部　斉『政治学入門』（岩波書店）

【参考文献・資料】
授業においてその都度、指示する。
授業は、ディベート方式、教科書は必ず読んで来ること。

入門経済学

細野義晴

【授業の概要】
経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】
経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこでの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】
1．経済学とその体系
　経済学とは、マクロの経済とミクロの経済、市場のメカニズム、など
2．マクロ経済のとらえ方
　GDP統計のしくみ、三面等価、有効需要と乗数のメカニズム、など
3．日本の経済と景気
　日本経済の成長と景気変動、バブルとバブル崩壊後の経済動向、など
4．個人のくらしと経済
　個人の消費行動の理論、消費と貯蓄、貯蓄と金融資産の選択、など
5．企業の経済活動
　企業の生産活動の理論、消費者余剰と生産者余剰、独占の弊害、など
6．政府の経済活動
　財政のしくみと役割、日本の財政事情と財政改革、地方の財政、など
7．金融のしくみと経済
　お金と金融機関の役割、中央銀行と金融政策、金融ビッグバン、など
8．日本と世界の経済
　経済のグローバル化、国際収支のしくみ、外国為替相場の変動と影響、など

【評価方法】
単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】
使用しない。（資料配布）

【参考文献・資料】
（1）Ｗｈａｔ’ｓ　経済学　（辻正次・八田英二著、有斐閣）
（2）入門の入門　経済のしくみ（大和総研著　日本実業出版社）

入門法律学

大嶽　浩

【授業の概要】
社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】
「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】
1．法学の入門書と文学作品
2．法学学習と文学作品
3．法学学習の方法
4．法学と政治と文学
5．法学と活字
6．法学と批評

【評価方法】
試験とレポートによる評価。

【テキスト】
使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

入門法律学

高橋秀治

【授業の概要】
社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、いろいろな生活場面ごとに、法律がどのようになっているのかを、身近な事例を挙げたりしながら考察していきます。

【授業の目標】
それぞれの法律や、その基礎にある考え方に触れて、またそれらの考え方を実際の生活に当てはめてみること。

【授業計画】
授業では、冒頭でそれぞれの回に関係する問題を考え貰い、それの解説も含めながら講義をしていきます。項目としては、いまのところ以下のようなものを考えています。
1．法律を学ぶということ
2．憲法の大切さ
3．民法と毎日の生活
4．罪と罰と刑法
5．商法と起業のための基礎知識
6．民事訴訟法を知って裁判所を使いこなす
7．刑事訴訟法と裁判員制度
8．バイト・ＯＬ・サラリーマンと労働法
9．国際法から見た日本
10．意外と身近な行政法
11．いろいろな国や地域の法律
12．法律の歴史をひもといてみる
13．法律はないけれど法律的な解決が必要な新しい問題

【評価方法】
学期末の筆記試験を基本にして評価します。

【テキスト】
授業でプリントを配付します。その他に、小型の『六法』を購入してください。（詳細は第一回目の授業で話しますが、ポケット六法（有斐閣）、コンパクト六法（岩波書店）、新六法（三省堂）などがあり、価格は1700円～1800円程度です。）

【参考文献・資料】
講義の際、随時紹介したり、配付します。

入門社会学

高木眞理子

【授業の概要】
社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会など、社会を総体的に研究する学問である。学生の関心と興味を中心に、現代社会の課題を分析対象に取り上げ社会学の入門とする。

【授業の目標】
身の回りで起こっていることに興味をもち、それについて深く考察できるようになろう。

【授業計画】
世界で、そして日本でおこっている身近な事柄をとりあげ、社会のしくみや制度に目を向ける。『社会学のエッセンス』という本をテキストとして使いながら、大体以下のテーマについて、受講者とともに考えていきたい。授業回数によって割愛するテーマがでてくることを了承してもらいたい。

1．他者を理解すること
2．アイデンティティ
3．スティグマ　ラベリング理論
4．日常生活の演技
5．正常と異常
6．現実と虚構
7．ジェンダー
8．規範と制度
9．社会の構造と機能
10．コミュニケーション
11．権力
12．イデオロギー
13．共同体（コミュニティ）
14．宗教
15．社会的想像力

【評価方法】
出席20%、小テスト20%、レポートまたは期末テスト60%

【テキスト】
友枝敏雄　他著　『社会学のエッセンス』　有斐閣アルマ

【参考文献・資料】
授業中に紹介する

入門社会学

堀田裕子

【授業の概要】
社会学は、人間関係に焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総体的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

【授業の目標】
人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもうち破っていただけたらと思います。

【授業計画】
1）　イントロダクション――社会学とは
2）　社会化と自我――人「間」になるプロセス
3）　相互行為――地位と役割の社会的意義
4）　行為――行為の意味を「理解」する
5）　集団と組織――集団での活動とルール
6）　未組織集合体――人間は群れるとどうなるか
7）　権力と支配――支配する側／される側
8）　見えない権力――権力主体不在の権力
9）　ジェンダー――女と男をめぐる諸問題
10）　家族――変わりゆく家族と少子高齢化
11）　社会病理――自殺や犯罪はなぜ起こるか
12）　教育――学校は何を教える所か
13）　情報化――ハイパースペースの中の人間
14）　医療――病気と健康はいかにして作られるか
15）　まとめ――社会調査と社会をみる眼

【評価方法】
出席20%、筆記試験80%で評価します。（受講者数によっては若干の変更もあり得ますので、詳細については講義にて説明します。）

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
講義中に適宜紹介します。

入門心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】
心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】
「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】
1．ガイダンス、心理学とは
2．無意識の世界１
3．無意識の世界２
4．ストレスとタイプA性格
5．錯視の不思議
6．学習１
7．学習２
8．パーソナリティ１
9．パーソナリティ２
10．対人関係１
11．対人関係２
12．集団の心理

【評価方法】
試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】
随時資料を配布する。

入門心理学

加藤智宏

【授業の概要】
心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】
近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】
a．知覚と感覚
b．要素と全体（ゲシュタルト心理学）
c．学習と記憶
d．忘却と変容
e．発達心理学（ピアジェとエリクソン）
f．防衛機制
g．フロイトとユングの精神構造モデル
h．心理療法
i．心理テスト
j．個人と集団
k．応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ１～２回の講義を予定しています。

【評価方法】
出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】
使用しません。授業中に資料を配付します。

入門文化人類学

三木 誠

【授業の概要】
人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】
人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】
以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。
1．文化とは何か?
2．性別と社会
3．婚姻と家族
4．宗教と信仰
5．独特の民族文化
6．民族と国家

【評価方法】
定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】
指定せず。

【参考文献・資料】
興味を持った学生にはそのつど指示する。

国際情勢

瀬戸裕之

【授業の概要】
国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】
アジアの国際関係の形成と発展、並びにアジアと日本の関係を、歴史的背景およびアジアが抱える課題をふまえて理解すること。

【授業計画】
1．アジアの国家形成－植民地からの独立
2．アジアと革命－中国革命とその後の展開
3．アジアと冷戦－朝鮮戦争とヴェトナム戦争
4．アジアの地域統合－ASEANの形成と発展
5．アジアの民主化－開発体制と民主化
6．アジアにおける日本の戦争
7．アジアに対する日本の援助

【評価方法】
成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受検しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】
テキストは使用しない。

【参考文献・資料】
授業において、関連文献を紹介する。

現代のマナー

近藤乃芙子

【授業の概要】
人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】
良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．マナーの基本
2．会話と傾聴
3．身だしなみとおしゃれ
4．服装　　フォーマルとカジュアル
5．訪問と応接　和風
6．　〃　　洋風
7．茶菓のマナー
8．贈答のマナー
9．冠婚のマナー
10．葬祭のマナー
11．食事のマナー
12．パブリックマナー

【評価方法】
出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】
テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】
参考文献・資料はなし。

現代のマナー

嘉悦祐子

【授業の概要】
コミュニケーションを円滑に進めるには、相手を尊重する気持ちや思いやりが大切で、マナーとはこの相手を思いやる気持ちを形にしたものである。
身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】
自分の気持ちをどのような形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．マナーとは
2．学生と社会人の違い
3．第一印象の重要性
4．マナーの五原則
　（1）挨拶
　（2）表情
　（3）態度
　（4）身だしなみ
　（5）言葉づかい
5．電話応対
6．訪問と来客対応
7．報告、連絡、相談
8．文書のマナー
9．冠婚葬祭
10．テーブルマナー

【評価方法】
出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
必要により授業中に指示する。

文章表現法

青木 健

【授業の概要】
マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】
書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】
第１回　人は言葉の織物である。(伝達と表現１)
第２回　現代の口語表現について。(伝達と表現２)
第３回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、修辞法など具体的に講義。
この間に課題を３回提出し、短文（２～３枚、400字詰）を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】
出席状況、３回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】
高校生のための文章読本（筑摩書房）参考書籍は授業中に数冊提示します。

話し方作法

三久保角男

【授業の概要】
音声表現。
（1）日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術　（2）読む・話すことの実践と応用　（3）言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】
マルティメディアの発達で直接的な会話をすることが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的に言葉で伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】
1．話し言葉概論
ことばの機能　話し言葉の特徴　共通語と方言
2．日本語の音声　1（発声）
呼吸法　音声器官　発声法
3．日本語の音声　2（発音）
拍と音節　母音と子音　調音　アクセント　環境による音声変化
4．話し言葉の表現技法
スピード　ポーズ　イントネーション　プロミネンス
5．文を読む
短文の読み　朗読
6．話しをする
パブリックスピーキング　リポート　インタビュー
7．話し言葉の用法
言葉事情　言葉の変化　敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】
筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

【テキスト】
毎回、レジュメ・資料を配布する。

話し方作法

鷲塚美知代

【授業の概要】
音声表現。
（1）日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術　（2）読む・話すことの実践と応用　（3）言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】
わかりやすい話し方とはどのようなものか。言葉の乱れを見直し、自分の意見をまとめ発言する。言葉に敏感になり表現力を養う。
状況に応じた話し方を身につける。

【授業計画】
1　伝わる話し方。若者ことばから脱却するには？
2　発声の基礎知識（腹式呼吸、発声法）
3　発音の基礎知識（母音、子音、鼻濁音、無声化など）
4　共通語アクセント
5　現代ことば事情（気になることば、メディアとことば）
6　敬語（種類と働き、適切な表現）
7　表現力を磨く
8　自分をことばで表現してみよう

授業は講義が中心になるが、可能な限り積極的に実践を伴うものにする。

【評価方法】
リポートによる。随時、授業内に提出するコメントあり。

【テキスト】
レジュメ・資料を配布する。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

キャリアの形成

樋口貴子

【授業の概要】
現代の企業社会の実態、ビジネスパーソンとしての予備知識、将来の職業選択にあたっての参考事項などを話します。

【授業の目標】
自立/自律したビジネスパーソンとして人間的な魅力を備え、社会変革の激しい時代を自らの手で切り拓きながら、たくましく且つたおやかに生き抜くために、学生生活を通じて何を感じ、どう行動すればよいのかを、自らのキャリアデザイン（人生設計）を描きながら思考を深めます。
また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、プロ人材として求められる能力・スキル・心構えなど、ケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】
【前期】
・社会経済の動向とキャリア形成の必要性
・キャリア形成プロセスとコンピテンシー
・キャリア発達理論と関連ワーク
・職業選択理論と自己理解ワーク
・仕事理解と職業研究ワーク
・モデリングと関連ワーク
・意思決定理論と関連ワーク
・キャリアデザインと目標設定
【後期】
・21世紀の人材像
・プロフェッショナル意識と職業観
・コミュニケーション能力と自己表現
・ビジネスマナーと社会常識
・キャリア開発と課題形成

【評価方法】
筆記試験と出席状況

【テキスト】
キャリアの形成（樋口貴子著）

【参考文献・資料】
授業の中で適宜、紹介します

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】
民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】
近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】
科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなトピックスを１回または２回の授業で順に取り上げていく。

1．倫理的視点から見た現代の社会問題
2．倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3．倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4．社会の安全性と科学技術者の責任（クローン技術はどのように応用されるべきか？）
5．環境倫理学の主張（自然保護は何をめざしているのか？）
6．インターネット時代の倫理（知的財産は誰のものか？）
7．内部告発と社会の浄化（内部告発は行なうべきか？）

【評価方法】
小レポート（３、４回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】
入門講義　倫理学の視座（新田孝彦著　世界思想社）
先端技術と人間　21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著　NHKライブラリー）
科学技術社会論の技法（藤垣裕子著　東京大学出版会）

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】
人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】
ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】
1．ライフサイクルと健康とは
2．姿勢
3．プロポーション（理想と現実）
4．肥満とやせ
5．隠れ肥満
6．骨密度・体脂肪測定
7．自分のからだを判定しよう
8．体脂肪を正しく落とす方法
9．筋肉と運動神経
10．健康づくりのための運動
11．Walking
12．性への理解
13．学生生活と健康

【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

ライフサイクルと健康

村本名史

【授業の概要】
人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】
ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】
1．ライフサイクルと健康とは
2．健康に必要な運動・栄養・休養
3．運動時の体の機能
4．体の構造
5．骨密度・体脂肪測定
6．ボディデザインと運動
7．生活習慣病、メタボリックシンドローム
8．環境と体（ベッドレスト、無重力、高所、極地）
9．傷害と障害、救急法
10．発育と発達、加齢と老化
11．スポーツのすすめ
12．健康を妨げるもの（タバコ、お酒、病気、事故）
13．学生生活と健康

【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

【参考文献・資料】
田口貞善・山地啓司「運動・健康とからだの秘密」近代科学社，1998.

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】
複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】
心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

概論：	第１回	心の病とその歴史
	第２回	いろいろな病と症状のとらえ方
	第３回	ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：	第４回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
	第５回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
	第６回	うつ病と現代社会を考える
	第７回	ストレスとその反応：神経症と心身症
	第８回	やまらない、止まらない：薬物依存
	第９回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
	第10回	大人とは異なる児童・小児の心の問題
	第11回	老人と高齢者の病：器質性障害(認知症など)
総論：	第12回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
	第13回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
	第14回	期末試験

【評価方法】
おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】
改訂　大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編　岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】
精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著　医学書院）
図解雑学　心の病と精神医学（景山任佐著　ナツメ社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】
複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに多角的な視点から心の健康について考える。

【授業の目標】
心の問題について､大学生の教養として必要なレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】
1．心の構造～心をどう捉えるか？
2．心の発達
3．脳と心
4．ストレスと心の健康
5．心の病とは？
6．心の病のいろいろ

【評価方法】
出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
なし。プリント配布。

【参考文献・資料】
講義の中で順次紹介する。

健康とくすり

永井愼一

【授業の概要】
現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

【授業の目標】
病気は生体内の受容体や酵素が過剰に働くことで発症し、くすりの多くは過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ

【授業計画】
第１回　まず全授業の講義要旨［病気とくすりのまとめ］を配布説明したのち、最近の医薬品業界や薬事行政の傾向と新薬開発のプロセスなどを解説
第２～３回　くすりの基礎知識として、くすりの生体内運命とくすりの新しいかたちをはじめ受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬品副作用被害救済制度など２回にわたり解説
第４回　くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でズバリ答える
第５回　医師の処方は必要だが保険適用外の生活改善薬をはじめ、最新の一般用医薬品（OTC）と繁用される医療用医薬品を解説
第６回　頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた
第７回　花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた
第８回　病気の早期発見に不可欠な生活習慣病検査値の読みかた
第９～12回　生活習慣病の高血圧、がん、糖尿病をはじめ、若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因とくすりが効くしくみ

【評価方法】
期末に提示する問題の答えをレポートで提出、レポートの内容と出席した実授業時数で評価する

【テキスト】
プリント（A３両面）を毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】
最近の研究成果を含め多数あるので、初回授業で紹介する

スポーツと文化

松田秀子

【授業の概要】
スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】
スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】
1．スポーツは遊びから出発する
2．スポーツは技能を追究する
3．スポーツは競争と協力の両面をもつ
4．スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5．スポーツは自己実現を志向させる
6．スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7．スポーツには教育が関係する
8．スポーツには政治が関係する
9．スポーツには科学が関係する
10．スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
11．スポーツには民族性が反映される
12．スポーツには商業主義がつきまとう
13．スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
14．スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツと文化

門間　博

【授業の概要】
スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】
スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】
1．　導入、授業の全体について
2．　スポーツとは何か（スポーツの起源とその歴史）
3～4．スポーツの魅力
5～6．スポーツとメディア
7～8．スポーツと商業主義
9～10．スポーツと政治・経済
11～12．スポーツと教育
13～14．スポーツと倫理
15．　まとめ

【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年（International Year of Volunteers）とすることを宣言する」という決議が採択された。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されている。

本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学ぶ。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする予定。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指す。

【授業計画】

1.オリエンテーション（本講義の目的とスケジュールなどの説明）
2.ボランティア活動とは？
　1）ボランティアの社会的意義と個人にとっての意義
　2）ボランティア、NPO/NGO、市民活動の概念整理
3.地域で活躍するボランティア活動
　1）こども・教育分野　　2）社会福祉分野
　3）環境分野　　4）国際協力・交流分野
4.ボランティア、NPOセンター、市民活動推進機関の役割
5.ボランティア活動とマネージメント
6.企業とのコラボレーション（連携・協働した活動）
7.行政とのコラボレーション（連携・協働した活動）
8.総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、レポート、授業態度により、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

入門ボランティア

橋本吉広

【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいかというボランティア発想を鍛える自問型授業です。

【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて、ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているのかなど考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

【授業計画】

1-2. 生死と関わるボランティア～ボランティアの責任を考える／国境なき医師団の活動から
3-4. 住まうこととボランティア～高齢者の住宅事情／宅老所の実践から
5. ボランティアとは誰か～ 障害者の自立と支援とは
6. ボランティアにできること～ワーキング・プアーを考える
7. 自然と向き合うボランティア～災害救援活動から
8. ボランティアの現代（中間まとめ）
9-10. ボランティアと行政・企業との協働
11. ボランティアとNPO・市民事業
12-13. ボランティア活動のマネジメント～資金調達の世界／ガバナンス
14. さあボランティアの世界へ
15. 試験

【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます（30%程度）。期末試験を実施し、学習の成果を確認します（65%程度）。

【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

【参考文献・資料】

『平成16年版国民生活白書』（内閣府）
『ボランティア学を学ぶ人のために』（内海成治他編　世界思想社）

民主主義と人権

本 秀紀

【授業の概要】
日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】
「民主主義と人権」をめぐる新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

【授業計画】
基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。
授業内容は現在のところ、以下の項目からいくつかを選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる（ちなみに2006年度は、「本編」として、性同一性障害、過労自殺、育児休業、ドメスティック・ヴァイオレンスなどを、「番外編」として、教育基本法改正、在日米軍再編問題などを取り上げた）。
1　はじめに：「民主主義と人権」って？
2　個人の尊重と人権：性同一性障害、同性愛、個人情報保護
3　企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
4　女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
5　マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
6　子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
7　医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死
8　外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
9　平和と人権・民主主義：米軍再編と自衛隊の海外出動、憲法改正
10　ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
11　政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

【評価方法】
学期末の筆記試験を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
テキストブック現代の人権〔第３版〕（川人博編著　日本評論社）
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第４版〕（上田正昭編　明石書店）
それぞれの人権〔第３版〕（憲法教育研究会編　法律文化社）
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

宗教的人間論

磯部 隆

【授業の概要】
世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業の目標】
具体的な歴史上の宗教思想家の生涯の分析を通して、具体的に宗教的人間の特徴について考える。そして、今年は明恵について考えます。

【授業計画】
第一回は授業概要の具体的な説明を行ないます。
第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに政治と宗教との関係について考えてみたいと思います。

【評価方法】
毎回の出席状況を基本とします。また定期試験を行います。

【テキスト】
１．明恵の生涯（磯部隆著　大学教育出版）

【参考文献・資料】
釈尊の歴史的実像（磯部隆著　大学教育出版）

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】
現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果す役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】
今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】
1　イントロダクション
2　地域社会の歴史と構造１
3　地域社会の歴史と構造２
4　地域社会の歴史と構造３
5　地方分権とコミュニティ１
6　地方分権とコミュニティ２
7　コミュニティとネットワーキング１
8　コミュニティとネットワーキング２
9　コミュニティ活動の実践例１
10　コミュニティ活動の実践例２
12　まとめ

【評価方法】
定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

健康と医学

小野佳成

【授業の概要】
最近、いろいろ健康問題が注目を浴び、「病気腎移植」「がん難民」「メタボリックシンドローム」「低侵襲治療」等の耳慣れない言葉がマスコミによって報道される。本講では、これらの健康問題を取り上げ、医学的な見地から解説する。

【授業の目標】
マスコミで取り上げられる最近の健康に関する問題を理解する。

【授業計画】
1）病気腎移植；宇和島での生体腎移植
2）がん難民
3）骨粗鬆症
4）低侵襲治療
5）ノロウイルス：下痢集団発生
6）メタボリックシンドローム
7）認知症：アルツハイマー病
8）女性は膀胱炎になりやすい？：尿路感染防御機構
9）高齢者社会：「おむつ」一兆円産業
10）ピロリ菌による胃炎
※適時追加する予定です。

【評価方法】
小テストと出席状況によって評価する。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
必要に応じて資料配付する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】
宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業の目標】
学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

【授業計画】
－地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために－
1．宇宙観の変遷
2．宇宙を観測する手段
3．太陽系を探る
4．星の世界
5．銀河から宇宙へ
6．宇宙の始めと未来
毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHC、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】
基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
（1）宇宙論のすべて（池内了　新書館）
（2）大宇宙101の謎（山岡均　河出書房新社）
（3）見えてきた宇宙の神秘（野本陽代　草思社）
（4）天文年鑑　2007年版（誠文堂新光社）
（5）宇宙年鑑　2007　　（アストロアーツ）

現代の芸術３（美術）

藤井健仁

【授業の概要】
現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業の目標】
近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

【授業計画】
前半
キュビスム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。
後半
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として樹脂パテ等（￥2500）を各自が購入する。

【評価方法】
授業後半に提出する制作物を重視する。

【テキスト】
使用しない。配布するプリントのみ。

【参考文献・資料】
なし

現代の芸術５（演劇）

海上宏美

【授業の概要】
現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業の目標】
各国の現代演劇や国内の現代演劇を毎回ビデオで鑑賞することを通じて、演劇の現代芸術としての側面を具体的に理解していく。

【授業計画】
毎回、国内外の演劇、劇作家、演出家、劇団などの作品を見ていく。
・ドイツの演劇　ベルリナー・アンサンブル、ブレヒトのソングなど
・ポーランドの演劇　タデウシュ・カントール、アカデミア・ルフなど
・イギリスの演劇　シェイクスピア、ピーター・ブルックなど
・フランスの演劇　モリエールのタルチュフなど
・アメリカの演劇　テネシー・ウィリアムズ、ロバート・ウィルソンなど
・ロシアの演劇　チェーホフ、マールイ劇場など
・中国の演劇　北京人民芸術院など
・日本の新劇　文学座、俳優座、劇団四季など
・日本のアングラ演劇　寺山修司、唐十郎、鈴木忠志など
・日本の小劇場演劇　野田秀樹、平田オリザ、宮城聡など
必要に応じてダンスなども見ていく。

【評価方法】
レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

【テキスト】
テキストは使用しない。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

物理学

岡田克彦

【授業の概要】
人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業の目標】
物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を統一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろの現象に関係のあることを理解し、物理学に親しみを持たせるようにする。

【授業計画】
講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。
1　力のつりあい
2　力と運動
3　エネルギー
4　運動量
5　摩擦力
6　熱と温度
7　熱と仕事
8　振動と波動、音と光
9　静電気
10　電流、ジュール熱
11　近代物理学

【評価方法】
おもに期末試験（筆記）による。適宜演習を行い、出欠席を調査する。期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】
図解雑学　物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫　ナツメ社）

統計学

鈴木有美

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業の目標】

統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、統計解析の基本的な手法について実際の調査・実験データを扱うことによって習得することを目指す。

【授業計画】

1．統計学とは
2．データの性質
3．度数分布
4．基礎統計量（1）：代表値・散布度
5．基礎統計量（2）：尖度・歪度
6．正規分布
7．２変量の関係（1）：相関・回帰
8．２変量の関係（2）：連関
9．母集団と標本
10. 統計的推定（1）：点推定
11. 統計的推定（2）：区間推定
12. 統計的検定の基礎
13. 平均値の差の検定（1）：t検定
14. 平均値の差の検定（2）：分散分析

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫著　北大路書房）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

ASU TOEIC I C

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に２コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、４年間続けて履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I D

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に２コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、４年間続けて履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II C

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に２コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、４年間続けて履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（おもに、リスニング・リーディング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II D

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に２コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、４年間続けて履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（おもに、リスニング・リーディング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

Get together and Talk I

石橋千鶴子　福本明子　太田晶子　WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

英語集中授業、ディスカッション、フィールドワーク、合宿などから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとして参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

＊注意
本科目は申込者多数の場合､抽選により履修できない場合もある。また、１、２年生は、学期の合計履修単位に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期　2007年９／３（月）～７（金)、
後期　2008年２／12（火）～16（土）に実施予定

英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示および説明会（前期：６月中旬、後期：11月下旬の予定）で発表する。指定された期間（前期：６月末、後期：12月上旬）に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

【テキスト】

英字新聞記事、英文パンフレットなどを使用。

【参考文献・資料】

インターネットなどを通して各自情報収集する。

Get together and Talk II

NORRIS, Harry T.

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。
Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。
さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.
1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.
Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no. 9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

http://www.apple.com/support/isight/

上級英語セミナー2007A

BROWNING, Jeremy S.　WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2007A」は受講できない。）

【授業の目標】

Aims:

Wringer
1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning
Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Course plans:

Wringer
Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning
Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「上級英語セミナー2007A」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。水曜日１限（担当教員：BROWNING, Jeremy)、木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer：To be announced.
Browning: Handouts will be provided

上級英語セミナー2007B

BROWNING, Jeremy S.　WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Aims:

Wringer
1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning
Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Course plans:

Wringer
Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning
Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「上級英語セミナー2007B」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。水曜日１限（担当教員：BROWNING, Jeremy)、木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer：To be announced.
Browning: Handouts will be provided

上級英語セミナー2007C

横山綾子　DAVIES，Alun

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2007C」は受講できない。）

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out（FIFO）の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第１回　通訳一般概論　Sight translation

第２～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation，メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

Course Plan:

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks（e. g. drama; discussion; interpreting; conversation）.

【評価方法】

「上級英語セミナー2007C」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日１限（担当教員：DAVIES，Alun）、水曜日２限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他

上級英語セミナー2007D

横山綾子　DAVIES，Alun

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out（FIFO）の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第１回　通訳一般概論　Sight translation

第２～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation，　メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

Course Plan:

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks（e. g. drama; discussion; interpreting; conversation）.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006D」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日１限（担当教員：DAVIES，Alun）、水曜日２限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他

上級英語セミナー2007E

難波豊子　CURRAN，Beverley

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2007E」は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2007E」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日２限（担当教員：難波豊子）、木曜日２限（担当教員：CURRAN，Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー2007F

難波豊子　CURRAN，Beverley

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran

To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions.　The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self- confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2007F」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日２限（担当教員：難波豊子）、木曜日２限（担当教員：CURRAN，Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Traditional Arts in Japan

山田久美子　小沢 茂　二村慎一　MCGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】
日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】
伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】
日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）
尺八
琴
からくり
華道
歌舞伎
能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。
なお、狂言などの公演鑑賞のため、3000円程度の経費を必要とする場合がある。

【評価方法】
レポート　80%　（各授業のレポート等）
出席　　20%

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
講義時に配布

Central Japan

福本明子　若山真幸　太田晶子　小沢 茂

【授業の概要】
中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、企業の社会での役割、活動、スピーカーの経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に対する事前、事後の学習も行う。

【授業の目標】
地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それを自分の言葉（英語又は日本語）でまとめることができるようにする。

【授業計画】
ゲストスピーカーは、
Hilton Nagoya
中部電力
中日新聞社
ブラザー工業
ファイザー株式会社
Harman/Becker Automotive Systems – Japan
アイ　ティ　クリエイト
日経メディアマーケティング株式会社
太陽化学株式会社
などから招待の予定。詳しくは、最初の授業で説明する。

【評価方法】
出席と事前、事後、最終レポートを総合的に評価する。最初の授業で説明する。

【テキスト】
配布プリント

【参考文献・資料】
配布プリント、ゲストスピーカーの企業ウェブサイト

Multiculturalism in Aichi

ブイ　チ　トルン

【授業の概要】
社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】
＊日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
＊行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
＊県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
＊外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
＊在住外国人支援事業を理解すること
＊授業は英語で進行するため英語力アップも期待すること

【授業計画】
1. Japan as a Multicultural Society
2. History of Multiculturalism in Japan and Aichi Prefecture
3. Services and Activities of Nagoya City and Nagoya International Center, especially in Consultation and Advisory for Foreign Residents
4. Helping Each Other For A Friendlier Community through Voluntary Activities
5. JICA' s Cooperation Activities and Development Education
6. Activities of the Philippines Society
7. Life of a Brazilian in Aichi
8. Japanese Teaching in Community
9. Activities of Foreign Students in Aichi
10. NGO Activities in supporting of Foreign Residents
11. Information and Communication through English Magazine
12. Report on the Society and Culture of Trainee' s Sending Asian Country / Report on the Multicultural Society like Australia

【評価方法】
出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】
プリント資料など配布。

PowerPoint Presentations

LEWIS, Paul

【授業の概要】
所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】
・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】
以下の項目を学習する。
・Introduction to PowerPoint
・Creating a basic slide show
・Formatting
・Editing text
・Using images
・Adding animation
・Adding sounds
・Advanced PowerPoint

【評価方法】
・Participation & Attendance
・Class work
・Final Presentations

【テキスト】
Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

【参考文献・資料】
授業中に随時紹介する

PowerPoint Presentations

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。
・Introduction to PowerPoint
・Creating a basic slide show
・Formatting
・Editing text
・Using images
・Adding animation
・Adding sounds
・Advanced PowerPoint

【評価方法】

・Participation & Attendance
・Class work
・Final Presentations

【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Presentations on the Web

NORRIS, Harry T.

【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるよう、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

【Course schedule】

Introduction
ASMAP linked company research
Making a web poster using Microsoft Word
Making an radio style commercial using GarageBand
Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie
Posting to a web page using iWeb.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.
1. Data collection
2. Poster
3. Radio CM
4. TV CM

【Textbooks】

None

Booklet Publishing

STEPHENSON, Brett

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

The purpose of this course is to provide students with practical guidance on the preparation and presentation of research projects in English. The course will focus on the acquisition of practical research skills which will assist students in presenting posters, pamphlets and reports in the course of their future studies. Given the practical nature of the course, students will be expected to prepare and present research projects throughout the course of the program.

【授業の目標】

By the end of the course students will be able to:
・produce visual aids which add to the impact of their oral presentations
・understand the structure and content of printed media, such as newspapers, magazines and journals
・utilize English language resources
・write short, simple English sentences to present research findings

【授業計画】

・Brainstorming
・Arranging ideas logically
・Oral presentation
・Visual presentation
・Presentation design and structure

【評価方法】

・Participation and attendance
・Completion of assigned projects
・Presentation of assigned projects

【テキスト】

Handouts will be provided in class

【参考文献・資料】

Students will be referred to appropriate reference materials throughout the course.

中国語読解１A

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平　湯 海鵬　呉 凌非

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである＜HSK基礎コースA＞＜HSK基礎コースB＞の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．母音、数字、挨拶
3．疑問文、形容詞述語文
4．子音、声調、曜日表現
5．省略疑問文、疑問詞疑問文
6．音節、勧誘表現
7．動詞述語文、指示代名詞
8．我姓松本。自己紹介
9．介詞"和"、副詞"也""都"
10．我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
11．部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12．我们的大学。介詞"给""在"
13．名詞の修飾表現
14．我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１A２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解１B

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは＜中国語読解１A＞とほぼ同じであるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜中国語読解１A＞と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　人称代名詞・“是”
第六課　指示代名詞・数詞・量詞
第七課　形容詞と形容詞述語文
第八課　動詞述語文
第九課　“有”・年月日
第十課　場所・時間・数量
第十一課　前置詞（介詞）・“了”
第十二課　能願動詞

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１B（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１A

大森信徳　張 玉玲　曹 志偉　周 素芬　厳 萍　陳 惠貞

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである＜HSK基礎コースA＞＜HSK基礎コースB＞の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　あいさつ表現
第六課　時間の表し方
第七課　年齢を言う
第八課　家庭を語る
第九課　自分の家を語る
第十課　学校について語る
第十一課　趣味について語る
第十二課　中国へ行く

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１A２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１B

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　中塚 亮

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜中国語会話１A＞とほぼ同じであるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが＜中国語会話１A＞と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．今天星期几？　曜日と疑問詞利用の疑問文
3．我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4．我学习中文专业。能願動詞“能”
5．现在几点？　時間表現、語気助詞“了”
6．我的家庭。介詞“在”
7．谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8．邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9．我的大学。伝聞の表現
10．找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11．喜欢什么？　過去の経験表現「V+“过”」
　結果や程度表現「V+“得”」
12．帮我。能願動詞“会”
13．假期做什么？　結果補語“好”
14．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解２

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　湯 海鵬　張 玉玲　厳 萍

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か、＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話２＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

1．就要放暑暇了。語気助詞“了”、介詞“和”
2．伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3．暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4．使役の表現“让”
5．铃木一家。能願動詞“会”“能”
6．過去の経験表現「V+“过”」
7．我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8．介詞“离”、連動文
9．終于习慣了。感嘆表現２
10．自己の意見表示
11．我做了一个夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12．副詞用法の“地”
13．我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14．春假的計画。未完了の表現、許諾の表現
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話２

曹 志偉　周 素芬　杜 英起　楊 衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであらわれる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

中国語会話１をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

第一課	部屋を借りる
第二課	換金する
第三課	道を尋ねる
第四課	交通機関を利用する
第五課	市場での買い物の仕方
第六課	デパート
第七課	ホテル
第八課	郵便局
第九課	電話
第十課	中国人宅に訪問する
第十一課	レストラン
第十二課	スピーチの仕方

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１Ａ２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　王 麗英　杜 英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎２級から３級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“了”や“过”の使い方など
2．“时点”の言い方や“时段”の言い方など
3．“小时”や“钟头”の使い方など
4．“方位词表”について
5．“多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6．“该”や“应该”の使い方など
7．介词の“朝”、“向”と“往”の使い方
8．比較表現について
9．“是字句”について
10．“愿意”や“想”の使い方など
11．“趋向补语”について
12．“复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　厳 萍　中塚 亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK基礎コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK基礎コースA＞とは異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎２級から３級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“我”と“你”；“左右”と“前后”など
2．“是”：語気助詞の“吗”と“呢”など
3．“了”：形容詞述語文など
4．“動詞＋过”と“形容詞＋过”；“在”など
5．数量補語；“头”と“面”など
6．“有字句”；構造助詞“地”など
7．量詞の重ね型；“把”構文など
8．“从”と“离”；“一边～一边～”など
9．“都”と“一共”；程度補語 など
10．“被”構文；“在・正・正在”など
11．方向補語；“多么”など
12．複合方向補語；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解３

河井昭乃　張 玉玲

【授業の概要】
読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の４級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには＜HSK初等コースA＞か、＜HSK初等コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話３＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】
前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】
1．应该感谢谁。
2．接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3．一件小事。
4．連動文。動態助詞“着”。
5．生日宴会。
6．動詞の重ね型。結果補語。
7．中国人的问候语。
8．挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9．在中国过中秋节。
10．構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11．修自行车的张师傅。
12．数量補語。可能補語。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語読解３・４（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話３

大森信徳　曹 志偉　周 素芬

【授業の概要】
第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の４級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。

【授業の目標】
前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】
中国語会話２を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。
1．初めまして
2．私達の中国語の先生
3．朝食を食べる
4．タクシーに乗る
5．宿舎のおばさん
6．言葉のパートナー
各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語会話３・４（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　厳 萍

【授業の概要】
中国語を１年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の４級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】
HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等４級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】
各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。
学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB　＊読解中心

河井昭乃　曹 志偉　厳 萍　中塚 亮

【授業の概要】
中国語を１年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK初等コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】
HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等４級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】
各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。
学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解４

河井昭乃

【授業の概要】
読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の５級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等上級コースA＞か、＜HSK中等上級コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話４＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】
前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】
１．自行车上的宝宝座儿。
２．方向補語。程度補語。“把”構文（１）。
３．雨披。
４．反復疑問文。反語表現。
５．服装与色彩。
６．副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
７．逛商场。
８．形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
９．一个特别的“村”
10．伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11．学汉语趣事。
12．“差不多”の使い方。“把”構文（２）。特殊な動詞述語文。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語読解３・４（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話４

曹 志偉　大森信徳

【授業の概要】
一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の５級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。

【授業の目標】
前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】
中国語会話３を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。
１．市場での買い物
２．旅行に行こう
３．体を鍛える
４．ついてない一日
５．ダイエット
６．友情に乾杯
各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語会話３・４（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースA　＊聴解中心

河井昭乃　厳 萍

【授業の概要】
中国語を１年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の５級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】
HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等５級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】
12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK中等上級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】
中国語を１年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等上級コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】
HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等５級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】
12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK中等上級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文１

曹 志偉　厳 萍

【授業の概要】
第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】
作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】
学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。
第一課　文章記号と文章形式
第二課　自己紹介
第三課　書き付けと招待状
第四課　日記
第五課　手紙
第六課　電子メール

【評価方法】
出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース１Ａ　＊聴解中心

大森信徳

【授業の概要】
履修後、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】
ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】
各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】
期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース１Ｂ　＊読解中心

曹 志偉

【授業の概要】
設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース2A＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース2A＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースＢは読解中心とする。

【授業の目標】
HSK（中国語水平考試）６級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】
各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】
出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門１

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】
第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】
日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の６級または７級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】
教科書は観光案内・工場見学・宴席や商談会でのやりとりなど、通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

【評価方法】
出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文２

曹 志偉　厳 萍

【授業の概要】

２．５年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

第七課　契約書
第八課　就職書類
第九課　記述文
第十課　説明文
第十一課　感想文
第十二課　意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース２Ａ　＊聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで,2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース２Ｂ　＊読解中心

曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２Ａ＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースＢは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）７級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門２

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

２．５年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等高級コース２Ａ＞か、＜HSK中等高級コース２Ｂ＞と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには＜中国語作文２＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の７級または８級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は観光案内・工場見学・宴席や商談会でのやりとりなど、通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

金 賢珍　キム ソヨン

【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に修得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば１年間で高校３年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週２回履修を義務づける。

第１回　授業概要の説明および韓国・朝鮮語概説
第２回～第５回　ハングルの読み書き１～４、まとめ
　１）基本母音字（10個）、挨拶１
　２）基本子音字１（平音９個）、挨拶２
　３）基本子音字２（激音５個）、名詞１
　４）合成子音字（濃音５個）、名詞２
第６回～第８回　ハングルの読み書き５～７
　１）合成母音字１（４個）、形容詞１
　２）合成母音字２（７個）、形容詞２
　３）終声子音字（７種）、叙述格助詞
第９回～第10回　発音ルールとトレーニング１・２、動詞１・２、表現練習、まとめ
第11回～第12回　尊敬形１、平叙文・疑問文１・２、助詞１・２
第13回～第14回　尊敬形２、否定文、助詞３・４、まとめ
第15回　中間試験
第16回～第17回　上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾１・２
第18回～第20回　１）勧誘および命令文、転成語尾１
　２）禁止および不可能文、変則活用１、転成語尾２
　３）漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回　１）略対上称形、転成語尾３
　２）平常形、先語末語尾１
　３）曖昧形、先語末語尾２
第24回～第25回　１）変則活用２、先語末語尾３
　２）固有数詞、表現練習、まとめ
第26回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語　（Jo Sulseob　プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解１

キム ソヨン　金 由那　姜 信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

【授業計画】

第１回　授業概要の説明、入門講座の復習
第２回　サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第３回　明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第４回　郵便局に行く。用言の連体形
第５回　喫茶店で。変則１、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第６回　韓国料理屋で。変則２、前置きの表現、逆接の表現、助数詞
第７回　道をたずねる。変則３、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第８回　総合復習および中間試験
第９回　地下鉄の駅で。変則４、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第10回　タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第11回　約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回　天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級（李昌圭　白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話１

金 銀珠　キム ソヨン　金 芝恵　金 由那

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

【授業計画】

第１回　授業概要の説明、こんにちは
第２回　韓国は初めてですか
第３回　ここが寮です
第４回　授業は３月２日からです
第５回　どこで売っていますか
第６回　MTって何ですか
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　スタンドランプを見せてください
第９回　一杯飲みましょう
第10回　大学生活はどうですか
第11回　よく聞けば勉強になります
第12回　誕生パーティをしましょう
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話（Jo Sulseob・李正子・金賢珍　プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策１

金 賢珍　キム ソヨン　姜 信和　金 美淑

【授業の概要】

韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業概要の説明、入門学習内容の復習
　５級完全制覇・挨拶言葉１
第２回　挨拶言葉２、ハングルのカタカナ表記
第３回　日本語のハングル表記、基本語彙と文法１
第４回　基本語彙と文法２、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第５回　漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞、韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習
第６回　まとめ、中間テスト
第７回　４級完全制覇・基本語彙と文法１・各種助詞、数詞・助数詞
第８回　基本語彙と文法２・過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第９回　基本語彙と文法３・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回　基本語彙と文法４・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回　韓国語の発音、応用問題１
第12回　応用問題２
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために！！「ハングル」能力検定試験５級・４級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解２

金 賢珍　金 美淑　金 芝恵　姜 信和

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　授業概要の説明、韓国・朝鮮語読解１の復習
第２回　携帯電話時代、会話文「初出勤」及び派生動詞、引用形、謙譲
第３回　情報化時代、会話文「順杯」及び並行動作と逆接の語尾、変則１、～以来
第４回　PCバン、会話文「会食」及び補助動詞、引用文縮約形１
第５回　コシアン、会話文「業務報告」及び推測や意向を問う、命令、
第６回　整理と発展：会話文「北韓山で」及び漢字音の理解、十分と禁止、音変化１、大学入試センター試験から１
第７回　表現練習、中間試験
第８回　韓国人が好きな動物「犬」、会話文「再会」１及び婉曲・感嘆・非難の語尾、進展の語尾
第９回　日韓の文化情報誌、会話文「再会」２及び下称、意思表明の語尾
第10回　日韓交流の増加、会話文「日本の取材」１及び変則２、目的
第11回　指紋押捺撤廃訴訟、会話文「日本の取材」２及び終結語尾、間接疑問、パンマル
第12回　整理と発展：会話文「同僚紹介」および漢字音の理解、指示詞の理解、文を受ける連体形、大学入試センター試験から２
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
総合韓国語３（油谷幸利・南相瓔　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話２

金 賢珍　キム ソヨン　金 美淑　金 芝恵　姜 信和

【授業の概要】
使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　韓国・朝鮮語会話１の復習、どこでもかまいません
第２回　週末には何をしましたか
第３回　今晩またお電話いたします
第４回　趣味は料理とか旅行です
第５回　資料を探しに一緒に行きませんか
第６回　韓国料理ができますか
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　何をしようと思っていますか
第９回　どこにいらっしゃいますか
第10回　バスか地下鉄に乗っていきます
第11回　さる水曜日からです
第12回　このバックいくらだった
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
始めよう韓国語会話（Jo Sulseob・李正子・金賢珍　プリンテック）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策２

金 美淑　金 由那　金 芝恵

【授業の概要】
韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に必ず合格する。

【授業計画】
基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。
第１回　授業概要の説明、３級完全制覇・基本語彙と文法１
第２回　基本語彙と文法２、韓国語文の日本語訳・日本語文の韓国語訳
第３回　各種動詞・形容詞
第４回　尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
第５回　各種連体形、各種助動詞・接続詞、時制および選択・許容の表現
第６回　試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
第７回　まとめ、中間テスト
第８回　意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
第９回　各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感想の表現、
第10回　未来推量・意志の表現、伝聞
第11回　直接話法と間接話法
第12回　韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
絶対合格のために！！「ハングル」能力検定試験３級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解３

金 芝恵　金 由那

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】
3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または３級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　韓国・朝鮮語読解２の復習
第２回　日韓相互好感度増加、会話文「日本語案内放送」及び変則１
第３回　東アジアの若者たちの文化共有、会話文「日韓間の親近感」及び引用形、引用文連体形、回想連体形
第４回　サッカー・ワールドカップ日韓共催、会話文「板門店」及び理由、比況、譲歩
第５回　韓国人の日本語学習者、会話文「韓国映画」及び変則２、推量
第６回　整理と発展：会話文「海底トンネルへの期待」及び漢字音の理解
第７回　表現練習、中間試験
第８回　電車の女性専用車両、会話文「PCバン」及び変則２、前置き、接続の語尾、連用形につづく動詞
第９回　姓に関する問題、会話文「東大門市場」及び引用形に続く動詞
第10回　外国人労働者のための韓国語教室、会話文「コリアンタウン」、省略形、疑問詞の不定用法、パンマルと敬語体
第11回　水不足、会話文「あかすり」及び動詞の名詞形、可能・不可能の連体形、変則３
第12回　整理と発展：会話文「祝杯」漢字音の理解と音変化
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
総合韓国語３（油谷幸利・南相瓔　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話３

金 賢珍　キム ソヨン

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙､240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または２級に受かることを目指す。

【授業計画】

第１回　授業概要の説明、韓国・朝鮮語会話２の復習
第２回　専門科目を多めに履修しなければなりません
第３回　時間はいつがいいですか
第４回　自動引き落としのほうがいいと思います
第５回　曇りといっておりました
第６回　春といったらレンギョと山つつじですね
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　本当に美味しいですね
第９回　民俗博物館に行ってきました
第10回　庭園文化について知りたいです
第11回　どちらが速いですか
第12回　使えますとも！
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話　（Jo Sulseob・金賢珍　プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策３

金 賢珍　キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に合格するために､既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業概要の説明、各種発音ルール
第２回　受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
第３回　読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
第４回　各種活用表現１
第５回　各種活用表現２
第６回　注意すべき用言とその用例１
第７回　注意すべき用言とその用例２、まとめ、中間テスト
第８回　模擬試験１、解答と解説
第９回　模擬試験２、解答と解説
第10回　模擬試験３、解答と解説
第11回　聞き取り・書き取り模擬試験１、解答と解説
第12回　聞き取り・書き取り模擬試験２、解答と解説
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準２級合格をめざして（李昌烈　白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

初めての外国語１（ドイツ語）

藤井たぎる

【授業の概要】
ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】
ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】
授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。
学習する主な項目は、以下のとおりです。
（1）自己紹介、他人の紹介の練習
（2）数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
（3）冠詞の用法と表現練習
（4）名詞・人称代名詞の用法と表現練習
（5）動詞・助動詞の用法と表現練習
その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。
また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】
試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】
プリント配布。

初めての外国語２（フランス語）

清水ベアトリックス

【授業の概要】
ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】
半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【授業計画】
1）挨拶-自己紹介 - 20までの数
2）名前・国籍・住んでいるところをたずねる
3）職業についてたずねる　- 60までの数
4）何かを示す- 持っているものについて話す-
5）好きなものを言う - 100までの数 - 小テスト
6）年齢についてたずねる - 疑問文と否定文の作り方
7）1000までの数 - 買い物と喫茶店での注文の仕方
8）趣味について話す- 小テスト
9）時間の使い方 - 時間割について話す
10）一週間のすごし方
11）ある場所について説明する - 小テスト
12）家族について話す
13）まとめ - 映画観察
14）まとめ - 映画観察
15）試験

【評価方法】
定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】
プリント

初めての外国語３（ロシア語）

杉本一直

【授業の概要】
ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】
1．キリル文字の読み方の習得
2．名詞の性、形容詞の基本変化の理解
3．日常会話基礎表現の習得

【授業計画】
みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしていてください。
初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び（？）ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！
辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。
a．キリル文字と発音
b．大きな声であいさつしよう
c．買い物に行ってみよう
d．乗り物に乗ろう
f．おなかがすいたら…
g．自分について話してみよう

【評価方法】
定期試験の成績による。

【テキスト】
ロシア語ミニ辞典（白水社）

初めての外国語４（スペイン語）

木下まりあ

【授業の概要】
「初めての外国語４（スペイン語）」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】
・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．スペイン語とスペイン語圏の世界
2．スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3．挨拶、自己紹介の仕方
4．名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5．形容詞（性数の一致）
6．人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7．数詞と時刻の表現
8．スペイン語の手紙の書き方
9．旅行に役立つスペイン語会話
10．まとめ

【評価方法】
レポートに出席状況を加味して評価。（詳細は授業にて説明する）

【テキスト】
授業中に指示。

初めての外国語５（イタリア語）

柴田有香

【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野で魅力溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切にし、創造力に富んだイタリア人には、親しみと興味が高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。
簡単で実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、バールやレストランでの注文の仕方。
「私はおなかがすいています」「ピザ屋さんは何時に開きますか」「サッカーが好きです」「この靴はいくらですか」など。
実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞（現在）などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版　　遠藤礼子著　（白水社）

初めての外国語６（ポルトガル語）

瀧藤千恵美

【授業の概要】

「初めての外国語４（ポルトガル語）」は、ポルトガル語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。（詳細は授業にて説明します）

【授業計画】

第１回．プレゼンテーション
第２回．文字と発音
第３回．ser動詞、疑問文と否定文
第４回．名詞の性数
第５回．estar動詞、形容詞、指示詞
第６回．規則動詞（１）、所有形容詞
第７回．不規則動詞（２）、近接未来形
第８回．規則動詞（２）
第９回．数詞、時間の表現、不規則動詞（２）
第10回．不規則動詞（３）、目的語
第11回．再帰代名詞、再帰動詞
第12回．不規則動詞（４）、現在進行形
第13回．不規則動詞（５）
第14回．不規則動詞（６）
第15回．定期試験

【評価方法】

定期試験と平常点（出席や宿題）の評価により総合判断する。

【テキスト】

CDエクスプレス　ブラジルポルトガル語（黒沢直俊著　白水社）

【参考文献・資料】

ポ和辞書　どんなものでもよいが、オススメは
現代ポルトガル語辞典（池上岑夫他編　白水社）

プログラミング入門

西荒井学　三和義秀　小林久恵　奥村文徳　原 伸之

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラム言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1．システム開発におけるプログラミング
2．プログラミング言語の概要
3．プログラミングの基礎、手順
4．アルゴリズムとフローチャート
5．変数とデータ型
6．順次構造
7．関数の利用
8．選択構造（If，Select Case文）
9．繰り返し構造（For～Next文）
10．繰り返し構造（Do While～Loop，Do Until～Loop文）
11．一次元配列
12．二次元配列
13．文字列処理
14．試験

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。
なお、「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門（西荒井学著　共立出版）

コンピュータグラフィックス入門

石丸 緑　茂籠英典　阿部晋也

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス（CG）を含むディジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。このため、ディジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門３級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1．CGの概要解説
2．コミュニケーションと情報
3．プレゼンテーション
4．技術の基礎(デジタルデータとアナログデータ・デジタル作品制作工程)
5．表現の基礎(画像の表現方法)
6．表現の基礎(画像編集)
7．映像制作
8．CG基礎編(３DCGの基礎知識)
9．CG基礎編(モデリング実習)
10．CG基礎編(課題制作)
11．CGアニメーション編(技法・特徴)
12．Webにおける情報デザイン(Webデザインの現況)
13．Webにおける情報デザイン(課題制作)
14．試験

「ＣＧクリエイティングコースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

「入門Ｗｅｂデザイン」(CG－ARTS協会)

ユーザ部門管理者コース（初級システムアドミニストレータ試験対策）

金澤小夜子　森 有紀　森 友紀　勝野祐子

【授業の概要】

「初級システムアドミニストレータ試験」の合格を目標とする教育科目である。利用者の立場から、担当する業務の情報化を推進するための知識と能力を習得する。コンピュータの活用法、ヒューマンインターフェース設計やシステム運用の技能、パソコンとネットワークの基礎知識、表計算ソフトやデータベースソフトの活用能力について学ぶ。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である初級システムアドミニストレータの資格取得を目指す。

【授業計画】

1．コンピュータの基礎知識
2．ハードウェアとソフトウェア
3．表計算（表計算ソフトの機能・相対参照と絶対参照・IF関数）
4．表計算（データベースの種類と特徴・リレーショナルデータベース）
5．ネットワーク・文章化と発表技術
6．業務と業務改善（組織と業務活動・財務会計と管理会計）
7．業務と業務改善（問題発見のためのデータ収集・整理・分析）
8．情報システム構築支援
9．情報システムの運用（情報システムの開発工程）
10．情報システムの運用（外部設計の支援・テスト工程の順序）
11．午後問題試験対策：解説と演習
12．過去出題問題の検証と分析
13．過去出題問題の検証と分析
14．試験

この授業では、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」「ネットワークリテラシ入門」で習得した知識が必要になる。

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価を行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

システム管理者コース Ⅰ（基本情報技術者試験対策）

戸谷英司

【授業の概要】

「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、将来高度な技術者を目指す者としての知識と能力を習得する。情報技術全般の基本的な知識、基礎的なプログラム設計書作成能力、プログラミングのための論理的思考能力、プログラムのテスト手法などについて学ぶ。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者の資格取得を目指す。

【授業計画】

1．コンピュータ科学基礎（基数変換と数理応用・論理）
2．コンピュータ科学基礎（データ構造とアルゴリズム）
3．データベース技術
4．コンピュータシステムの開発（要求分析と設計手法）
5．コンピュータシステムの開発（システムの運用と保守）
6．ネットワーク技術
7．セキュリティと標準化
8．情報と経営（業務改善と分析・知的財産権）
9．情報と経営（財務会計と管理会計・IE手法とQC手法）
10．アルゴリズム（整列、探索、文字列処理、ファイル処理）
11．アルゴリズム（図形、グラフ、数値処理）
12．プログラム設計・開発
13．過去出題問題の検証と分析
14．試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価を行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

CGクリエイティングコースⅠ（CGクリエイター検定Webデザイン部門２級試験対策）

茂籠英典

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門２級」の合格を目標とする教育科目である。２級問題は、「CGクリエイター検定３級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、 コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門３級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門２級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1．情報とコミュニケーションにおけるWebサイトの役割
2．コンセプト立案から運用までのプロセス
3．様々なWeb技術（HTML・スタイルシート）
4．様々なWeb技術（Javascript）
5．情報の構造とWebサイトへの展開
6．Webページのデザイン（レイアウト、グラフィックス）
7．Webページのデザイン（インターフェース、ナビゲーション）
8．Webページにおける様々な表現手段（Flash）
9．Webページにおける様々な表現手段（Javaアプレット、CGI、XML）
10．Webサイトの評価手法と運用
11．関連知識（知的財産権など）、過去出題問題の検証と分析
12．過去出題問題の検証と分析
13．過去出題問題の検証と分析
14．試験

この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。特に「ＣＧクリエイティングコースⅡ」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況で評価を行う。

【テキスト】

「Webデザイン　コンセプトメイキングから運用まで　改訂版」CG-ARTS協会

CGクリエイティングコースⅡ（CGクリエイター検定Webデザイン部門１級試験対策）

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門１級」の合格を目標とする教育科目である。１級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの具体化に関する問題解決能力が必要とされるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門１級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1．基本Webテクノロジーとその活用
2．最新のWebテクノロジーの概要
3．過去出題問題（マークシート）の検証と分析
4．過去出題問題（記述式）の検証と分析
5．過去出題問題（記述式）の検証と分析
6．過去出題問題（二次試験）の検証と分析
7．過去出題問題（二次試験）の検証と分析
8．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
9．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
10．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
11．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
12．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
13．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
14．試験

この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況で評価を行う。

【テキスト】

「Webデザイン」CG-ARTS協会

システム管理者コースⅡ（ソフトウェア開発技術者試験対策）

中野雅晴

【授業の概要】

「ソフトウェア開発技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。ソフトウェア開発技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者の資格取得を目指す。

【授業計画】

1．コンピュータ科学基礎上級（情報の基礎理論）
2．コンピュータシステム上級（ハードウェア、基本ソフトウェア、システム構成）
3．システム開発と運用（プログラム言語、システム開発手法とプロセスモデル）
4．ネットワーク技術
5．セキュリティと標準化
6．ソフトウェア工学
7．データベース技術（関係データベースの基礎）
8．データベース技術（SQLとデータベース設計）
9．アルゴリズム
10．システム構成技術（システム設計、テスト技法）
11．過去出題問題の検証と分析
12．過去出題問題の検証と分析
13．過去出題問題の検証と分析
14．試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価を行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報数学入門

親松和浩　福井 稔

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングで必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

1．命題と制御処理
2．集合と写像
3．データの表現法と２進法
4．情報量/計算量の評価
5．三角関数
6．２次元ベクトル
7．２次元図形の表現法
8．行列
9．２次元図形の変換
10．３次元ベクトル
11．３次元図形の表現法
12．３次元図形の変換
13．試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

【テキスト】

第１回目の授業にて指示する。

人工知能入門

高橋信明　吉川大弘

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1．人工知能の基本原理と考え方
2．知識と知識表現
3．述語論理と導出原理
4．問題解決
5．探索法とアルゴリズム
6．プロダクションシステム
7．意味ネットワーク
8．推論
9．自然言語処理
10．人工知能用言語
11．エキスパートシステム
12．ニューラルネットワーク
13．人工知能の応用と展望
14．試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

人工知能概論　第２版　（荒屋真二著　共立出版）

スポーツ科学

山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　丸山治美　村本名史

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	１限	門間	バドミントン・卓球
	２限	門間	バスケットボール・バレーボール
	３限	山本	卓球・バレーボール
	４限	山本	卓球・バレーボール
火曜日	２限	村本	テニス・バスケットボール
	３限	山本	卓球・バレーボール
	４限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	１限	門間	バドミントン・卓球
	２限	門間	バスケットボール・バレーボール
	３限	門間	フットサル・バドミントン
	４限	門間	フットサル・バドミントン
木曜日	１限	寺田	卓球・バドミントン
	２限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	２限	松田	テニス・ニュースポーツ
	３限	松田	テニス・バドミントン
	４限	松田	テニス・バドミントン
金曜日	２限	門間	ソフトボール・バドミントン
	３限	丸山	エアロビクス＆フィットネス
	３限	門間	バレーボール・バスケットボール
	４限	丸山	エアロビクス＆フィットネス
	４限	門間	バレーボール・バスケットボール

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ科学

山本啓子

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔卓球〕（月曜３限前半・月曜４限前半・火曜３限前半・火曜４限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
　（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7.　ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）
〔バレーボール〕（月曜３限後半・月曜４限後半・火曜３限後半・火曜４限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・スパイク・ブロック
　（スパイクカバー・ブロックカバー）
5～7.　ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔テニス〕（木曜２限前半・木曜３限前半・木曜４限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる
3.　ボールをコントロールする
4.　サービスを練習する
5.　ルールとマナーを身につける
6～7.　ミニゲーム・スキルテスト
〔ニュースポーツ〕（木曜２限後半）
1.　ガイダンス
2～8.　ユニホッケー
　ペタンク
　ソフトバレーボール
　ミニテニス
上記のニュースポーツを実践する。
〔バドミントン〕（木曜３限後半・木曜４限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～7.　ミニゲーム

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕（月曜１限前半・水曜１限前半・水曜３限後半・水曜４限後半・金曜２限後半）
1～2.　ラケットとシャトルをコントロールする
3.　ルールとマナーを身につける
4～6.　ミニゲーム
〔卓球〕（月曜１限後半・水曜１限後半）
1.　ラケットのグリップと打法
2.　フォアハンド・バックハンド
3.　サービスとレシーブ
4～6.　ゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）
〔バレーボール〕（月曜２限後半・水曜２限後半・金曜３限前半・金曜４限前半）
1.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
2.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
3.　トス・アタック・ブロック
4～6.　ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）
〔バスケットボール〕（月曜２限前半・水曜２限前半・金曜３限後半・金曜４限後半）
1.　ボールに慣れる
2～3.　個人・チームでの基本的な練習
4.　ルールとマナーを身につける
5～6.　ゲーム・スキルテスト
〔フットサル〕（水曜３限前半・水曜４限前半）
1.　個人技能の確認
2～3.　ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
4～6.　リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）
〔ソフトボール〕（金曜２限前半）
1～3.　キャッチボール・バッティングの基本、練習、ゲーム
4～5.　守備の基本、練習、ゲーム
6.　リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】
出席＝70点　実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔卓球〕（木曜１限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5～7.　シングルスゲーム・ダブルスゲーム（スコア記録）
〔スキルトレーニング〕（木曜２限前半）
オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1.　ガイダンス
2～4.　主にアウトドア種目（フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー）等を用いての動き作り
5～8.　主にインドア種目（卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール）等を用いての動き作り
〔バドミントン〕（木曜１限後半・木曜２限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8.　シングルスゲーム・ダブルスゲーム（スコア記録）

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
・この授業では、1．エアロビクスの特性・効果を理解する　2．エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう　3．自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知るの３点を目標に行う。
〔エアロビクス＆フィットネス〕（金曜３限・金曜４限）
1.　ガイダンス
2.　エアロビクスとは何か　その理論と特性
3.　目標心拍数の設定と主観的運動強度
4.　筋力トレーニング　筋肉と骨格
5～6.　ボールを使って
7.　体脂肪
8.　ウェイトコントロール
9.　骨を強くする
10～15.　エアロビック　ダンス　パフォーマンス
動きづくり練習　発表・相互評価

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ科学

村本名史

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔テニス〕（火曜２限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる
3.　ボールをコントロールする
4.　サービスを練習する
5.　ルールとマナーを身につける
6～7.　ミニゲーム・スキルテスト
〔バスケットボール〕（火曜２限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる
3.　基本的な個人技能の確認
4.　チームでの基本的な練習
5.　ルールとマナーを身につける
6～7.　ゲーム・スキルテスト

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　蛭田秀一　村本名史

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	２限	村本	テニス
	３限	山本	バドミントン
	４限	山本	バドミントン
火曜日	２限	村本	バレーボール
	３限	山本	バドミントン
	４限	山本	バドミントン
水曜日	１限	門間	テニス
	２限	松田	バドミントン
	２限	門間	テニス
	３限	松田	バドミントン
	３限	門間	フットサル
	４限	門間	フットサル
木曜日	１限	寺田	バドミントン
	２限	寺田	ニュースポーツ
	３限	村本	バスケットボール
金曜日	１限	蛭田	卓球
	１限	門間	テニス
	２限	蛭田	卓球
	２限	門間	テニス
	３限	門間	バドミントン
	４限	門間	バドミントン

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

山本啓子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕（月曜３限・月曜４限・火曜３限・火曜４限）
1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム

【評価方法】

出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕（水曜２限・水曜３限）
1．ガイダンス
2．記録への挑戦（打ち続けよう）
3．歴史的ゲームの追体験
4．用具の特徴（貴重な水鳥の羽根）
5．フォーム作り（格好良いフォームで打とう）
6．攻撃的なショット（初速はどれくらい？）
7．守備的なショット
8．基本の戦術
9．ダブルスのフォーメーション
10．世界のバドミントンプレーヤーを観よう（VTR）
11．ゲームの特徴（心拍数、運動強度はどれくらい？）
12．ゲームのルールとマナーを身につけよう
13．ハーフコート・ミニゲーム
14．ダブルスゲーム
15．スキルテスト

【評価方法】

出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

門間　博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔テニス〕（水曜１限、水曜２限、金曜１限、金曜２限）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3.　グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4.　グランドストローク（バックハンドを中心に）
5.　サービス、レシーブ
6.　ボレー、スマッシュ
7.　ゲームの進め方、ルールとマナー
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム、スキルテスト
〔フットサル〕（水曜３限、水曜４限）
1.　ガイダンス
2.　個人技能の確認
3～5.　ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
6～7.　個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
8～10.　ミニゲームのリーグ戦
11～15.　リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）
〔バドミントン〕（金曜３限・金曜４限）
1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム

【評価方法】

出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・ニュースポーツについて、２～６週までのうち雨天の場合には７～14週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕（木曜１限）
1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム
〔ニュースポーツ〕（木曜２限）
1.　ガイダンス
2～3.　フライングディスク
4～6.　ペタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
7～10.　インディアカ、ミニテニス
11～14.　ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
15.　グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】

出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

蛭田秀一

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔卓球〕（金曜１限・金曜２限）
1.　ガイダンス
2.　用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
3～6.　卓球における各種基本打法の説明と学習（ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど）、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
7～11.　シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
12～13.　一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14.　実技テスト、まとめ
上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

健康と運動

村本名史

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔テニス〕（月曜２限）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3.　グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4.　グランドストローク（バックハンドを中心に）
5.　サービス、レシーブ
6.　ボレー、スマッシュ
7.　ゲームの進め方、ルールとマナー
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム、スキルテスト
〔バレーボール〕（火曜２限）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3.　サーブの種類と打ち方
4～6.　パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム
〔バスケットボール〕（木曜３限）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる
3.　基本的な個人技能の確認
4.　チームでの基本的な練習
5～7.　ルールとマナーを身につける
8～15.　ゲーム・スキルテスト

【評価方法】
出席＝70点
実技・参加の態度・種目理解度等＝30点

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】
ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】
ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】
〔ボウリング〕
1．実習日時　平成19年９月５日（水）・６日（木）・７日（金）
10日（月）・11日（火）・12日（水）
計６日間　９：30～12：40
2．説明会　日時　平成19年７月４日（水）12：30～13：15
場所　長久手キャンパス体育館３階　体育講義室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3．場所　星ヶ丘ボウル
4．実習費　6,000円
（平成18年度のものですので変更する場合があります）
5．定員　60名
6．内容
１日目　開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
２日目　ボウリングの歴史、基本動作
３日目　ボールのコントロール、軌道調整
４日目　アジャスティングの基本と実践、３－２－１理論
５日目　レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
６日目　競技会説明、競技会（アメリカン方式３ゲーム）、閉講式

【評価方法】
出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

【参考文献・資料】
山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会，2004.

スポーツ特殊講座（スケート）

鶴原香代子

【授業の概要】
スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】
スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎技能の習得を図り、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

【授業計画】
1．実習日時　平成19年９月５日（水）・６日（木）・７日（金）
10日（月）・11日（火）・12日（水）計６日間
時間：９：30～12：40
2．説明会　日時：平成19年７月10日（火）16：40～17：25
場所：長久手キャンパス体育館３階　体育講義室
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
・説明会の欠席者は受講を認めません。
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3．実習場所　名古屋スポーツセンター（大須）
4．実習費　7,200円　※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5．定員　40名
6．内容　１日目　開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
２日目　自然滑走、正しい押し出し
３日目　フォアスケーティング・カーブ滑走
４日目　ストップ、バックスケーティングの基本
５日目　クロスステップ、フォアからバックへのターン
６日目　総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】
出席状況（70％）と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度（30％）により総合評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
大学スケート研究会「アイススケーティングの基礎」アイオーエム，1995.

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】
本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】
現在の学校教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

【授業計画】
1　教育とは何か
2　日本における近代学校教育制度の変遷
（1）第一の教育改革
（2）第二の教育改革
（3）第三の教育改革
3　教師に求められる資質能力とは何か
（1）いつの時代にも求めらる資質能力
（2）今後特に求められる資質能力
4　教師の資質能力にかかる形成諸段階
（1）養成段階（戦前・戦後の教員養成）
（2）採用段階
（3）現職研修段階
・　法的根拠
・　研修の種類
5　教職員の職種・職務
6　教員の一日・一学期・一年の仕事
7　教育問題をテーマにディベート

【評価方法】
コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介または配布する。

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】
本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】
現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】
第１時限　教師になるためには（教職課程ガイダンス）
第２時限　教師に求められる資質・能力
・戦前、戦後の教師像
第３時限　いま教師には何が求められているか
第４時限　教員養成の歴史
第５時限　学校をとりまくしくみ（教育行政のあり方）
第６時限　教育基本法を読む
第７時限　学習指導要領とは（その歴史と現行教育課程の問題点）
第８・９時限　「学校」をとりまく諸問題
・教師の生活
第10時限　学習指導とは
・生徒のためのよりよい勉強法
第11時限　先生になるために最低限、読んでほしい本
第12時限　論作文（レポート）の書き方について
第13時限　教育に関する現代的諸問題
最終回　試験

【評価方法】
課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

教師論

大久保義男

【授業の概要】
日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。
多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】
学校教育における教師の役割について考えるとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

【授業計画】
1　教職の意義と教師の役割
2　教育基本法の趣旨
3　中学校・高等学校の目的・目標
4　学校教育の歴史
5　答申類に見る我が国の教育施策
6　愛知県の教育施策
7　教育をめぐる現代的な諸課題
（1）青少年の心理と生徒理解
（2）問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
（3）人権教育・同和問題
（4）障害児教育
（5）情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
（6）生涯学習・社会教育
8　魅力ある学校づくり
（1）学校評価と開かれた学校づくり
（2）教員評価と学校組織の活性化
（3）危機管理・説明責任

【評価方法】
課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】
授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】
高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。
本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】
・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】
1．教育とは何か
2．人間と教育
動物学からみた人間の特殊性
人間の成長と環境
教育の重要性
人間形成の場
3．教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）
開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4．教育の目的
教育目的とは
教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5．現代の教育

【評価方法】
定期試験、課題の提出、受講態度により総合的に評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】
資料を配布する。

【参考文献・資料】
授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

五島敦子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

教職課程の基礎科目として、主要な教育思想を理解して覚えるとともに、戦後日本の教育の歴史を理解し、「学ぶ側」でなく「教える側」として学校教育をとらえる視点を養う。

【授業計画】

1．教育の目的と教育思想
　（1）教育の目的
　（2）主要な教育思想
2．戦後日本の教育の歴史
　（1）戦後新教育とその修正
　（2）高度経済成長と受験戦争・落ちこぼれ
　（3）校内暴力からいじめ・不登校へ
　（4）教育改革の始動
　（5）「普通の子」の事件・学級崩壊
3．現代日本の教育改革

【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

教育改革のゆくえ―格差社会か共生社会か（藤田英典　岩波書店）

【参考文献・資料】

窓ぎわのトットちゃん（黒柳徹子　講談社）
不良少年の夢（義家弘介　光文社）
義務教育を問いなおす（藤田英典　ちくま新書）

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1．教育思想史を勉強することの意義
2．教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3．コメニウス
4．ルソー
5．ペスタロッチ
6．ヘルバルト
7．フレーベル
8．デューイ
9．教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1．教育心理学を学ぶということ
　・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2．発達について考える
　・生涯発達の視点
　・障害の意味と発達可能性
　・発達段階と発達課題
　・認知の発達
3．学習の過程を考える
　・学習の成立過程
　・学習における知識の役割
　・学習意欲を育てる
　　外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 II

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1．発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2．青年期の意味
3．発達と教育
4．「自分」の諸相
5．「自分でない」世界の認識から
6．第一「反抗」期の意味
7．自我と他我
8．他律的規範への順応
9．第二の誕生
10．アイデンティティの確立
11．生涯発達の視点と生き方
12．自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

鈴木郁子

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
　特別支援学校に在籍する障害児について
　一般学級に在籍する障害児について
3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

渡辺かよ子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

・教育制度の基本的な事項について理解すること。
・日本の学校教育制度の歴史的変遷について理解すること。
・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1．教育制度の意義
2．現代学校教育制度の起源
3．学校教育制度の類型
4．日本の学校教育の変遷
5．現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6．外国の学校教育制度

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教育行政学（河野和清　ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

解説教育六法（解説教育六法編集委員会編　三省堂）

教育制度

五島敦子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

学校教育制度の類型を、世界の教育改革の進展状況を比較考察しながら理解するとともに、教育法規については、教員の服務と義務に焦点をあて、教員としてふさわしい行動に対する判断力を身につける。さらに、グループ・ワークを通じて、教育制度に関する関心を深め、意見をまとめて発表する力を養う。

【授業計画】

1．教育制度の概観
　（1）学校教育制度の類型
　（2）教育段階とその課題
2．諸外国の教育制度
　（1）欧米諸国の教育改革
　（2）アジア諸国の教育改革
3．教育法規と教育行政
　（1）日本国憲法・教育基本法・学校教育法
　（2）教育行政のしくみ
4．グループ研究発表

【評価方法】

定期試験、レポート、グループ・ワークによる総合評価

【テキスト】

指定しない。講義中に資料を配布する。

【参考文献・資料】

世界の学校―教育制度から日常の学校風景まで（二宮 晧　学事出版）
わかりやすく学ぶ教育制度―課題と討論による授業の展開（北野秋男他　啓明出版）

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
（1）学級づくりと学級こわしの関係
（2）生徒理解と学級担任の役割
（3）共感的学級経営の実践
（4）成就型教育観と参加型教育観
（5）学級担任と言葉の問題
（6）カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことによって、「生きる力」と「確かな学力」の育成を目指す現行学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の実際に関しても検討する。

【授業計画】

1　教育課程とは
　（1）教育課程研究の重要性
　（2）教育課程の編成原理
2　教育課程の歴史的変遷
　（1）戦前の教育課程
　（2）戦後の教育課程
　　ア　学習指導要領第一次改訂
　　イ　学習指導要領第二次改訂
　　ウ　学習指導要領第三次改訂
　　エ　学習指導要領第四次改訂
　　オ　学習指導要領第五次改訂
　　カ　学習指導要領第六次改訂
3　改訂学習指導要領の普及化
　（1）伝達講習（ブロック、県、各学校）
　（2）実践研究指定校制度
4　現行学習指導要領総則編（小・中・高）
5　現行教育課程の事例検討（小・中・高）
6　教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
7　教育課程にかかる今日的問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

第１時限	講義に関する諸注意
第２時限	「教育課程」とは何か
第３時限	世界の教育課程改革の歴史（20世紀以前）
第４・５時限	世界の教育課程改革の歴史（20世紀以降）
第６時限	わが国における教育課程改革の歴史（戦前）
第７時限	わが国における教育課程改革の歴史（戦後）
第８・９時限	現行の学習指導要領の成立と問題点
第10・11時限	教育課程（カリキュラム）を編成するにあったて ・カリキュラム編成の基本問題 ・カリキュラム編成の実際
第12時限	新しいカリキュラムの試み ・小学校における「英語」の授業について
第13時限	諸外国における学校制度と教育課程

※この間、小テストならびに教育をテーマにしたビデオを見る。
※最終回・・・試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

公民・社会科教育法 Ⅰ

不破民由

【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1．新聞記事の切抜きを作り、要約し、コメントを入れて発表することで現代社会の諸問題についての関心を高めるとともに、新聞を用いた授業の方法を身につける。同時に、新聞記事やマスコミ報道そのものに対する批判的な目も養うことの重要性に気づく。
2．日本における公民教育の変遷をたどり、その問題点と課題を考察する。
3．できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
4．ディベート・立場討論・シュミレーションなどの手法を用いた授業の手法を身につける。
5．グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力をつけるとともに、お互いが授業の評価をしあうことで反省し、授業の力量を高める。
6．個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【授業計画】

1．公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2．「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3．「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4．各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

【評価方法】

模擬授業・指導案・新聞記事の切抜きを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説　公民編（文部省　実教出版予価230円）
現代社会（高等学校教科書　一橋出版　予価580円）

【参考文献・資料】

近代日本の公民教育（松野修　名古屋大学出版会）
人生の教科書〔よのなか〕（藤原和博　宮台真司　ちくま文庫）
21世紀「社会科」への招待（魚住忠久　山根英次共編　学術図書出版社）
続　手に取る公民・現代社会教材（全国民主主義教育研究会編　地歴社）
新　「ウソッ」「ホント」からはじまる公民学習（河原和之　日本書籍）
イミダス（集英社）等、時事用語集
日本の論点2007（文藝春秋社）

公民・社会科教育法 Ⅱ

不破民由

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1．各自のゼミ論・卒論等のテーマ設定の簡単なプレゼンを行い、それぞれの問題意識を共有し、高等学校の「倫理」や「政治・経済」での取り扱いとの関連を考える。
2．ルソーやアダム・スミスなど18世紀の思想家たちやヴェーバーなどがもっていた「倫理」的課題と「政治・経済」的課題の関連について考察し、高度に専門化した現代においても、根にこうした関連性を持つべきであることを認識する。
3．日本社会の特質を「世間」と「社会」の比較から考え、西欧の哲学や社会諸科学の概念導入における問題点を考慮できるようにする。
4．できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
5．ディベート・立場討論・シュミレーションなどの手法を用いた授業の手法を身につける。
6．グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力をつけるとともに、お互いが授業の評価をしあうことで反省し、授業の力量を高める。
7．個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【授業計画】

1．学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2．生涯学習にも深いかかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3．「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4．各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【評価方法】

模擬授業・指導案・プレゼンを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書　教育出版　予価435円）
倫理（高等学校教科書　教育出版　予価435円）

【参考文献・資料】

思想としての近代経済学（森嶋通夫　岩波新書）
社会認識の歩み（内田義彦　岩波新書）
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神（M.ヴェーバー　岩波文庫）
世間とは何か（阿部謹也　講談社現代新書）
哲学入門１～４（フルキエ　ちくま学芸文庫）
哲学の教科書（中島義道　講談社学術文庫）
逝きし世の面影（渡辺京二　平凡社ライブラリー）
イミダス（集英社）等、時事用語集
日本の論点2007（文藝春秋社）
等

地歴・社会科教育法 I

小栗正彦

【授業の概要】

「地歴・社会科教育法I」では、中学校社会科地理的分野・歴史的分野、及び高校の世界史B、日本史B、地理Bを中心に、もっとも授業でポイントになる（重要かつ生徒たちが理解し難い）部分を解説する。

まず、従来「社会科」として成立していた教科が、なぜ「地歴科」と「公民科」に分かれたのか。分けられた意味はどこにあるのか、そして分けられたことに関する問題点などについて考える。

ついで、日頃から中学、高校での授業中に、生徒たちが最も「難しい」と感じる部分をいくつか取り上げて、解説する。

【授業の目標】

中学・高校における社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）、地歴科の授業が十分展開にできるように、基礎的学力を身につけること。

【授業計画】

1．「地歴科」はどのような論議を経て登場したか
2．世界史の中の日本史（歴史的事項の同時代性について）
　「紀元前後、４世紀、８世紀、13世紀」の世界史
3．イスラム世界がもたらしたもの（ユーラシアはどのように一体化されたか）
4．「ヨーロッパ」とはどのような世界か（ヨーロッパを生み出した力）
5．市民革命や産業革命とは何か
6．「考古学」の面白さを語る
7．７世紀史の学び方
8．平安時代を理解するために（10世紀史の学び方、荘園制）
9．幕末の世界史
10．明治時代の学び方
11．昭和史の学び方
12．世界の気候・植生・土壌
13．人口と人口問題

【評価方法】

レポート、期末考査、出席率などを総合して評価する。

【テキスト】

高校の時に使用した教科書、年表、地図帳は必携。

地歴・社会科教育法 II

小栗正彦

【授業の概要】

「地歴・社会科教育法I」で行った、中学校社会科地理的分野・歴史的分野、及び高校の世界史B、日本史B、地理Bを足場にして、学生が自ら授業案を作成し、模擬授業を行う。

何回か模擬授業を行った後に、その「授業案」の内容と、模擬授業について、皆で検討会をする。

なお、「地歴・社会科教育法I」の時間に出来なかった「文化」については、ここで行う。

【授業の目標】

中学・高校における社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）、地歴科の授業が十分展開にできるように、基礎的学力を身につけること。

【授業計画】

1．「歴史の学び方」について（講義）
2．「紀元前後、４世紀」の世界史に関するわかりやすい授業案の作成と模擬授業
3．「８世紀、13世紀」の世界史に関するわかりやすい授業案の作成と模擬授業
4．市民革命や産業革命とは何か（この革命の前と後で社会はどう変わったか）に関する授業案の作成と模擬授業
5．　〃
6．奈良時代のわかりやすい授業案と模擬授業
7．「10世紀史」のわかりやすい授業案と模擬授業
8．戦国時代が育んだ文化（お伽草子のナゾ）
9．織豊政権時代のわかりやすい授業案と模擬授業
10．江戸時代の産業について、どのような授業案を作成するか
11．「戦争への道（十五年戦争）」をいかに授業するか
12．文化について（絵画の「読み方」講義
13．国家の成り立ち、領土、国境について（講義）

【評価方法】

模擬授業、教案（レポート）及び出席率などを総合して評価する。

【テキスト】

高校の時に使用した教科書、年表、地図帳は必携。

情報科教育法 I

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には､授業計画を変更することがある。

【授業の目標】

高等学校での普通教科「情報」の目標・学習内容・指導方法の概要を理解し、情報科教員として必要となるミニマムエッセンシャルズとしての知識・技能を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1　オリエンテーション、情報科教育の史的展開と意義について概観する
2　高度情報化社会における情報倫理、セキュリティ等について
3　コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能について
4　普通教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
　（1）「情報　A」の目標・学習内容・指導方法について
　（2）「情報　B」の目標・学習内容・指導方法について
　（3）「情報　C」の目標・学習内容・指導方法について

【評価方法】

出席状況、提出された報告書等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　開隆堂出版）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

情報科教育法 II

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Iにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するに必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業の目標】

専門教科「情報」の11科目についてその概要を理解する。教育実習生および新任教師として、教科「情報」の授業をするための基礎的能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1　オリエンテーション、専門教科「情報」とは何か
2　専門教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
3　普通教科「情報」の授業の展開
　（1）「情報 A」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
　（2）「情報 B」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
　（3）「情報 C」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
4　専門教科「情報」の科目「課題研究」の教材収集・開発

【評価方法】

出席状況、提出された学習計画、指導案等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　開隆堂出版）
（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

1 道徳と道徳教育
　・道徳と倫理
　・道徳教育思想の展開
2 児童・生徒を生かす道徳教育
3 公教育における道徳教育の歴史
　・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷
　・戦後の道徳教育の展開
4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
5 学校における道徳教育の実際
　・道徳教育の目標
　・道徳教育の内容
　・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
　・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
6 まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1．自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自な価値を考える。
2．特別活動の歴史的変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3．学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げれない息苦しさというマイナス面を考察する。
4．生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5．学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
（1）儀式的行事　（2）学芸的行事　（3）健康安全・体育的行事　（4）遠足・集団宿泊的行事　（5）勤労生産・奉仕的行事　等
以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫　新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著　ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二他編　労働旬報社）
＜子供＞の誕生　（フィリップ・アリエス　杉山光信・杉山恵美子訳　みすず書房）
教養主義の没落（竹内洋　中公新書）
立身出世主義（竹内洋　NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋　講談社現代新書）
日本の近代12　学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋　中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子　行路社）
学級経営の歴史（志村廣明　三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎　平凡社）
＜学級＞の歴史学（柳治男　講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編　青弓社）
「校則」の研究（坂本秀夫　三一書房）
教育には何ができないか（広田照幸　春秋社）
教育学がわかる事典（田中智志　日本実業出版社）
教育に関する私の方法叙説（不和de民由　新風舎）

他

教育方法

石黒昭吉

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。
テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

学校教育活動の中核を占める学習活動（授業）について、その原理・方法、教育学的技術、評価等を中心的テーマとした講義・演習により、どのように教材を工夫し、どのような授業をすれば学習者は上手く学べるかについて理解する。

【授業計画】

1　オリエンテーション　人間関係を考える
2　モチベーションについて
3　教材とは、教材をイメージする
4　教材づくりをイメージする
5　教材の構造を見極める
6　学習指導のストラテジーについて
7　教材を作成する（情報機器及び教材の活用を含む）
8　テストとは、テストを作成する
9　評価について
10　形成的評価について
11　教材の改善について
12　まとめ

【評価方法】

積極的な授業参加とレポート、期末に行う試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。
テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1．人間回復の学力と教師の在り方
　（1）中学・高校における学力論と教師論の検討
　（2）生徒の思考の発展を目指す授業方法
　（3）生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
　（4）生徒の側に立った学習指導技術
2．情報機器及び教材の活用の方法
　（1）情報機器の特色とその効果的な利用方法
　（2）視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
　（3）メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3．学習者にとって個を生かす学習集団とは
　（1）多様化した生徒への対応の仕方
　（2）中学校における個を生かす学習集団
　（3）高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

【授業の概要】
生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業の目標】
生徒指導の実質的な展開に資する知見やアプローチについての認識を基盤に、今日学校で生じている指導上の諸課題にどう対応していくかについて具体的に理解する。

【授業計画】
1　生徒指導にかかる二つの知見（基礎理論）と一つのアプローチ
（1）マスローの所論
（2）エリクソンの所論
（3）ロジャースの所論（ビデオ視聴）
2　生徒指導の四領域
（1）在り方指導
（2）生き方指導
（3）学び方指導
（4）保健指導
3　開発的指導と対症療法的指導（防火的指導、消火的指導）
4　在り方指導の実際
（1）日常的指導項目
（2）対症療法的指導項目
（3）計画的指導項目
5　生き方指導の実際
（1）生き方指導にかかる今日的課題
（2）小・中・高という発達段階に応じた生き方指導
（3）総合的な学習の時間を生かした進路指導の展開
6　学び方指導と保健指導
7　生徒指導にかかる今日的問題をテーマにグループ討論

【評価方法】
コメント・カード、期末試験及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介または配布する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】
生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】
現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価などについての注意
第2時限	「生徒指導」（進路指導を含む）では何を学ぶのか
第3時限	生徒指導の意義と課題
第4時限	生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展
第5時限	発達の心理（青年期の心理）
第6時限	生徒理解の方法と技術
第7時限	いまの中学・高校生が育ってきた時代背景
第8時限	いま学校でおこっていることども
第9時限	生徒指導における数々の事例（法令との関わりで） ・学校事故（授業・クラブ活動での事故）
第10時限	進路指導について
第11時限	ゲーム機や携帯電話と子どもたち
第12時限	懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり）
第13・14時限	学校に関する事柄を特集したビデオを見る。
最終回	試験

【評価方法】
課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

冨安玲子

【授業の概要】
教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】
生徒の立場に立った生徒ー教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】
1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．「自分」は他者との関係の中で育つ
3．教師-生徒の相互影響過程
4．生徒理解
5．学校における教育相談
6．教育相談の進め方
7．相談とカウンセリング
8．適応と不適応
9．問題行動のとらえ方とその対応
10．不登校を考える
11．いじめを考える
12．非行を考える

【評価方法】
期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】
テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】
教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】
1．学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2．教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】
1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．教師と生徒の人間関係
・「自分」は他者との関係の中で育つ
・教師－生徒の相互影響過程
・生徒理解
3．教育相談
・学校における教育相談
教育相談の位置づけ、教育相談の特質
・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4．学校という生活環境と適応
・適応と不適応
・問題行動のとらえ方とその対応
・学校への不適応を考える
・非行・いじめを考える

【評価方法】
筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

カウンセリング

冨安玲子

【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1．教育相談とカウンセリングを巡って
2．カウンセリングの歴史
3．カウンセリングの人間観
4．カウンセリングの理論
5．カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6．共感的理解のエクササイズ
7．正確に「聴く」とは
8．カウンセリングの実際例
9．話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10．応答訓練
11．ロールプレイ
12．カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦　伊藤昭道　後口伊志樹　佐藤成哉　佐藤実芳
冨安玲子　渡辺かよ子　羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の８テーマに別れて演習を行なう。

（１）福祉－ボランティア活動の在り方－（伊藤昭道）
（２）学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
（３）みんなの学校問題（小栗正彦）
（４）人間と自然環境（佐藤成哉）
（５）社会と子育て（佐藤実芳）
（６）ジェンダーと教育（冨安玲子）
（７）生涯学習における学校（渡辺かよ子）
（８）国際化を考える（羽場俊秀）

【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

※印は後期日程（於　星が丘）

1．全体、各テーマ別　８月10日　※１月30日
　（１）総合演習とは、これからのすすめ方
　（２）各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
　（３）各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2．８月28日　※２月19日
　課題レポートの提出（必要部数の印刷）
3．各テーマ別　８月31日　※２月22日
　（１）課題レポートについて報告、質疑応答
4．各テーマ別　９月７日　※２月29日
　（１）グループとして課題について整理、代表者の選出
5．全体　９月12日　※３月５日
　（１）グループ代表者の発表、担当教員の指導
　（２）感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかり確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

1．教育実習の意義と目的
　・前年度実習の様子
　・「先輩からの一言」
2．教育実習の内容と方法
　・教育実習の領域
　・教育実習の方法
3．教育実習記録
　・実習記録の意義
　・実習記録の方法
4．授業研究
　・教材研究、教具の意義
　・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5．教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6．介護体験事前指導
　・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
　・特別支援教育諸学校教育の理解
　・障害児（者）介護への心構え
7．介護体験事後指導
8．まとめ

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」を使用。

教育実習Ⅰ

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での３週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

（１）学級担任として
　朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
（２）教科担任として
　前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
　後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
（３）特別活動として
　学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での２週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

（1）学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

（2）教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

（3）特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
　（1）近代化への萌芽
　（2）海外視察と帰国後の動向
　（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
　（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
　（1）学校教育における国際理解教育
　（2）在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．生涯学習理念の成立と発展
2．生涯学習実践の課題
3．生涯学習と社会
4．生涯学習と人間
5．社会教育の意義
6．社会教育施設の概要
7．社会教育の内容・方法・形態
8．社会教育指導者
9．総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】
学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業の目標】
司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】
第１時限　講義の進め方と評価の方法などについて
第２時限　あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということは。
第３時限　学校図書館の理念と教育的意義
第４時限　学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第５・６時限　学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第７時限　教育行政と学校図書館
第８時限　学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第９時限　学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
学校図書館メディアの内容と構成
第10時限　司書教諭の役割とその問題点
第11時限　生徒たちに対する読書指導のあり方
・君達が読ませたいと思う本、君たちに読んでもらいたい本
第12時限　レファレンスのあり方
何をどう調べるか
第13時限　学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限　いま「本の世界」で問題になっていること
最終回　試験

【評価方法】
課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

学校図書館メディアの構成

枝元益祐

【授業の概要】
情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】
1．学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。
2．学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
3．学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
4．これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】
1．学校教育における学校図書館メディアの効果（総論）
2．学校教育に寄与するメディア群の特性の把握
（1）現在の学校図書館メディアの実態分析
（2）児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
（3）児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
3．教育の情報化に寄与する学校図書館活動
（1）学校教育における情報メディアと学校図書館メディアとの関連
（2）教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア
（3）教科教育および調べ学習・総合学習に有益な学校図書館メディア構成
4．学校図書館メディアの組織化
（1）分類の意義と分類作業の基本
（2）目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化
（3）子ども（児童・生徒）への資料提供

【評価方法】
授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。適宜教材資料を配布する。

【参考文献・資料】
学校図書館メディアの構成（小田光宏編　樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務　新改訂第３版　第一法規）

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】
学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。
この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。
また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】
学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。
そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】
1．学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論）
2．司書教諭の専門性と学習支援
3．学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
4．発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
5．情報メディア活用能力と学校図書館活動
6．学校図書館における情報サービスと学習指導
7．公教育と学校図書館及び学習指導の意義

【評価方法】
授業ないでの課題及び試験を総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】
特になし

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】
現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。
児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】
人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。
人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】
1．読書のよろこび
（1）読書との出会いとよろこび――先人の読書経験から学ぶ
2．人間形成と読書
（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
（2）少年期・青年期における読書との出会い
（3）読書による、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
（1）家庭・友人間での読書、対話、読書会
（2）学区図書館を利用した共同研究
5．読書の技術
（1）情報化時代の読書のあり方
（2）情報収集のための「読書」と思索のための読書
（3）愛読書、好きな作家

【評価方法】
出席状況及びレポートによる。

【テキスト】
プリントを配布する。

情報メディアの活用

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあって、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1．学校図書館と情報機器
　（1）学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
　（2）学校図書館に設置する情報機器
2．学校図書館とコンピュータとの関わり
　（1）図書検索とコンピュータ（OPAC）
　（2）インターネットを使用しての資料の収集
3．学校図書館の情報メディアの活用
　（1）視覚メディアとしてのVTR等
　（2）聴覚メディアとしてのDVD、CD等
　（3）活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
　（4）情報メディアの今後の動向とその対応

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

博物館概論

柴垣勇夫

【授業の概要】
博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

【授業の目標】
学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

【授業計画】
1）はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
2）博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
3）博物館の始原… 博物館の始原をたずねてみる。
4）博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
5）近代博物館の出発I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
6）近代博物館の出発II…市民への公開がなされていく過程を考える。
7）ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
8）アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
9）日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
・幕末から明治期にかけての博物館の出発
・国威の宣揚と博物館
・通俗教育による教化と博物館
・十五年戦争と博物館
10）博物館法の概要
11）博物館の新しい動き
・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
・最近の博物館組織

【評価方法】
・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川正一

【授業の概要】
「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。
次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】
この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】
博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銹治『博物館学論考』(1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】
学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論 I

柴垣勇夫

【授業の概要】
博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】
学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】
1）博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
2）博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
3）博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
4）博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
5）学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
6）予算など…博物館のマネージメントについて考える。
7）博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
8）博物館と情報その１…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
9）博物館と情報その２…博物館での情報提供のあり方を探る。
10）博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
11）文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

【評価方法】
・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】
愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】
この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】
次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銹治　1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】
本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論 II

柴垣勇夫

【授業の概要】
博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】
学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】
1）「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
2）博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
　a　資料の収集
　b　資料の取扱い
　　・保存箱の種類と取扱い
　　・掛軸の扱いと掛け方
　　・古文書　・和装本の取扱い
　　・やきもの　・茶碗の取扱い
　　・瓦のみかたと取扱い
　　・刀、太刀のみかたと取扱い
　c　資料の整理・保存
　d　資料の保全
3）資料情報の管理について、その実際を探る。
4）博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】
・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 II

赤羽一郎

【授業の概要】
博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】
博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

【授業計画】
1．博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2．資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3．資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
　やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4．資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5．資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6．資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7．資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
　また、４年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】
出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館学各論 II

瀬川貴文

【授業の概要】
博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の３つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】
博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】
履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。
（a）博物館と博物館資料
（b）資料を記録する技術
　拓本・実測・写真など。
（c）資料を扱う技術
　掛け軸・巻子・和本・陶磁器・考古資料など。
（d）資料を保管・保存する技術
　ドキュメンテーション・保存科学など。
（e）博物館と調査・研究

【評価方法】
実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、（時間内の）小テストの結果も勘案する。

【参考文献・資料】
随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館実習

柴垣勇夫

【授業の概要】
展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】
学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】
1　展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
　1）展示とは
　2）展示のポイント
　　・動線　・視線　・照明　・温度　・湿度
　3）展示の施設
　4）展示のプロセス
　5）展示と保全
2　生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
3　学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
　1）博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
　2）館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
　3）海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
　4）県外実習……２）、３）に参加できない者は、９月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】
・演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

赤羽一郎

【授業の概要】
学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業の目標】
展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。
また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

【授業計画】
1．展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2．展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3．展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4．展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5．展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。
授業以外に、
●土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
●夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】
授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】
新訂博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

川合 剛

【授業の概要】
「展示」は、博物館と利用者とを結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業の目標】
実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】
「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
（a）展示とは
（b）展示のプロセス
（c）展示の構成要素
（d）展示と資料保全
（e）着想から実施まで
（f）解説の方法と印刷物
（g）まとめ
＊1　土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
＊2　夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
＊3　夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
＊2、＊3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】
実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、時間内の小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】
『博物館学概論』（長谷川銹治　戸谷印刷）。

【参考文献・資料】
授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】
現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。
このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】
わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】
1．生涯学習理念の成立と発展
2．生涯学習実践の課題
3．生涯学習と社会
4．生涯学習と人間
5．社会教育の意義
6．社会教育施設の概要
7．社会教育の内容・方法・形態
8．社会教育指導者
9．総括

【評価方法】
おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】
テキストは使用しない。

【参考文献・資料】
授業中に参考文献を適宜紹介する。

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】
情報社会における視聴覚教育の特性や情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】
視聴覚教育の意義・役割を理解する。情報メディアの特性を把握し送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】
1　視聴覚教育の目標
　1－1　視聴覚教育の意義
　1－2　視聴覚教育の機能
　1－3　視聴覚教育の役割と特性

2　宗教における視聴覚の役割
　2－1　宗教における荘厳
　2－2　宗教における音声
　2－3　宗教における絵画・彫刻

3　情報の活用とリテラシー
　3－1　情報とメディア
　3－2　情報の記録と保存
　3－3　情報の信憑性
　3－4　情報活用能力の育成
　3－5　プレゼンテーションの意義と機能
　3－6　情報モラルとセキュリティー

4　博物館・美術館におけるプレゼンテーション
　4－1　展示の機能と効果
　4－2　学芸員の職務・役割
　4－3　視聴覚資料の鑑賞

【評価方法】
毎時の小レポート、指示するレポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】
特になし　プリントを配布

【参考文献・資料】
メディア・リテラシー（宮谷明子著、岩波新書）
その他　授業時に指示する

教育学概論

渡辺かよ子

【授業の概要】
現代世界は多くの社会問題を抱えている。教育問題はこれらの社会問題の一つであると同時に、これらの有効な解決方法の一つでもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えと解決の試みを教育と社会の連関から考察していく。

【授業の目標】
教育学の基礎知識の習得と現代社会教育課題の理解を通じ、社会と教育の関連に関心を喚起する。

【授業計画】
1．オリエンテーション：教育と教育学
2．教育の思想と歴史：近代以前と近代以後
3．教育制度：各国の教育行政と学校制度
4．教育内容と教育課程
5．教育方法
6．家庭教育としつけ：教育の比較文化
7．社会教育と生涯学習
8．総括：人権としての教育

【評価方法】
レポート。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫　放送大学教育振興会）

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】
なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】
日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】
1．民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】
中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

美術史

高橋秀治

【授業の概要】
美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】
美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】
1～4　印象派からシュルレアリスムへ
・産業革命と芸術
・写真と絵画
・時間表現
・心理学

5～8　激動の時代と美術
・第一次世界大戦
・反芸術
・第二次世界大戦
・工業社会

9～12　アメリカ美術の時代
・巨大絵画
・アメリカン・ドリーム
・文明の廃棄物
・エコロジー

13～15　ニューメディアと美術
・ニューメディア
・身体表現

【評価方法】
出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】
とくになし

【参考文献・資料】
必要により授業内で紹介する。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】
学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを顕在化・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、つまり「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。近年は自然科学分野と共に、この「時計」と「戸籍」を解明するための作業が活発に行われている。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、文化人類学、民俗学、さらには文献史学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、つまり「学際」の途を歩んでいる。
しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからでもある。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物といった考古資料を活用する際に、欠くことのできない視点であると考えたい。
講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業の目標】
多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】
1　考古学の理念と方法論
2　日本考古学の発展　ア　原始
3　〃　イ　古代・中世
4　〃　ウ　近世以降
5　文化財としての遺跡・遺物
随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】
出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

【テキスト】
講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】
特になし。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（DVD・OHC・地図ソフトなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解読することができるようになることを目標としている。

【授業計画】

1．履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2．歴史地理学概説
3．中国と日本のの自然地理を知る
4．自然地理と歴史の関係概説　史前期から近代まで
　ユーラシア大陸の歴史と中国の統治範囲
　中国歴代王朝と都の位置関係
5．中国人の地域概念
　『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6．考古学上の現状
　夏殷周三代の歴史とその遺跡
7．気候変動と歴史の関係
8．まとめ

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。
期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化　中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修　新潮社）
また、授業中に各種文献を紹介する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．生涯学習理念の成立と発展
2．生涯学習実践の課題
3．生涯学習と社会
4．生涯学習と人間
5．社会教育の意義
6．社会教育施設の概要
7．社会教育の内容・方法・形態
8．社会教育指導者
9．総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1．情報と知識の研究と実務に関わる分野
　図書館学/情報学/図書館情報学
　図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2．情報の概念
　概念・考え方・観点・立場
　定義の多様性と現象の多面性
　情報概念の歴史/情報・知識・データ
　定義の整理のための枠組み/構造的な理解
　認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3．情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

「図書館情報学概論I」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

【授業計画】

1．情報の流通過程
　情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2．図書館・情報サービスの世界
　構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3．協力と競合
　図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4．図書館員と情報専門職の世界
5．図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館経営論

雨森弘行

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館の存在理由についての哲学をしっかり身につけるとともに、図書館に対する社会の要請・期待は何か、それに図書館はどのように応えるべきなのか、応え得るのかについて、図書館経営に係る計画策定・組織機構・管理運営等の在り方について、実際例を参考にしながら理解を深める。

【授業計画】

1．開講に当たって（受講の動機、目的、目標の確認）
2．図書館経営の意義
3．自治体行政と図書館
4．図書館業務の理論と実際
5．図書館の組織
6．図書館の職員
7．図書館の計画とマーケティング
8．図書館の施設整備計画
9．図書館ネットワークの形成
10．図書館業務・サービスの評価
11．まとめ

【評価方法】

出席点、小レポート、最終レポートにより総合評価する。

【テキスト】

改訂「図書館経営論」（最新刊）（高山正也他編著　樹村房）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。 社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論I」では、社会の多様化と情報の多様化と厖大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業の目標】

旧来メディアおよび電子化の進む情報メディアなど、情報サービス機関として図書館が直面する諸問題について理解し、社会環境の中で図書館に求められる情報サービスの内容と多様性に対する知識と理解を深め、図書館および図書館員の可能性について考える。

【授業計画】

1．今日の情報化社会
2．ICT（情報通信）環境と図書館
3．図書館における情報サービスの意義
4．図書館情報サービスの事例
5．図書館種別の情報サービス
6．現代社会と図書館情報サービスの諸問題

上記内容について、講義を中心に行います。
適宜、小課題やレポート等を課します。
受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 II

廣田慈子

【授業の概要】

「情報サービス基礎論I」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義を理解した上で、伝統的な情報サービスの必要性および新しい社会環境・技術環境に応対した情報サービスについて自らの理解を深める。

【授業計画】

1．図書館における「情報サービス」
2．伝統的情報サービスの展開
3．図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
　・貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4．図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
　・資料組織化／蔵書構築／等
5．情報通信技術（ICT）環境の変化と図書館サービスの変化
6．社会環境の変化と図書館サービスの変化
7．求められる「図書館の情報サービス」

上記内容について、講義を中心に行います。
適宜小課題やレポート等を課します。
受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配布資料を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

千代由利

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習を通して実践する。

【授業計画】

1．レファレンスサービス概論
2．各種情報資源の評価分析・利用方法
3．インターネット情報源
4．図書・雑誌の探索
5．出版社、書店、電子出版の情報源
6．新聞・新聞記事の探索
7．言葉・事物・事象に関する情報の探索
8．政府情報、統計情報の探索
9．人物・組織の探索
10．地理的情報の探索
11．歴史的情報の探索

【評価方法】

出席状況、演習レポート等により評価する。

【テキスト】

『レファレンスサービス演習　（改訂版）』（山本順一編著　理想社　2006）（新図書館情報学シリーズ６）

【参考文献・資料】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著　丸善）
情報源としてのレファレンスブックス（新版）（長澤雅男、石黒祐子著　日本図書館協会）

情報検索演習 II（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文の特徴
　抄録・索引誌
3．CD-ROM検索
4．シソーラス
5．各種オンライン情報検索システム
　JDream
　DIALOG
　CSA
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習 II（学術情報の探索）

後藤宣子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文の特徴
　抄録・索引誌
3．CD-ROM検索
4．シソーラス
5．各種オンライン情報検索システム
　JDream
　DIALOG
　CSA
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習 III（情報と文献の探索）

後藤宣子

【授業の概要】

情報検索演習I（１年次必修）および情報検索演習II（２年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I（１年次必修）および情報検索演習II（２年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］
1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、LLIS（DIALOG）、CiNii（NII）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習 III（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習I（１年次必修）および情報検索演習II（２年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I（１年次必修）および情報検索演習II（２年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］
1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、LLIS（DIALOG）、CiNii（NII）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
　（1）図書
　出版流通過程と制度
　オンライン書店、オンデマンド出版
　（2）雑誌
　学術雑誌の機能、査読制度
　雑誌論文の構成
　抄録作成法、引用法、
　プレプリント、e－print
　レター、editorial comment
　（3）新聞
　新聞の流通制度
　新聞記事の構成
　（4）会議資料
　学会、会議録
　（5）特許資料
　特許制度
　パテントファミリー、引用特許
　（6）規格票
　規格制度、情報関連の標準化活動
　（7）データベース
　情報検索システムの歴史
　検索技術、シソーラス
　（8）インターネット
　ネットワーク情報資源の特徴
　WWWの評価
　Web citation、メタデータ
　ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e－print
レター、editorial comment
（3）新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
（4）会議資料
学会、会議録
（5）特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
（8）インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論 IV（人文社会情報メディア）

藤野寛之

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から，学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解する。

【授業計画】

1　学問分野と情報メディア
2　自然科学分野と人文・社会科学分野
3　人文・社会情報メディア
（1）美術・音楽
（2）文学
（3）言語
（4）歴史
（5）地理
（6）ビジネス（経済、経営、企業情報等）
（7）法律
（8）図書館情報学
（9）人物
（10）その他
4　情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

出席状況、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

専門資料論〔JLA図書館情報学テキストシリーズ８〕（三浦逸雄、野末俊比古共編著　日本図書館協会）。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報メディア論 V（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1．環境としての学術情報
2．文献情報と文献調査
3．学術雑誌の歴史と生態
4．総合誌、レビュー誌、レター誌
5．日本からの英文論文発表
6．主要海外誌への日本からの発表傾向
7．生物医学雑誌への統一投稿規程
8．オーサーシップからみた学術論文
9．出版倫理と利害の衝突
10．ニュースメディアと学術雑誌
11．レフェリーシステム
12．一流誌への発表
13．インパクトファクターの批判的吟味
14．電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。参考文献等はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

平常点、レポートで評価する

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert，J.著　日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson，J.W.著　出版同人）
歴史としての学問（中山茂著　中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著　中外医学社）
医学文献サーチガイド　第２版（山崎茂明著　日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著　丸善）

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。
目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。
目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

第１回　情報の組織化
第２回　目録
第３回　書誌コントロール
第４回　書誌ユーティリティ
第５回　目録規則
第６回　記述目録（１）AACR２r、NCR
第７回　記述目録（２）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
第８回　記述目録（３）各種記述フォーマット
第９回　メタデータ
第10回　主題目録（１）概要
第11回　主題目録（２）分類法
第12回　主題目録（３）主要分類法
第13回　主題目録（４）主要件名標目表
第14回　期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編　日本図書館協会、2002）
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著　勁草書房、1998）
図書館ネットワーク－書誌ユーティリティの世界－（宮澤彰　丸善、2002）

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の２部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

杉山誠司

【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の２部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

後藤宣子

【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の２部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊 III（児童サービス論）

近藤洋子

【授業の概要】
図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】
図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。
サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。
図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】
（１）子どもの読書と児童図書館
（２）児童図書館の意義と歴史
（３）児童資料の類型、出版・流通
（４）児童資料の特性１　絵本・創作児童文学
（５）児童資料の特性２　昔話・ノンフィクション・その他
（６）児童資料の収集・整理　蔵書構成
（７）資料提供サービス、窓口業務
　　フロアーワーク、レファレンス
（８）集会行事、展示・ＰＲ
（９）児童サービスの技術１　読み聞かせ　ストーリーテリング
（10）児童サービスの技術２　ブックトーク　書評・ブックリスト
（11）児童図書館の企画・運営　施設・設備
（12）児童サービスの対象　ヤングアダルトサービス
（13）類縁機関との連携　学校図書館
（14）児童図書館の現在と今後　見学レポートの発表
（15）ストーリーテリング実習

【評価方法】
出席状況　平常点　図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】
児童サービス論　新訂版（堀川照代編著　日本図書館協会）

【参考文献・資料】
児童サービス論（佐藤凉子編　教育史料出版会）
児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編　教育史料出版会)

情報学 III（図書館と情報検索の歴史）

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1．古代文明のメディアと情報・知識活動
2．ギリシア・ローマにおける進展
3．中世の学術と書物・図書館
4．印刷革命

【評価方法】

出席状況、定期試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（B. C. ヴィッカリー著〔村主朋英訳〕 勁草書房）。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報学 IV（図書館と情報検索の歴史）

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお，マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので，それらの内容に期待する学生には，別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1．近代の動向
2．図書館の世紀
　（1）アメリカ
　（2）イギリス
　（3）その他
3．書誌とドキュメンテーション
4．情報メディア技術の発達
5．20世紀の情報流通システムと情報検索
6．わが国の図書館、情報流通のあゆみ
7．各国の図書館、情報流通の比較
8．各国の図書館・情報政策の変遷

【評価方法】

出席状況、定期試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（B. C. ヴィッカリー著〔村主朋英訳〕 勁草書房）。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報メディア論 I（マルチメディア）

楓 森博

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1）ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
2）メディアとは何か
3）情報機器の発展経緯と種類、機能
4）情報メディアの発展経緯と特性
5）視聴覚メディアの種類と特性
6）コンピュータの基本的な仕組み
7）図書館の機械化
8）データベースと情報検索
9）メディアの多様化と情報技術
10）インターネットについての基礎知識
11）インターネットによる情報発信
12）電子情報と知的所有権

【評価方法】

（1）出席状況（2）定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

初級簿記（３級程度）　＊基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。前期は２コマ(３時間)ずつ週２回のペースで、後期は２コマ（３時間）ずつ週１回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定３級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定３級に合格すること。

【授業計画】

第１回　簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
第２回　試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
第３回　手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
第４回　その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
第５回　主要簿および補助簿、伝票
第６回　直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
第７回　決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
第８回　決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
第９回　決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
第10回　直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
第11回　直前答練第１回、解説
第12回　直前答練第２回、解説
第13回　直前答練第３回、解説
第14回　全国公開模擬試験、解説
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ａ　＊商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（２級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　簿記一巡、固定資産
第２回　減価償却、銀行勘定調整表、引当金
第３回　その他の引当金、商品の評価、税金
第４回　株式の発行、利益処分
第５回　会社の合併、社債の発行、決算整理
第６回　社債の償還、決算法、財務諸表
第７回　伝票会計
第８回　帳簿組織
第９回　特殊商品売買
第10回　仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
第11回　債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
第12回　本支店会計
第13回　総まとめ（１）
第14回　総まとめ（２）
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ｂ　＊工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（２級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
第２回　材料費会計
第３回　労務費会計
第４回　経費会計、製造間接費会計
第５回　工企業の財務諸表
第６回　部門別会計、工場会計
第７回　工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
第８回　単純総合原価計算
第９回　減損および仕損
第10回　組別・等級別原価計算
第11回　標準原価計算
第12回　損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
第13回　総まとめ（１）
第14回　総まとめ（２）
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ｃ　＊実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は中級簿記（２級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　直前答練第１回、解説
第２回　直前答練第２回、解説
第３回　直前答練第３回、解説
第４回　直前答練第４回、解説
第５回　全国公開模擬試験、解説
第６回　ファイナルチェック問題、解説
第７回　直前総まとめ
第８回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）A　＊商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級を合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、企業会計原則、簿記一巡
第２回　一般販売、特殊商品売買I
第３回　特殊商品売買II
第４回　特殊商品売買III
第５回　棚卸資産
第６回　固定資産I
第７回　固定資産II
第８回　減損会計、繰延資産
第９回　研究開発費、引当金I
第10回　引当金II、退職給付会計I
第11回　退職給付会計II、社債I
第12回　社債II、資本I
第13回　資本II
第14回　合併会計、会社分割
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）B　＊会計学

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　現金および預金、債権、有価証券
第２回　金融資産および金融負債、デリバティブ取引
第３回　ヘッジ会計、為替換算会計
第４回　外貨建取引処理基準、為替予約
第５回　税効果会計、一時差異等の会計処理I
第６回　一時差異等の会計処理II
第７回　本支店会計
第８回　連結会計、取得日連結
第９回　連結会計、取得後連結I
第10回　連結会計、取得後連結II
第11回　連結会計、持分の段階取得、売却、増資
第12回　持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
第13回　キャッシュ・フロー会計
第14回　連結キャッシュ・フロー会計
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）C　＊原価計算

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、原価・営業量・利益関係の分析I
第２回　原価・営業量・利益関係の分析II
第３回　予算編成
第４回　予算統制I
第５回　予算統制II、売上数量差異の分析
第６回　事業部制、セグメント別損益計算
第７回　業務的意思決定I
第８回　業務的意思決定II
第９回　業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
第10回　構造的意思決定I、設備投資の意思決定
第11回　構造的意思決定II
第12回　構造的意思決定III
第13回　戦略的原価計算I、品質原価計算
第14回　戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）D　＊工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（１級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、単純個別原価計算
第２回　部門別個別原価計算
第３回　部門別計算I
第４回　部門別計算II
第５回　実際総合原価計算I、総論
第６回　全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
第７回　実際総合原価計算II、減損、仕損
第８回　実際総合原価計算III、異常減損・仕損
第９回　工程別総合原価計算
第10回　組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
第11回　標準原価計算I
第12回　標準原価計算II、歩減が発生する場合
第13回　標準原価計算III、配合差異・歩留差異
第14回　工程別標準原価計算、直接標準原価計算
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）Ｅ　＊実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は上級簿記（１級程度）A、B、C、Dのうちいずれか１つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　直前答練第１回、解説
第２回　直前答練第２回、解説
第３回　直前答練第３回、解説
第４回　直前答練第４回、解説
第５回　全国公開模擬試験、解説
第６回　ファイナルチェック問題、解説
第７回　直前総まとめ
第８回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記演習

浅野敬志

【授業の概要】

この授業は，初級簿記（３級程度）の単位を修得した学生で，簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。２コマ（３時間）ずつ，週１回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】

日商簿記検定３級に合格すること。

【授業計画】

１．商品売買
２．手形取引
３．有価証券
４．固定資産
５．決算手続き
６．精算表の作成
７．単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習Ａ　＊商業簿記

浅野敬志

【授業の概要】

この授業は，中級簿記（２級程度）ＡまたはＢの単位を修得した学生で，簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。２コマ（３時間）ずつ，週１回のペースで講義を行う。日商簿記検定２級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく２級の範囲である「工業簿記」は，中級簿記演習Ａで取り扱うので，同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

１．商品・特殊商品売買取引
２．手形取引
３．株式会社会計
４．本支店会計
５．帳簿組織
６．決算整理
７．単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習Ｂ　＊工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

この授業は，中級簿記（２級程度）ＡまたはＢの単位を修得した学生で，簿記検定試験の再受験を希望するのみが履修できる。

２コマ（３時間）ずつ，週１回のペースで講義を行う。日商簿記検定２級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

同じく２級の範囲である「商業簿記」は，中級簿記演習Ａで取り扱うので，同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

１.工業簿記の基礎，材料費・労務費・経費の計算
２.製造間接費の計算，部門費の計算
３.個別原価計算
４.総合原価計算
５.標準原価計算
６.直接原価計算
７.単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

英語海外セミナー Ⅰ（米国）

中郷 慶

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約３週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。
期間は８月中旬から９月中旬の約１ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける１日（9:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：
午前　少人数制英会話クラスと総合英語の授業
午後　アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業の目標】

＊英語表現能力を高めること。
＊アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
＊ウエスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
＊海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

英語海外セミナー Ⅱ（オーストラリア）

TOFF, Mika

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to really use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして、毎年２月中旬から約１ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。
（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。
（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション
（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ
（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England.
The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students....they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.
In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating,
karaoke evening(with hostparents),luncheon(with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1．南京師範大学において４週間の中国語研修を行う。
◎　月曜～金曜の午前中は８：00～11：30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
◎　午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
◎　夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
◎　土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！
◎　風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。
2．言語文化論Iの講義内容と呼応した５日間ほどの研修旅行。
3．定員は20名程度。
4．今年度の２月中旬から３月中旬にかけて実地する。
5．終了者に２単位を認定する。

【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って２ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の３級を取ることを目標とする。

【授業計画】

４月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。９月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を２回ほど、オリエンテーションを１回実施する。詳しくは掲示を見る。２月中旬に出発し、３月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ（韓国）

担当者未定

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる２泊３日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の８月中の３～４週間
内容：
1．韓国語研修
　a．梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
　b．実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
　c．入門の１段階から最上級の６段階に分けられたクラス編成
　d．専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2．韓国文化研修
　a．芝居鑑賞
　b．板門店の訪問
　c．ホームステイ（２泊３日）
3．日韓学生共同プログラム
　a．毎週１回程度の頻度
　b．テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
　c．テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪（文化財踏査）」、「韓国の民俗と礼節」など
4．その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活で必要な意思疎通のための韓国語（サバイバル韓国語）を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

４～５月：ガイダンス、参加者の募集および決定
６～７月：数回の事前研修
８月：現地研修
９～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,５」（梨花女子大学校出版部）中
その他は特になし

Japan's Global Interface I

藤井正志　森下允之　福本明子　真田幸光　JOLLY, James A.

【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に議論し、日本社会・文化をより深く認識する。同時に、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan's global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:
- Special Credit-Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通し、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養うこと。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

【授業計画】

Schedule

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	FUJII, Masashi	Development of Japanese Economy
3	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
4	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
5	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
6	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
7	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
8	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
9	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
10	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
11	JOLLY, James	International Business and Law
12	JOLLY, James	International Business and Law
13	JOLLY, James	International Business and Law

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given １/２ hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

Japan's Global Interface II

藤井正志　太田浩司　宮田Susanne　ブイ チ トルン　MOLDEN, Danny T.
JOLLY, James A.　福本明子

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only) -Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通し日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	FUJII, Masashi	Business Society in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
7	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
8	MOLDEN, Danny T	Debate across cultures
9	MOLDEN, Danny T	Debate across cultures
10	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
11	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
12	JOLLY, James	Developing International Business Practices
13	JOLLY, James	Developing International Business Practices

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given １/２ hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

インターンシップ概論

上原 衛

【授業の概要】
学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づける。

【授業の目標】
講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして､その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】
1．ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2．職業と人生について
3．各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4．日本の企業経営について
5．ＮＰＯ/ＮＧＯ/ボランティア活動について
5．ビジネスマナー講座
6．キャリアプランの作成
7．インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】
出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】
随時資料を配布する。

インターンシップ研修

上原 衛　小林三太郎　五島幸一　ブイ チ トルン　浅野敬志
永田 祐　小島祥美

【授業の概要】
学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】
研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして､その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】
夏期または春期に１～２週間程度の期間、企業や公共機関、ＮＰＯなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後に、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。
1．ガイダンス
2．夏期または春期に企業や公共機関、ＮＰＯなどでインターンシップ研修を受ける
3．インターンシップ研修後の成果報告会における発表
4．報告レポートの作成と提出

【評価方法】
企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の３つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】
随時資料を配布する。

コミュニティ・サービスラーニング

小島祥美

【授業の概要】
私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されている。本講義では、受講生全員が地域活動（ボランティア活動）に実際に参加し、実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していく。

【授業の目標】
受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】
1．オリエンテーション
（本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明）
2．ラーニングI
1）地域活動とは？
2）地域活動の意義とその役割
3）地域活動参加にあたっての心構え
4）参加学習と各自の専攻との関連
3．ラーニングII
地域活動参加学習（活動期間は、内容により異なる）
4．ラーニングIII
1）参加学習と各自の専攻との関連
2）総括（前期は９月、後期は２月のうち、１講を一般公開で実施予定）

【評価方法】
出席状況、各課題（レポート、発表）により､「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI･IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】
適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】
ボランティア･ＮＰＯ用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

地域活動総合演習 I

小林三太郎

【授業の概要】
現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な角度から検討する。
また、地域における病院の役割がどのようにあるべきかを考察する。

【授業の目標】
現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、グループワークを通じて、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】
1．ガイダンス
2．文献講読
3．グループワーク

【評価方法】
授業態度とグループワークの評価による。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業の中で適宜紹介する。

地域活動総合演習 II

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいる。とりわけ愛知県においては、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身外国人住民の占める比率が最も高い。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられる。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマを通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていく。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養う。

【授業計画】

＜ステップ１＞

学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした、課題探求型講義を行なう。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会学的に見る方法を学習する。

＜ステップ２＞

実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していく。

＜ステップ３＞

これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、実践的な活動運営まで発展させていく。

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）

日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）